

中館遺跡発掘調査報告

～伊勢市本町・一志町・八日市場町～

2025（令和7）年3月

三重県埋蔵文化財センター

例 言

- 1 本書は、三重県伊勢市本町・一志町・八日市場町に所在する中館遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 本書で報告する発掘調査は、令和2年度から令和5年度にかけて行った、外宮常磐線電線共同溝事業に伴う記録保存調査を実施したものである。
- 3 発掘調査にかかる諸費用は、執行委任を受けて県土整備部が全額負担した。
- 4 発掘調査成果については、本書をもって正報告とする。
- 5 調査は、下記の体制で実施した。

・ 調査主体	三重県教育委員会
・ 調査担当	三重県埋蔵文化財センター
	調査研究1課 主幹兼課長代理 原田 恵理子
	課長代理 櫻井 拓馬
	主幹 萩原 義彦・大川 操
・ 自然科学分析	株式会社パレオ・ラボ（大型植物遺体・貝類同定）
	一般社団法人 文化財科学研究センター（漆塗膜分析・樹種同定）
・ 保存処理	株式会社吉田生物研究所（金属製品）
	一般社団法人 文化財科学研究センター（木製品）
- 6 本書の作成業務は、当センター調査研究1課の大川 操・原田恵理子が執筆を行い、文末にも表記した。編集は大川が行った。また、V章第16表の貝類同定は当センター調査研究1課の中野 環が、遺物写真撮影は同課の田中久生が行った。
- 7 発掘調査及び報告書作成に際し、下記の機関等に多大なるご協力・ご指導を賜った。記して感謝の意を表したい。
伊勢建設事務所事業推進室道路一課、伊勢市情報戦略局文化政策課文化財係（順不同、敬称略）
- 8 調査図面・写真・出土遺物は、三重県埋蔵文化財センターが保管している。

凡 例

- 1 本書では、国土地理院発行の1:25,000数値地図および2017 三重県共有デジタル地図（平成29年整理）などの地図類を用い、一部に加筆修正をした図を用いている。なお、三重県共有デジタル地図は、三重県市町総合事務組管理者の承認を得て使用している（承認番号：令和5年4月6日付け三総合第1号）。
- 2 本書で示す方位は、世界測地系第VI座標による座標北である。
- 3 本書で表記する土色は、小山正忠・竹原秀雄編『新版標準土色帖』（財日本色彩研究所 1997 初版）に、土器等の色調は、上記ならびに『COLOR GUIDE 日本の伝統色』第8版（DIC グラフィックス株式会社 1979 年第1版）に拠った。
- 4 本書で使用する土器・陶磁器の「椀」「碗」については、土師器には「椀」、陶器・磁器については「碗」を用いた。
- 5 本書では、以下のように遺構の略記号を使用している。

SE：井戸 SK：土坑

目次

I	前言	1
1	調査に至る経緯	1
2	調査の経過	1
3	発掘調査と記録の方法	2
4	整理作業とその方法	2
II	位置と環境	3
1	地理的環境	3
2	歴史的環境	3
III	基本層序	6
IV	遺構	7
V	出土遺物	12
1	令和3年度調査	12
2	令和4年度調査	13
3	令和5年度調査	17
VI	自然科学分析	46
1	分析の目的	46
2	中館遺跡から出土した大型植物遺体	46
3	中館遺跡出土の貝類同定	47
4	中館遺跡における漆製品の塗膜分析	47
5	中館遺跡における樹種同定	51
VII	調査のまとめ	55
1	遺跡の消長	55
2	出土遺物の特徴	55
3	まとめ	56

図版目次

第1図	周辺遺跡地図	4	第14図	出土遺物実測図6	23
第2図	調査坑位置図	5	第15図	出土遺物実測図7	24
第3図	令和3年度調査坑平面略測図・土層略測図1	6	第16図	出土遺物実測図8	26
第4図	令和3年度調査坑平面略測図・土層略測図2	7	第17図	出土遺物実測図9	27
第5図	令和4年度調査坑平面略測図・土層略測図1	8	第18図	出土遺物実測図10	28
第6図	令和5年度調査坑平面略測図・土層略測図1	9	第19図	出土遺物実測図11	29
第7図	令和5年度調査坑平面略測図・土層略測図2	10	第20図	出土遺物実測図12	30
第8図	基本層序模式図	11	第21図	中館遺跡の調査坑No.3から出土した大型植物遺体	47
第9図	出土遺物実測図1	18	第22図	中館遺跡出土の貝類	48
第10図	出土遺物実測図2	19	第23図	中館遺跡における蛍光X線分析結果	49
第11図	出土遺物実測図3	20	第24図	中館遺跡の塗膜分析写真	50
第12図	出土遺物実測図4	21	第25図	中館遺跡の木材顕微鏡写真	54
第13図	出土遺物実測図5	22	第26図	中館遺跡出土遺物の各比率	56

表目次

第1表	遺物観察表1	31	第11表	遺物観察表11	41
第2表	遺物観察表2	32	第12表	遺物観察表12	42
第3表	遺物観察表3	33	第13表	遺物観察表13	43
第4表	遺物観察表4	34	第14表	遺物観察表14	44
第5表	遺物観察表5	35	第15表	遺物観察表15	45
第6表	遺物観察表6	36	第16表	出土貝類一覧表	45
第7表	遺物観察表7	37	第17表	中館遺跡の調査坑No.3から出土した大型植物遺体	46
第8表	遺物観察表8	38	第18表	中館遺跡出土貝類の同定結果	47
第9表	遺物観察表9	39	第19表	樹種同定結果	52
第10表	遺物観察表10	40	第20表	中館遺跡主な出土土器組成	56

写真一覧

写真図版1	主要地方道伊勢南島線外宮北交差点付近(西から)	写真図版3	出土遺物1
	令和3年度調査坑No.1伊勢市観光協会付近(北から)	写真図版4	出土遺物2
写真図版2	調査坑R3-No.1(南から)	写真図版5	出土遺物3
	調査坑R3-No.2(東から)	写真図版6	出土遺物4
	調査坑R3-No.3(西から)	写真図版7	出土遺物5
	調査坑R3-No.4(東から)	写真図版8	出土遺物6
	調査坑R4-No.4東壁面土層(西から)	写真図版9	出土遺物7
	調査坑R4-No.4土器出土状況	写真図版10	出土遺物8
	調査坑R5-No.2東壁面土層(西から)	写真図版11	出土遺物9・出土貝類
	調査坑R5-No.2土器出土状況		

I 前 言

1 調査に至る経緯

中館遺跡の範囲に含まれる道路敷において、三重県県土整備部が電線の地中埋設化を目的とする共同電線溝整備事業を実施することとなった。

双方で当該文化財の取り扱いについて協議を行った結果、発掘調査を実施していくこととなった。

2 調査の経過

(1) 調査の経過概要

中館遺跡は、外宮前の微高地上に位置し、伊勢市本町・一志町・八日市場町にかけて所在する。平成24年度に高河原遺跡で本遺跡と同様の発掘調査が行われた。

令和2年度末に、最初の発掘調査を行い、既設埋管とその深さ等を確認した。翌年度に4箇所の調査を行い、令和4年度には、7箇所、令和5年度には9箇所、で、堆積土層の確認と、遺構の有無確認、出土遺物の確認を行った。

(2) 調査の状況

令和2年度 年度末に、電話線・水道管理設箇所を確認するための調査を実施した。

令和3年度 令和3年度は、当該県道の外宮北交差点から約220m西へ、道路敷の工事地点4箇所で、豊受宮宮域内遺跡隣接地として発掘調査を実施した(R3-1~4区)。調査は、令和3年4月6日から同3年5月31日までの延べ4日間、調査面積は合計42.9㎡である。令和3年度調査区では、調査坑により堆積状況が異なり、湿地状の堆積土から、15世紀末から16世紀以降の土師器が多数出土した。

令和4年度 令和3年度の最西調査坑から西へ約230m地点までの下り線側で4箇所、R3-2調査坑の向かい側、上り線側の約55m区間で3箇所の、計7箇所で調査を行った(R4-1~7区)。調査は、令和4年5月16日から同年7月26日までの間で7日間と、令和5年2月24日から3月28日までの間

で3日間、延べ10日間にかけて行い、調査面積は合計78.4㎡である。いずれも遺構はなかったものの、R4-2~4の調査坑から旧河道かと思われる堆積が見つかったほか、16世紀以降の土器が少量に出土した。

令和5年度 本年度は、再び外宮北交差点付近に戻り、下り線側の5箇所を令和5年4月11日から同年7月25日にかけて実施した。また年明けの令和6年1月29日から同年2月27日にかけて、延べ13日間調査を行い、調査面積は107.3㎡となった。調査坑R5-1では、2本の木杭の痕跡、調査坑2では、結桶かと思われる井戸跡、調査坑6では土坑などの遺構が確認できたほか、土師器や陶器などが出土した。

(3) 文化財保護法等にかかる諸通知

◎文化財保護法第94条に基づく三重県文化財保護条例第48条第1項(周知の埋蔵文化財における土木工事等の発掘に関する通知)

・令和3年5月31日付け、伊建第472号

(三重県知事から三重県教育委員会教育長あて)

・令和4年5月16日付け、伊建第367号

(三重県知事から三重県教育委員会教育長あて)

・令和4年9月16日付け、伊建第772号

(三重県知事から三重県教育委員会教育長あて)

・令和5年8月14日付け、伊建第653号

(三重県知事から三重県教育委員会教育長あて)

◎文化財保護法第100条第2項(文化財の発見・認定通知)

・遺失物法にかかる文化財の発見・認定通知(伊勢警察署長あて県教育長通知)

令和3年6月16日付、教委第12-4403号(R3年度調査区)

令和5年3月8日付、教委第12-4417号(R4年度調査区)

令和5年8月16日付、教委第12-4504号(R5年度№1~5調査分)

令和6年3月1日付、教委第12-4512号(R5年度№6~9調査分)

3 発掘調査と記録の方法

(1) 調査の方法

調査は、重機による掘削を進め、遺構や遺物が確認されたところで人力掘削に切り替える方法で行った。

(2) 地区設定と遺構番号

調査地は、1.7～2.8m×3.4～6.0m程度の小規模な調査坑である。該当年度に枝番を付けることで調査区の名称とした。「R3-1」とは、令和3年度の1箇所目の調査坑、ということである。

(3) 出土遺物の回収

出土遺物は、出土遺構(層位)と出土年月日を記載した専用のラベルを現地で付与した。また、小地区割りを行っていないため、遺構に伴わない遺物は出土地点や層位がわかる「青灰粘砂」、「灰褐色粘砂排水坑1」といった表記を与えた。遺物類は当センターへ搬送し、洗浄などの作業を行った。

(4) 遺構図面

調査時の状況を、工事図に合わせて記録した。記録は野帳への略図並びに調査日誌の方眼に作成した。調査区の実測図は、上記の記録を基に1/100で作成した。

(5) 遺構写真

調査の状況は、FUJIFILM Fine Pix XP140ほかで撮影し記録をした。

4 整理作業とその方法

(1) 遺物類の整理

調査後、当センターにおいて、洗浄・注記・接合作業を実施した。

出土遺物は、発掘調査担当者が報告書掲載遺物と未掲載遺物に区分した。報告書掲載遺物については、実測図を作成した。報告書掲載遺物については、1点ずつ報告書番号を付したラベルを添付し、収蔵後の混乱を避けている。

出土遺物は、整理の結果をもとに、収蔵庫で保管している。

(2) 図版作成と遺物写真撮影

実測図等が完成した遺物類は、報告書作成のための観察や図版作成を行った。これらの遺物類は、報告書掲載順に収蔵し、報告書完成後の利活用に備えた。また、実測図そのものも、記録保存の一環として保存している。

報告書へ図版掲載した遺物のうち、各調査坑の主なものを抽出して写真撮影を行った。カメラは、デジタル1眼レフ(Nikon D 800 E)を使用して撮影を行った。

(3) 記録類

以上にかかる発掘調査の記録類は、調査関連図面(平面図・土層断面図など)、調査日誌、写真類(デジタル画像)がある。これらは、所定の番号を与え、当センター専用収蔵スペースで保管している。

(原田・大川)

Ⅱ 位置と環境

1 地理的環境

中館遺跡は、三重県の中南部、伊勢市の本町・一志町・八日市場町にかけて所在する。三重県は旧伊勢国・旧志摩国・旧伊賀国・旧紀伊国の一部で構成されており、三重県中南部は旧伊勢国にちなんで中勢地方、南勢地方、また中南部地域と呼ばれている。

中館遺跡周辺の地形的特徴を概観すると、中南部地域である伊勢市の市街地の南、豊受宮（外宮）の門前を東西に県道伊勢南島線が通る。外宮北交差点から西へと緩やかに標高が上がり、現時点では最も高くなる地点が遺跡の西端となる。市街化されて、旧地形が分かりづらくなっているが、宮川右岸下流域に大きく広がる沖積低地の自然堤防上に、断片的に中世以降の遺跡が確認されている。外宮門前である山田の低地部の地形の復元的考察が、高河原遺跡調査時に詳しくなされており、詳細は高河原遺跡の報告書における考察を参照されたい¹⁾。

2 歴史的環境

当遺跡の周辺では、面的に発掘調査を行った地点が極めて少ない。上記の高河原遺跡も当遺跡と同様の調査を行っており、点的な情報を繋げて観察し、絵図等との比較検討することで微地形が推定復元されているため、開発事業等で不時発見された遺物等の評価、位置づけが可能になった。中館遺跡は、近世・参宮街道沿いに立地しており、周辺には中世後期から近世にかけての遺跡が多い。その中でも、豊受宮宮内遺跡（市史）では、弥生時代終末期から古墳時代初頭、平安時代後期から鎌倉時代の遺物が確認されている。古墳時代の遺物としては、外宮南方の山にある高倉山古墳よりも一時期古い須恵器が確認されていて、当該地の古墳時代の様相を考えるうえで重要な地点である²⁾。外宮宮域以外で、奈良・平安時代の遺跡は乏しく、高倉山の北西、通称「天神山」とされる丘陵に、江戸時代からの墓地在り作られており、昭和40年代の墓地造成時に瓦経が発見された、

小町経塚がこれに続く。また、一之木4丁目の絵園公園内で防火水槽埋設の工事中に、陶器碗（山茶碗）が採集されたのみである。鎌倉時代としては、一之木北遺跡で、わずかに土師器小皿片、陶器碗片が散布するのみで、遺構を伴う遺跡としては、伊勢市役所北で土坑から土師器小皿100余点、燈明皿、古瀬戸三筋壺や瀬戸美濃産灰釉折縁皿などが出土した岩瀬西遺跡が知られている。中世後期になると、開発等により破壊されているものの、15～16世紀ごろの土師器小皿・銅片、陶器片、瀬戸仏花瓶などが出土した三宝院跡が八日市場町にあるほか、地誌で、北畠国司兵の防衛のため築かれたとされる村山城跡が、伊勢筋向橋郵便局の裏手に比定されている。

中館遺跡周辺域では、高河原遺跡以外は、土層の層位を踏まえた調査、面的な調査が実施できていないこともあり、遺跡の片鱗に触れる程度の様相把握に留まる市街化域ではあるが、これらの点的な調査履歴の蓄積により、微地形の解明、遺跡の実態解明に結び付けていくことが課題といえる地域であろう。

（大川）

【註】

1) 三重県埋蔵文化財センター 2015 『VI高河原遺跡と近世都市山田～調査のまとめと検討』『高河原遺跡発掘調査報告』

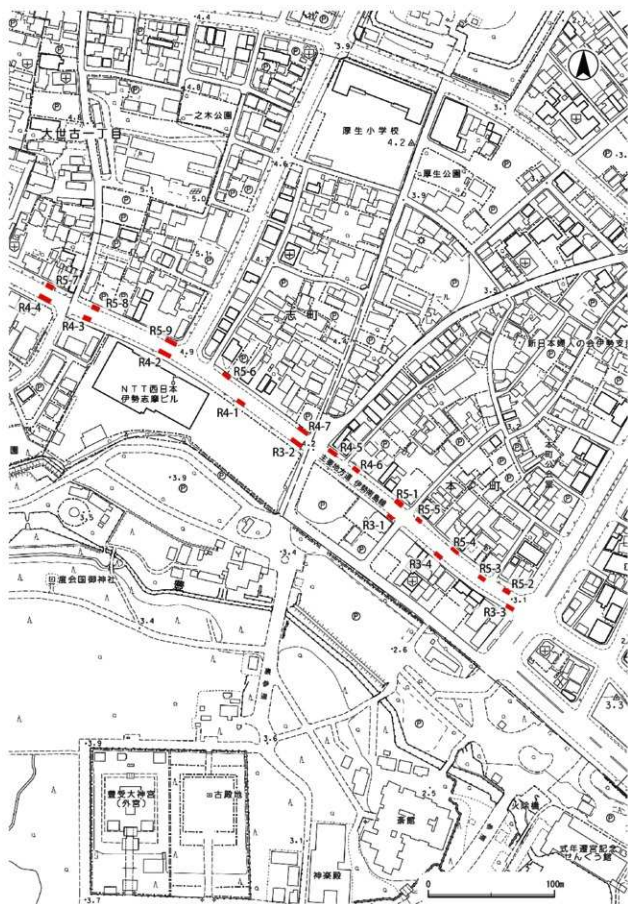
2) 伊勢市 2011 『第三章 遺跡概観 第十二節 明倫地区』『伊勢市史』第六巻 考古編

【参考文献】

・伊勢市 2011 『第三章 遺跡概観 第十節 厚生地区』『伊勢市史』第六巻 考古編

・三重県埋蔵文化財センター 2015 『Ⅱ 遺跡と周辺の諸環境』『高河原遺跡発掘調査報告』





第2図 調査坑位置図 (1 : 3,000)

III 基本層序

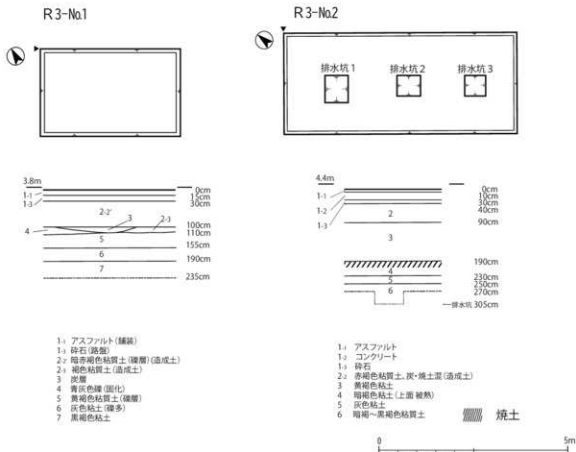
中館遺跡は、標高約3～5mの微高地上に位置している。概ね平坦であるが、全体的に東側へ緩やかに下り勾配に傾斜している。

今回の調査では、工事掘削する深度までしか確認できていないため、調査区間の全ての堆積状況や層位を連続して確認できていない。

基本的に近現代の舗装ならびに造成土以下で、2～3層に分かれる。第1層は、現代の舗装材（アスファルト・コンクリート・インターロッキングブロック）とその路盤材（砕石など）であり、掘削箇所によりその厚みが異なる。第2層は造成土で、一層で厚みがある所、30～50cm程度の造成が複数確

認される箇所があった。第3層以下が、19世紀以前の堆積が確認できる層となっており、黄褐色から褐色の粘質土と焼土・炭層が互層で確認される箇所、礫を含む褐色から灰黄褐色粘質土シルトと炭層・焼土層が互層になる箇所、また、黄褐色から黄灰色粘質土と黒褐色粘砂、同色の粗砂が互層になる箇所があったりと、参宮街道や街並みが立地したと思われる微高地の縁辺部にあたる本調査区間では、調査坑ごとに異なる堆積層の様相が確認された。

上層の方は近世の整地層と思われ、小炭塊を含む焼土や炭層から19世紀代の遺物が出土する地点もあった。粘土質シルトから礫を含むシルト層前後で



第3図 令和3年度調査坑平面略測図・土層略測図1（1：100）

は、間に粗砂・礫層を挟む箇所もあり、遺跡の中心と西端で川の氾濫によると思われる堆積が確認できた。こうした氾濫堆積層の上下にレンズ状に残る

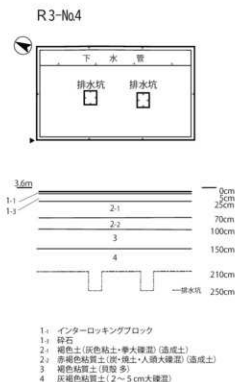
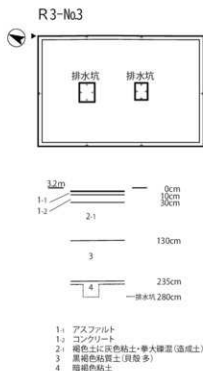
粘質土シルト層から、16～17世紀代の土器類が多く出土した。また、比較的粘性の高い堆積層からは、貝殻や木製品などの有機物も遺存していた。(大川)

IV 遺 構

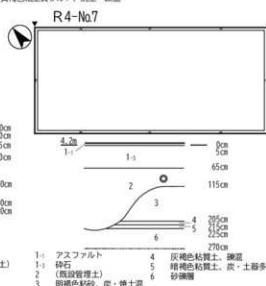
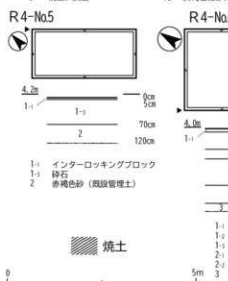
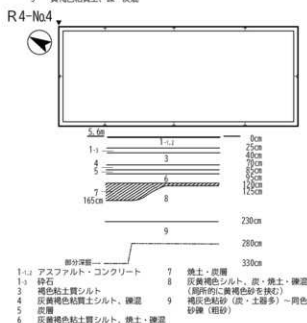
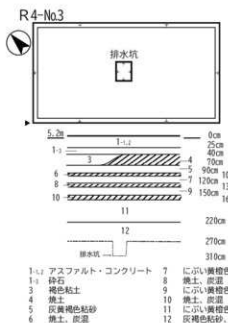
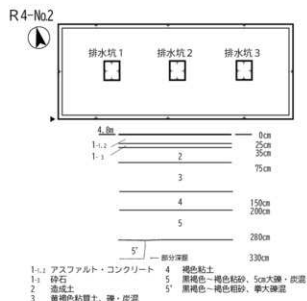
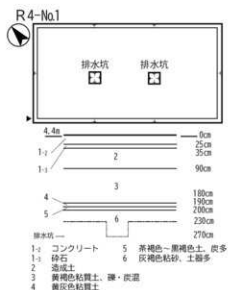
全体的に、狭小な調査坑であったため、20箇所の調査坑の中で遺構はわずかに確認できたのみである。

SE1 (第6図) 令和5年度のNo.3調査坑で、結桶かと思われる井戸跡が、調査坑南東隅で1基検出された。埋設旧水道管直下の検出で全体を把握できなかったが、遺物は出土せず、規模は直径約0.6m程度で江戸時代のものと考えられる。

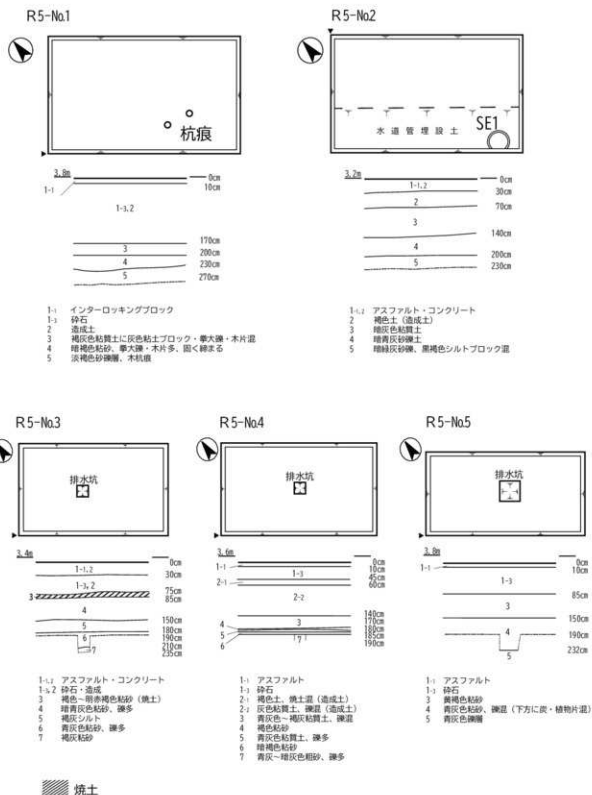
SK2 (第7図) 同じく令和5年度のNo.6調査坑の現地地表下約2.2mから、土坑1基が確認できた。焼土粒や小さい炭塊が混じる暗褐色粘質土の埋土で、長径1.2m、短径0.7mほどの長楕円形、深さは約10～12cm程度の土坑であった。出土遺物は、土器器皿・鍋、鉄釘が出土した。(大川)



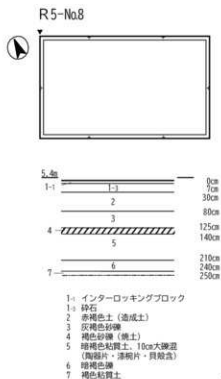
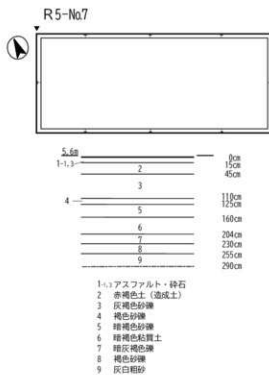
第4図 令和3年度調査坑平面略測図・土層略測図2 (1:100)



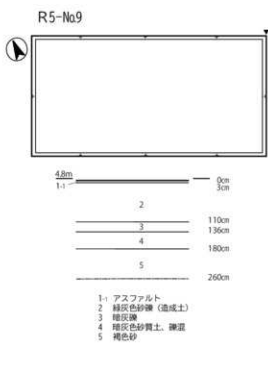
第5図 令和4年度調査坑平面略測図・土層略測図 (1:100)



第6図 令和5年度調査坑平面略測図・土層略測図1 (1:100)

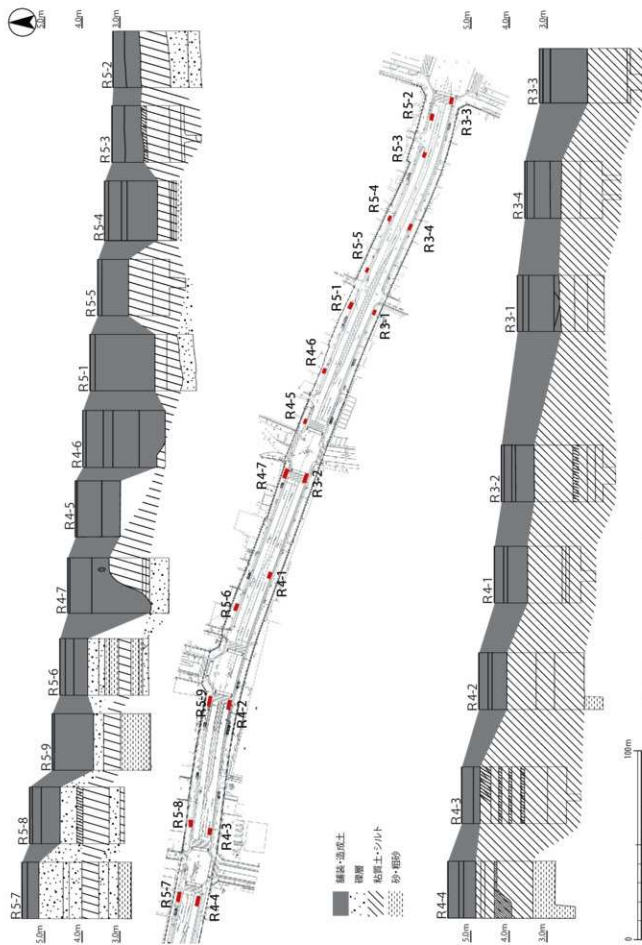


焼土



0 5m

第7図 令和5年度調査坑平面略測図・土層略測図2 (1:100)



第8図 基本層序模式図 (平面 1 : 2,000、土層略測図 V 1 : 100、H 1 : 200)

V 出土遺物

3ヶ年にわたる発掘調査で中世から近世にかけての遺物がコンテナケースに21箱分(重量換算で約154 kg)出土した。図化する遺物の大半は近世の土師器で、陶磁器と少量の鉄製品、木製品、砥石・石白などの石製品を含み、720点を掲載した。年度・工事調査坑別に、出土層位ごとに報告する。出土遺物の分類、時期比定にかかる参考文献は、章末に記載した。

1 令和3年度調査

(1) No.1 調査坑(第9図)

黒褐色粘土層(1~3) 1は南伊勢系土師器皿D形態である。2は瀬戸美濃産陶器丸皿である。底部は碁笥底状となっており、高台が明瞭でない。内面及び外面下半部まで長石釉がかかる。大窠第4段階前半頃の所産か。3は青磁皿である。高台は畳付部分のみ無釉で、釉は貫入が多い。残存部は無文である。

灰色粘土層(4~5) 4は南伊勢系土師器皿B形態である。口径の割に器高が浅い。5は瀬戸美濃産稜皿である。内外面に鉄釉がかかる。大窠第4段階末に比定される。

黄褐色粘質土層(6) 6は国産磁器碗である。高台は畳付部分のみ無釉で、青磁色の地に千歳茶色で口縁端部を着色している。また内面にも同色で松葉様の模様が描かれる。近代以降のものである。

(2) No.2 調査坑(第9図)

黒褐色粘質土層(7~43) 7~33は南伊勢系土師器皿である。7~9はA形態、10~17はB形態、18~25はC形態、26~43はD形態である。B形態の口径は7cm前後~9cm代、C形態は8~11cm前後、D形態は10~13cm前後となる。一部15世紀代のものを含むが概ね16世紀代に取まるとみられる。

34~39は南伊勢系土師器鍋である。概ね伊藤編年第4段階である。口縁端部が上部に立ち上がるもの(38)、内側に折り返し断面が三角形を呈するもの

(35~37・39)などがある。口頸部が内湾するもの(35)、直線的に延びるもの(36・39)、外反するもの(38)など、バラエティーに富んでいる。体部形状までわかる個体は少ないが、体部があまり張らず器高の高いもの(38・39)、体部が張り器高の低いもの(37)がみられる。

40~43は瀬戸美濃産陶器である。40は天目茶碗である。口縁部で上方に延び、口縁端部は玉縁状となる。外面体部下半は露胎である。41・42は反り皿である。腰部から口縁部にかけて大きく外反し、42は端部が波状となる。41は鉄釉が、42は長石釉がそれぞれかかる。概ね大窠第3~4段階前半頃のものの。43は壺であろうか。緩やかに内湾し、端部が肥厚する。内外面に共に鉄釉がかかる。

造成土層・廃土(44~52) 44・45は南伊勢系土師器である。44は小皿である。45は鍋で、第4段階である。

46~48は瀬戸美濃産陶器である。46は志野丸皿で長石釉は貫入が多く入る。47は天目茶碗で、口縁部が上方へ延び、口縁端部は外方へ広がる。体部外面は露胎である。48は描鉢で、口縁内部に段をもち、口縁端部は外方に広がる。いずれも大窠第4段階後半から末のものか。

49は白磁皿D群である。口径が小さく浅いもので、高台は挟りが入る。高台の接地部分のみ無釉である。

50・51は肥前産磁器である。いずれも菊花形に型打ち成形した皿で、見込み中央に菊花文を、その周囲に渦文を配する。17世紀第2四半期頃の所産である。高台は畳付部分のみ無釉である。

52は土師質の土塊片である。表面には長さ5~7mm程度のスサの痕跡が不定方向に認められる。焼締まりがなく、低温焼成された炉壁片か。

黄褐色粘土層(53~56) 53は白磁罐反皿E-2群である。高台は畳付部分のみ無釉である。

54~56は肥前産磁器皿である。55は高台畳付のみ無釉で、内面に草花を描く。56は菊花形に型打ち成形した皿である。

廃土(57~64) 57~63は南伊勢系土師器皿で

ある。57はA形態、58～60はB形態、61・62はC形態、63はD形態である。B形態の口径は7～8cm代である。

64は青花皿である。高台は畳付のみ無釉で、内面見込み部及び外面に絵付けがなされている。

(3) No.3 調査坑 (第10図)

暗褐色粘土層 (65) 南伊勢系土師器羽釜である。口縁部は外面に折り込み、強くヨコナデ調整をする。鈎も強いヨコナデにより、端部は面を持つ。形状から、概ね第3段階のものであろう。

黒褐色粘質土層 (66～103) 66～102は南伊勢系土師器である。66～101は皿である。66～70はA形態、71～82はB形態、83～93はC形態、94～101はD形態である。B形態の口径は8cm前後、C形態は10～11cm代、D形態は10～14cm代となる。概ね15世紀後半から16世紀代のもものとみられる。102は南伊勢系土師器鍋である。小形で、体部外面のハケメは粗い。伊藤編年第3段階に比定される。

103は古瀬戸緑釉小皿である。口縁端部に鉄釉がかかる。藤沢編年古瀬戸後期様式IV期古に相当する。造成土層 (104) 104は瀬戸美濃産陶器天目茶碗である。削出高台で、高台内部はわずかに凹む。外面下半は薄く錆釉がかかる。藤沢編年大塚第4段階に比定される。

(4) No.4 調査坑 (第10図)

灰褐色粘質土層 (105) 南伊勢系土師器皿である。C形態で、口径9cmである。概ね15世紀後半から16世紀代とみられる。

造成土層 (106～109) 106は南伊勢系土師器皿である。近世Ⅱ期に相当するか。

107は国産白磁である。見込に圈線が1条入る。高台は削り出し、内側に段差が生じる。畳付から内側は無釉で、見込み部分は蛇の目釉割ぎである。

108・109は瀬戸美濃産陶器である。108は播鉢で、底部付近のみ残存している。外面は糸切痕が認められ、内面の描目は放射状に入れた後、見込み部中央を起点に円形に入れている。底部外面以外は鉄釉がかかる。109は貼付高台の付く大形製品である。外面は体部下半付近まで灰釉が、内面は全体的に灰釉

と銅緑釉がかかる。形状から水甕とみられる。登窯第8小期頃であろうか。

2 令和4年度調査

(1) No.1 調査坑 (第11図)

灰褐色粘砂層 (110～131) 110～127は南伊勢系土師器である。110～121は皿である。110はA形態、111～113はB形態、114～116はC形態、117～119はD形態、120・121は台付皿(近世皿X形態に繋がるもの)である。B形態の口径は7cm前後～9cm代、C形態は8～11cm代、D形態は9～14cm代となる。台付皿は台部で判断できるものであり、全体の形状は不明である。122～126は煮炊具で、122～124は鍋、125～127は茶釜である。第4段階に比定され、概ね15世紀後半から16世紀代のもものとみられる。

128は青磁碗である。外面に細蓮弁文を施す。

129は瀬戸美濃産陶器皿である。内面に鉄釉と灰釉で同心円状に絵付けし、その上から透明釉がかかる。

130は産地不明磁器皿である。器表面に融着物があり、口縁部外面及び内面見込み部に圈線が1条ずつ描かれているのが確認できる程度である。

131は常滑産陶器控鉢である。内面及び底部外縁が磨耗している。

(2) No.2 調査坑 (第11・12図)

黒褐～褐色粘砂層 (132～195) 132～162・164～174は南伊勢系土師器である。132～162は皿である。132～134はA形態、135～145はB形態、146～157はC形態、158～162はD形態である。B形態の口径は7～8cm代、C形態は8～10cm代、D形態は10～12cm代となる。164～169は鍋である。164・165は口縁20cm未満の小形、166～169が中形で、第4段階に比定される。170・171は羽釜である。172は茶釜である。形状から、時期は概ね15世紀後半から16世紀代のもものとみられる。173・174は不明品である。173は器高が低く、片口とみられる箇所がある。174は半球形の体部を呈するもので、近世皿X形態に繋がるものと思われる。外面にススが付着している。

163は土師器碗である。南伊勢地域で生産されたとみられるが、出土量の少ないものである。精緻な土を用い、外面は細かい単位でケズリ、内面はケズリとミガキ調整がなされる。内外面共にスガが付着している。

175～187は瀬戸美濃産陶器である。時期は古いもので古瀬戸後期様式、登窯第7小期が下限となる。175は緑釉小皿である。口縁部に灰釉がかかる。古瀬戸後期様式である。176は灰釉がかかる端反皿である。大窯第1段階である。177は志野皿である。178は浅碗である。内面に灰釉がかかる。179・180は天目茶碗である。口縁部で外反し、外面下半部は薄く錆釉がかかる。時期は大窯第4段階前半頃であろうか。181は拳骨碗である。182は搥鉢である。口縁部の外側に縁帯が形成され、口縁外面が僅かに凹むものであり、大窯第1段階に比定される。183～186は鉢類である。183・184は口縁部付近に灰釉がかかり、184は注口が1箇所認められる。185は内面に卸目が認められる。古瀬戸後期様式に収まるものである。187は半胴である。口縁部に鉄釉がかかるが、口縁端部は摩耗により釉が剥離している。

188・189は青磁、190は白磁である。188は外面無文で、釉は黄味が強く、貫入が多く入る。189は高台の断面が逆台形を呈する。高台の接地面を釉剥ぎしている。高台内面は無釉である。見込部分に馬形の陰影が認められる。V類新相に比定される。190は皿D群で、高台に挟りが入る。見込みにピン状の重ね焼き痕が残る。

191・192は肥前産磁器丸碗である。外面に191は青海波及び竹、192は花が描かれる。(原田)

193は和釘で頭部を欠損する。ゆるく「く」字状に曲がり、屈曲点を境に脚先では軸方向に沿った木質が、頭部に近い側は軸方向に直交する木質の銕着が確認できる。厚さ3.5～4.0cmほどの材を繋ぎ留めていたものと考えられる。194は和釘。展延した頭部を二つ折りに曲げ、脚部の断面は略方形である。195は和釘で、194と同じく頭部を二つ折りに曲げる。中ほどで「く」字に曲がり、脚先をわずかに欠く。194・195ともに木質の銕着はない。(大川)

造成土層(196～201) 196～198は瀬戸美濃産陶器である。196は志野丸皿、197は志野筋皿で、い

ずれも口径に比して器高が低く扁平化し、高台部の突起も大きくない。大窯第4段階後半に比定される。198は茶入か。肩がそれほど張らず、外面底部に錆釉をかけたのち、内外面に鉄釉がかかる。

199は白磁小碗である。口縁部が僅かに外反している。200は青花端反皿で口縁端部が大きく外方に広がっている。16世紀代の所産とみられる。201は茶臼(上臼)である。直径約19cmの円柱で中央に穀落しの孔、側面に挽手孔が2箇所ある。擦面は8分面で最大4mm程度のふくみがある。

(3) Na.3調査坑(第12・13図)

灰褐色粘土質シルト層(202～205) 202・203は南伊勢系土師器皿で、202がC形態、203がD形態である。

204は瀬戸美濃産天目茶碗である。高台内側のケズリは浅く、高台部の器壁が厚い。外面下半部は錆釉が認められる。大窯第3段階の所産か。205は古瀬戸直緑大皿又は折縁深皿の底部付近とみられる。内面見込が僅かに摩耗している。古瀬戸後期様式のものである。

黄褐色シルト～灰褐色粘砂層(206～216) 206・207は南伊勢系土師器である。206は皿D形態である。207は端である。口縁端部を三角形に折り返すもので、第4段階に相当する。

208～212は古瀬戸ないしは瀬戸美濃産陶器である。208は瀬戸美濃産丸皿で、内外面に灰釉がかかる。大窯第3段階に収まるものか。209・210は古瀬戸折縁深皿や卸目付大皿等の口縁部で、古瀬戸後期様式に比定される。いずれも灰釉がかかっている。211・212は搥鉢である。いずれも錆釉がかかり、口縁端部の形状から211が古瀬戸後期様式、212が大窯第1段階に比定される。

213・214は青磁碗である。213の外面は細蓮弁文が崩れたような文様が認められ、釉は黄味が強い。214は高台から内側の器壁が厚く、高台で囲まれた部分は無釉である。内面見込みに圓線が1条認められる。213がVI類新相、214がVI類古相に比定される。215・216は青花皿である。215は腰部から大きく外反する端反皿で、見込に草花文が描かれる。216は碁碁底の皿C群で見込に擬人化した吉祥文字が描

かれる。いずれも 16 世紀代のものとみられる。

炭層 (217～221) 217～219 は瀬戸美濃産陶器である。217・218 は丸皿で、灰釉がかかる。大窯第 3 段階に収まるものである。219 は瀬戸美濃産陶器 播鉢である。口縁端部が上下に延び縁帯を形成している。内面の描目が認められる辺りは、使用による摩耗が認められる。大窯第 2 段階後半から第 3 段階に収まるものである。220 は常滑産陶器 控鉢である。焼きが甘く、いわゆる赤物である。(原田)

221 は北宋銭で、皇宋通宝の真書。「通」字の上下にクラックが入るが割れには至っていない。(大川) 褐色粘土質シルト層 (222～228) 222～223 は土師器茶釜蓋、224～227 は土師器茶釜である。基本的には南伊勢系であるが、222 は端部の形状にシャープさがなく、焼成状態からみても他地域の要素を持つ可能性がある。茶釜は土瓶形の形状となり、口縁端部を外方に折り返している。19 世紀代のものである。

228 は肥前産磁器皿である。口縁部が屈曲して外方に延びる形状である。内面に花文を描く。天正年間以降のものである。

褐色粘土質シルト層 (229～230) 229 は瀬戸美濃産天目茶碗である。口縁部は上方に延び、口縁端部で僅かに外に向く。体部下半は露胎である。登窯第 3 小期に相当するか。

230 は瀬戸美濃産磁器碗である。腰部は丸味を帯びており、端反碗ないしは丸碗の類であろう。見込に花が描かれる。

(4) No.4 調査坑 (第 13・14・15 図)

褐色粘土砂層 (231～318) 231～288・290～293・295～298 は南伊勢系土師器である。231～288 は皿である。231～233 は A 形態、234～266 は B 形態、267～280 は C 形態、281～288 は D 形態である。B 形態の口径は 7 cm 前後～9 cm 代、C 形態は 7～11 cm 代である。D 形態は 8～16 cm 代で、複数の規格が認められる。290～293 は鍋である。口縁端部を内側に折り返し強いヨコナデにより面をもつもの (290・293)、断面が三角形状になるもの (291・292) がある。295～297 は羽釜である。口縁端部が強いヨコナデにより面をもつもの (295・296)、外面に折り返

し強くヨコナデをするもの (297) がある。鍋・羽釜ともに、概ね第 4 段階に比定される。289 は土師器不明品である。胎土や調整から南伊勢系土師器とみられるが、類をみない器種である。294 は中北羽釜釜である。

298 は瓦質土器羽釜である。罎との接合部から下はケズリ、上は丁寧なミガキ調整がなされる。罎部以下は全体的にススが付着している。

299～311 は古瀬戸ないしは瀬戸美濃産陶器である。299 は天目茶碗である。体部下半は薄く錆釉がかかる。古瀬戸後期様式 IV 期新に収まるものであろうか。300 は腰部から口縁部にかけて外反する端反皿である。内外面ともに透明釉がかかる。301 は向付で、長石釉がかかり、見込みに鉄絵が描かれる。302・303 は小鉢で、底部をわずかに削り込み低い高台を形成する。腰部はやや丸味を帯び、残存部は無釉である。高台の形状等から古瀬戸後期様式の鉢になるとみられる。304～310 は鉢類である。304 は内面に卸目が認められ、卸目付大皿である。305～308 は直縁大皿ないしは卸目付大皿の類になるであろう。古瀬戸後期様式に収まるものである。309・310 は播鉢である。いずれも鉄釉がかかり、口縁端部は内側に小突起が認められる。大窯第 4 段階後半頃のものの。

311～313 は磁器である。311 は青磁碗である。体部下半、高台ともに厚みがあり、釉は高台内面以外に厚くかかる。312 は白磁皿である。挟りのある高台で、疊付部以外は釉がかかる。形状は D 群とほぼ同じであるが胎土や釉のかかり方をみると、典型的な D 群よりやや新しい可能性がある。16 世紀代以降のものか。313 は青花端反皿 B 群である。外面に唐草文、見込みに玉刺獅子文を描く。16 世紀中頃のものである。

314～318 は常滑産陶器で、314～316 が甕、317・318 が控鉢である。314・315 ともに口縁部の内側が盛り上がり、縁帯は外縁に付着する。10 型式に収まる。317・318 は口縁端部が幅広い面を持ち、上下端部が拡張する。いずれも内面は使用による摩耗が認められる。概ね 10～11 型式に比定される。

灰黄褐色粘土質シルト層 (319～323) 319・320 は南伊勢系土師器皿である。319 は近世皿 C に、320

は近世皿Bとみられる。

321は瀬戸美濃産陶器描鉢である。口縁端部が上方に延び、丸味を持つ。大窯第3段階に比定される。

322・323は磁器である。322が白磁小杯で、見込みは蛇の目釉刺ぎとなっている。323は青花皿C群である。口縁部は軽く内湾し、外面に波濤文・芭蕉葉文が描かれる。

灰黄褐色シルト層(324～326) 324・325は青花碗で、324は外面に、325は見込み部にそれぞれ花文が描かれる。325は皿E群とみられ、畳付が無釉で砂粒が付着する。326は肥前産磁器皿である。326の畳付も325と同様で、高台内部は放射状に釉痕が残る。見込みに人物が、高台内部に角福とみられる銘款がある。

褐色粘土質シルト層(327) 327は石白(上白)である。直径約28.5cmの円柱で較落しの孔が1箇所、側面に挽手孔が2箇所ある。擦面は8分面になるとみられる。

焼土層(328～349) 328・329は南伊勢系土師器皿で、328は近世皿A、329は近世皿Xに分類されるものである。

330～333は瀬戸美濃産陶器で、330～332は皿で、いずれも灰釉がかかる。見込み部に331は梅花文、332は菊花文が印される。大窯第1段階後半に比定される。333は練鉢とみられる。削出高台の幅は広めで段差は低い。内面は灰釉がかかり、全体的に摩耗している。登窯第9小期頃のものか。

334～346は中国産磁器で、334～336は白磁、337～346は青花である。白磁はいずれも口縁端部が外反する皿E-2群である。青花のうち337～342は皿B1群で、343～346は皿C群である。337・338・342は見込みに十字花文、外面に花唐草文を描く。339・341は見込みに牡丹唐草文を描き、339の高台内部に二重の方形で囲まれた吉祥字とみられるものが認められる。343は見込みに花文を描き、344～346は外面に波濤文・芭蕉葉文を描く。概ね16世紀前半から中頃の所産である。

347は肥前産磁器猪口である。外面に山水文を描く。19世紀前後の所産か。

348は砥石である。3面使用している。

349は瓦質土器鉢である。内面は工具によるケズ

リ及びナデ調整が、外面は丁寧にミガキ調整がなされる。外面下部に剥離の痕跡があり、脚が付いていた可能性がある。

炭層(350～359) 350～355は中国産磁器である。350～353は碗で、350・352・353は皿E群とみられる。見込みは350～353が花様の模様、354は人物が描かれる。355は皿E群で、内面に花が描かれる。いずれも概ね16世紀後半の所産とみられる。

356～359は常滑産陶器で、356は描鉢、357～359が壺である。壺は口縁端部を外側に折り返し頂部に面を持つ。359は頂部が内外面に引き出され、断面形がT字状になる。概ね16世紀末から17世紀代の所産である。

(5) No.6 調査坑(第16図)

暗灰色砂礫層(360～361) 360は瀬戸美濃産皿である。底部を削り出すが、高台はわずかに認められる程度である。畳付以外は灰釉がかかる。大窯第1～2段階頃に収まるか。

361は常滑産陶器片を円形に加工したものである。打ち欠いた周辺をよく磨っている。

(6) No.7 調査坑(第16図)

暗褐色粘質土層(362～366) 362は土師器皿である。器壁が厚く、口縁端部はヨコナデを施す。中北勢のものであろうか。363・364は南伊勢系土師器である。363は皿B形態で皿B期に比定され、内外面に油煙痕が認められる。364は鍋である。第3段階で、15世紀中頃のものとみられる。

365は古瀬戸陶器碗である。削出高台で残存部の形状から平碗になるとみられる。内面は灰釉がかかる。古瀬戸後期様式頃か。

366は青磁碗である。釉は高台の内側に輪状に剥いている。内面の釉は、貫入が多く入る。V類か。灰褐色粘質土層(367～369) 367は古瀬戸陶器で、折縁深皿ないしは即目付大皿になるとみられる。古瀬戸後期様式のものである。368・369は瀬戸美濃産陶器描鉢である。368は鉄釉、369は錆釉がかかる。368は口縁端部が肥厚し、丸く収めている。登窯第4小期か。

3 令和5年度調査

(1) No.1 調査坑 (第16図)

暗褐色粘砂層 (370～386) 370～377は南伊勢系土師器である。370・371は皿D形態である。372は台付皿である。373～377が煮炊具で、373が焙烙、374～376が鍋、377が茶釜である。鍋は374・376が小形品、375が中形品で第4段階に比定される。377は大形品になるのか。

378・379は瀬戸美濃産陶器碗で、378が天目茶碗、379が丸碗である。378は口縁端部で外反する。379は内外面に鉄釉がかかる。大窯第3ないしは4段階であろうか。

380は常滑産陶器鉢である。粘土帯の境で剥離しているが、剥離箇所が底部付近になるとみられ、口径の割に器高が低い。

381～386は木製品で、381が皿、382が椀、383・384が箸類、385・386が折敷の側板である。381は口縁部及び高台が欠損している。高台内面は黒漆が塗られ中央に「一」と朱書きされる。それ以外の部分は黒漆の上に朱漆が塗布される。樹種はケヤキである。382は柁目材で頂部を斜めに落とし、三角形を呈す。器表面は丁寧にケズっている。文字は認められなかった。383・384は周囲を面取りしたものである。樹種はいずれもヒノキである。383の断面形は384より扁平な長方形になる。385・386は柁目材で、385は2個1対の穿孔が2箇所認められる。樹種はいずれもヒノキである。

褐灰色粘質土層 (387～392) 387・388は南伊勢系土師器である。387は皿D形態である。388は茶釜で、頸部から口縁部の立ち上がりが短く口縁端部は強いヨコナデにより面を持つ。口径が27cm程度で大形品になるのか。

389～391は瀬戸美濃産陶器である。389は天目茶碗である。削出輪高台で、高台幅が狭い。腰部から口縁部に向けて直線的に広がり、口縁部で僅かに窄まって口縁端部は外反する。体部下半に薄く錆釉をかけた後、内面及び外面上半に厚く鉄釉がかかる。登窯第3小期に相当する。390・391は搥鉢である。390は口縁端部が上方に延びる。大窯第1ないしは2段階のものか。391は内面が使用により摩耗して

いる。

392は青花皿である。髹付部のみ露胎である。見込みに十字文花が描かれる。16世紀代の所産か。

(2) No.2 調査坑 (第16図)

暗緑灰色砂礫層 (393～403) 393～401は南伊勢系土師器である。387～400は皿で、393～396がB形態、397～399がC形態、400がD形態である。概ねIV a～b期に収まるとみられる。397は口縁端部に油煙痕が付く。401は茶釜蓋である。

402は瀬戸美濃産陶器花瓶であろうか。頸部から口縁部にかけて大きく開くもので、灰釉がかかる。大窯第1段階のものか。

403は青花端反碗である。外面は唐草文とみられる絵付けがなされる。

褐色土層 (404～411) 404～406は南伊勢系土師器皿である。404・405は近世皿C、406は近世皿Dである。

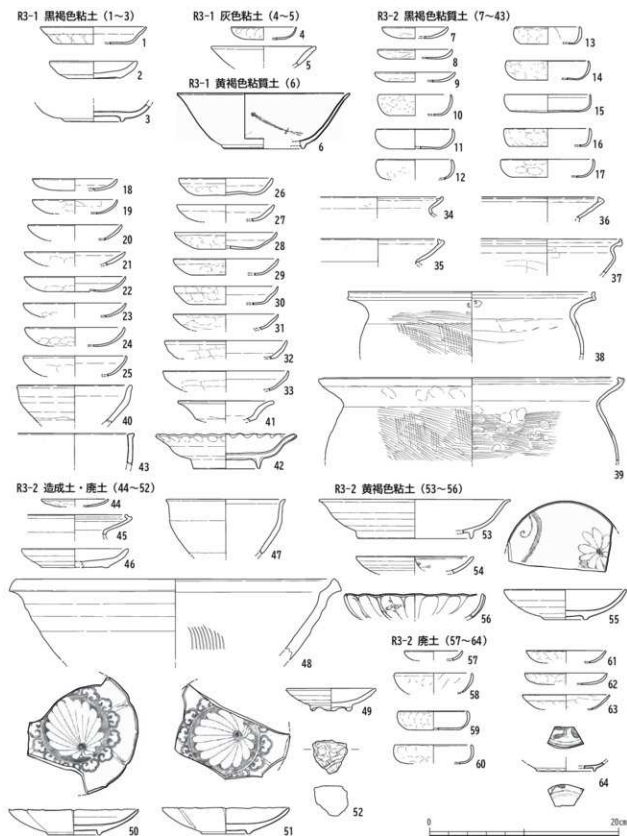
407～409は瀬戸美濃産陶器である。407は志野丸皿である。体部下半は削りこみ、高台部外側は明瞭な段差をもつが、内側の段差は僅かである。長石釉は、貫入が多く入る。登窯第3小期頃の所産か。408は搥鉢である。底部外面に糸切痕が認められ、内面の描目は放射状に配する。409は瓶掛とみられる。体部外面に花卉及び葉の形をした粘土板を貼り、外面は銅緑釉が厚くかかり、内面は鉄釉が刷毛塗りされる。登窯第8小期頃のものか。

410は青磁碗である。外面に波状文様の曲線が認められる。VII期相当のものか。(原田)

411は、厚さ0.3～0.4cmの鋳物鉄片である。破片中央にバリ痕を残す。一端に2.5cmの立ち上がりが残るが、断片的である。鐸鉄製品が天水鉢状の器形が想定されるが元製品の形状は不明で、地金として割取られたものかと考えられる。(大川)

埋戻し土 (412～413) 412は古瀬戸緑釉小皿である。口縁部はやや内湾し、口縁端部に面をもつ。口縁部に鉄釉がかかり、口縁端部は摩耗により釉が剥離している。

413は南伊勢系土師器鍋である。口頸部はやや短く、口縁端部を内側に折り返して強いヨコナデを施す。



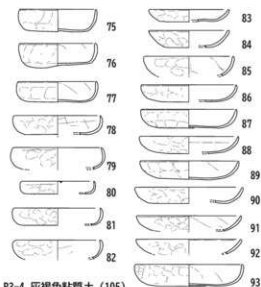
第9図 出土遺物実測図1 (1:4)

(3) No.3 調査坑 (第17・18・19図)
青灰色粘砂層 (414 ~ 602, 604 ~ 671, 673 ~ 691)

414 ~ 671 は南伊勢系土師器である。414 ~ 627 は皿で、414 ~ 428 が近世皿A、429 ~ 453 が近世皿B、454 ~ 560 が近世皿C、561 ~ 620 が近世皿D、621 ~ 627 が近世皿Xである。特にC・Dの出土量が多い。口径は、Aが5 ~ 7 cm前後、Bが5 cm前後である。Cが5 ~ 9 cm前後、Dが8 ~ 10 cm、12、14 cm前後と規模がバラエティーに富むが、出土量によるものかもしれない。油煙痕が一定量認められるが、特に近世皿Dが多い傾向にある。628 は不明品である。629 ~ 631 は鉢形になろうか。631 は注口部分である。632 ~ 663 が鍋ないしは焙烙である。632 ~ 647・649・655 は口径が20 cmに満たない小形品で

ある。632・634・637 は体部が張り頸部が狭く窄まり、口縁部に向けて広がる形状を持ち、口縁端部を内面へ折り返すもので、中世小形鍋Aに近い形状のものである。646・647 は近世鍋D、649 は近世鍋X、655 は近世鍋Cの小形品である。633・635・636・638 ~ 645 は焙烙Cである。頸部径と体部最大径がほぼ同じで、口縁部が大きく広がる形状である。635・641・645 は、体部最大径付近に焼成後穿孔が認められる。648 は形状が皿状となるもので、頸例はあまりない。内外面に共にススが付着している。650・651・659 ~ 661 が近世鍋B、652・653・656・657 が近世鍋C、658 が近世鍋D、662・663 焙烙Bであろうか。664・665 は羽釜である。頸部端部は強いヨコナデにより面を持ち、口縁部は664 が面を持つもの

R3-3 暗褐色粘土 (65)



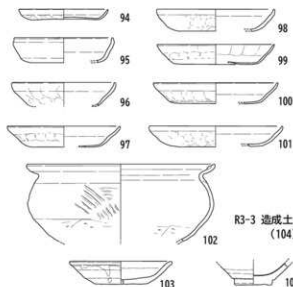
R3-4 灰褐色粘質土 (105)



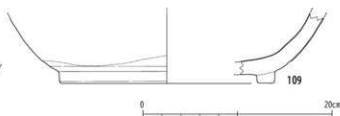
R3-4 造成土 (106~109)



R3-3 黒褐色粘質土 (66~103)

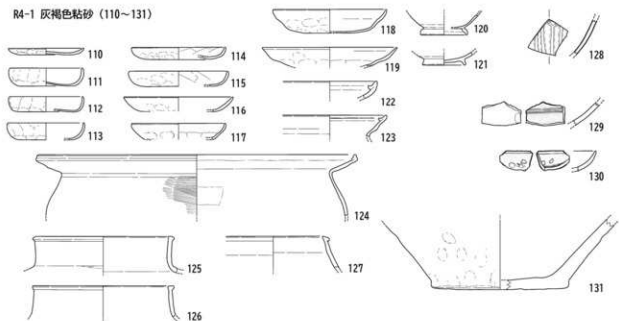


R3-3 造成土 (104)

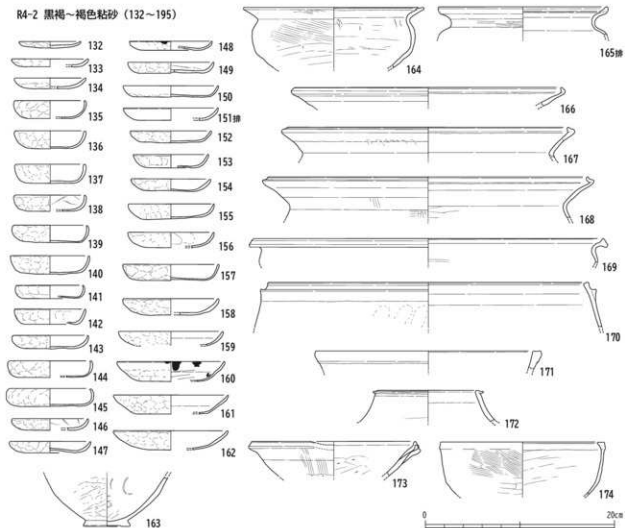


第10図 出土遺物実測図2 (1:4)

R4-1 灰褐色粘砂 (110~131)

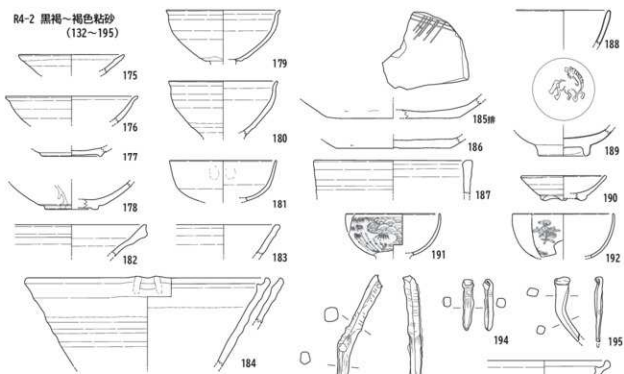


R4-2 黒褐~褐色粘砂 (132~195)

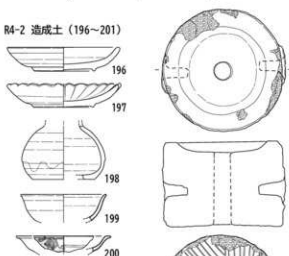


第11図 出土遺物実測図3 (1:4)

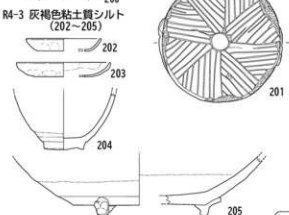
R4-2 黒褐～褐色粘砂
(132～195)



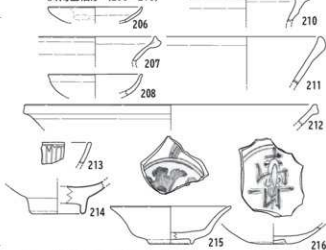
R4-2 造成土 (196～201)



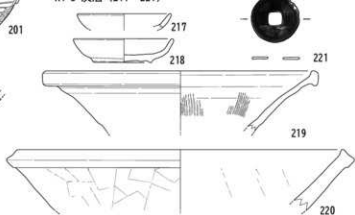
R4-3 灰褐色粘土質シルト
(202～205)



R4-3 黄褐色シルト～
灰褐色粘砂 (206～216)

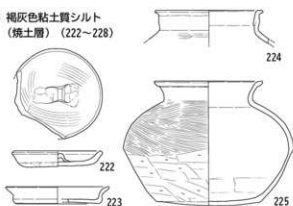


R4-3 炭層 (217～221)

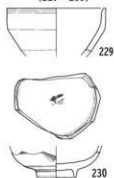


第12図 出土遺物実測図4 (193～195・221は1:2、201は1:6、その他1:4)

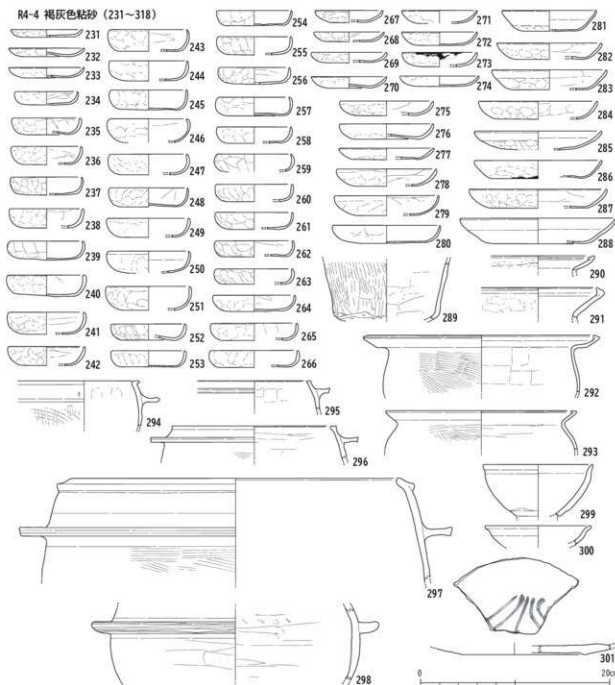
R4-3 褐灰色粘土質シルト
(焼土層) (222~228)



R4-3 褐色粘土質シルト
(229~230)



R4-4 褐灰色粘砂 (231~318)



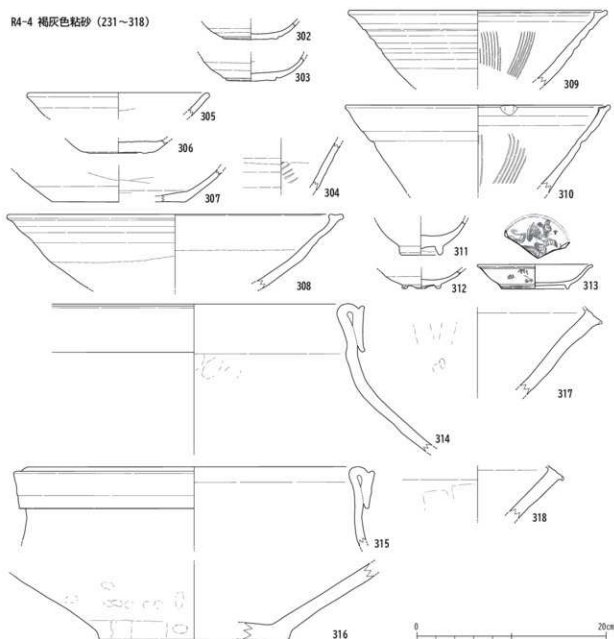
第13図 出土遺物実測図5 (1:4)

で、665が端部を外方に折り返しヨコナデで調整している。666～667は茶釜蓋、668～669は茶釜である。668は小形品である。670・671は十能である。いずれも内外面ともにススが付着している。

673～684は、瀬戸美濃産陶器である。673・674は志野丸皿である。口径に比して器高が低く、高台外部の削出しが明瞭な673とケズリの単位がそれほど明瞭でない674がある。登窯第3～4小期頃か。675は鉄絵皿である。腰部で上方に立ち上がり、口縁部は外方に広がる形状である。見込みに蘭竹文の鉄絵を施す。外方に広がる口縁部内面に銅緑釉を、

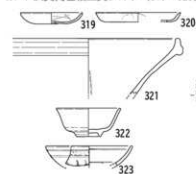
見込み部及び外面上半に灰釉をかけ分けている。美濃窯連房Ⅱ期に相当する。676は瀬戸美濃産卍皿である。底部は糸切り痕があり、部分的に灰釉の釉垂れがみられる。677～679は鉢である。677・578は口縁部が大きく外方に広がる形状である。灰色の緻密な胎土で透明釉がかかる。釉は貫入が多く入る。679はいわゆる向付で、志野釉は灰色がかっている。680～682は円柱形を呈し、外面は底部付近まで、内面は口縁部付近まで鉄釉がかかる。半胴であろうか。683・684は茶入である。肩が張る形状で、肩部径は5～6cmである。外面に鉄釉がかかる。美濃窯

R4-4 褐灰色粘砂 (231～318)



第14図 出土遺物実測図6 (1:4)

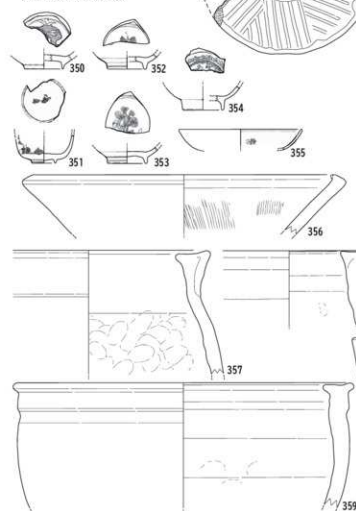
R4-4 灰黄褐色粘土質シルト (319~323)



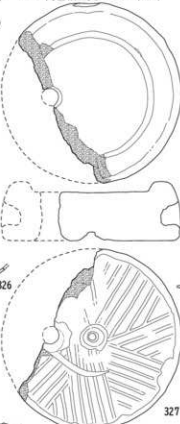
R4-4 灰黄褐色シルト (324~326)



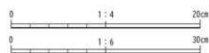
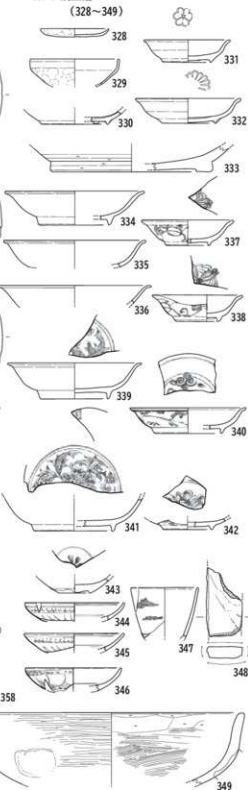
R4-4 炭層 (350~359)



R4-4 褐色粘土質シルト (327)



R4-4 焼土層
(328~349)



第15図 出土遺物実測図7 (327は1:6、その他1:4)

連房Ⅱ期に相当する。

685・686 は常滑産陶器である。685 は捏鉢とみられるが、器高が低く歪んでいる。686 は甕である。口縁部は外側に折り返し、ヨコナデにより密着させる。肩部は張らずⅡ型式に収まるものであろう。

687 は肥前産磁器端反皿である。(原田)

688 は工具柄の冠(かつら)と考えられる、幅0.8 cmの薄板を卵形に鍛接した製品である。刀子鞘の貴金具かとも考えたが、鍛接端がわずかに喰い違い丁寧な造作ではないことから、工具部材と考えた。689 は和釘である。釘頭は頭巻とし、断面は略方形、脚先先端をわずかに欠損する。690 は鋳鉄片である。厚さ0.35 cmで、外面に2箇所の刺離箇所がある。(大川)

691 は砥石である。擦痕が2面、認められる。

造成土層(692) 692 は、瀬戸美濃産磁器碗である。外面には青海波と鳥が描かれるか。

(4) №4 調査坑(第20図)

暗褐色粘砂層(693～699) 693～696 は南伊勢系土師器である。693・694 は近世皿D形態、695 は近世皿X形態である。693 は油煙痕が認められる。696 は鍋または焙烙である。

697 は瀬戸美濃産陶器丸碗である。内外面に灰釉がかかる。

698 は産地不明陶器である。形状から瓶ないしは小壺とみられる。外面に薄く鉄釉をかける。底部外面は糸切後丁寧にナデ調整を施し、「ニ」様の線刻が認められる。外面は全体的にススが付着している。

699 は常滑産陶器捏鉢である。赤物で、内面は磨耗している。

(5) №6 調査坑(第20図)

SK2(700～707) 700～705 は南伊勢系土師器である。700～703 は皿で、700・701 がB形態、702 がC形態、703 がD形態である。703 は口縁部に油煙痕が認められる。概ねⅣb～Ⅳc期頃のものか。704・705 は鍋である。口縁端部を内側に折り込み、断面三角形となるもので、第4段階である。(原田)

706・707 は和釘脚先片で、706 は1.1 cm、707 は1.8 cm残存する。いずれも断面は略方形である。(大川)

(6) №7 調査坑(第20図)

暗灰褐色砂礫層(708) 常滑産陶器甕である。Ⅱ型式に比定される。

(7) №8 調査坑(第20図)

褐色粘質土層(709) 山茶碗である。瀬美窯2a型式に収まるものである。

暗褐色礫層(710～714) 710～713 は南伊勢系土師器皿である。いずれもD形態で、口径は710～712 が10 cm前後、713 が13 cm代である。712 は油煙痕が認められる。これらの土師器は概ね16世紀代の所産とみられる。

714 は板材である。側面に鋸引による段差や鋸引痕が認められる。樹種はマツ属複雑管束亜属である。

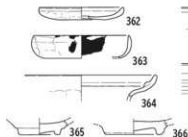
暗褐色粘質土層(715～720) 715～720 は南伊勢系土師器である。715～718 は皿である。715～718 が近世皿C、719 が近世皿Dである。口径は、715～717 が7 cm代、718・719 が9 cm代である。717・719 は、油煙痕が認められる。720 は焙烙である。

(原田)

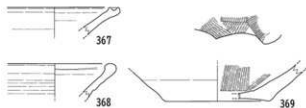
R4-6 暗灰色砂礫（木片混）
（360～361）



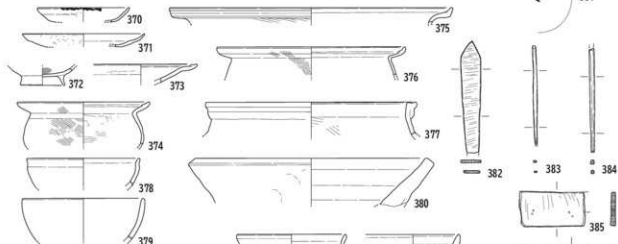
R4-7 暗褐色粘質土（炭混）
（362～366）



R4-7 灰褐色粘質土（礫混）
（367～369）



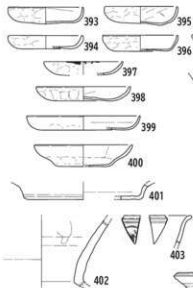
R5-1 暗褐色粘砂（370～386）



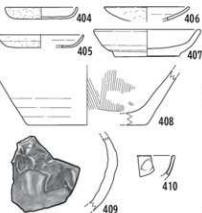
R5-1 褐灰色粘質土に
灰色粘土ブロック混
（387～392）



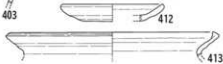
R5-2 暗緑灰色砂礫（393～403）



R5-2 褐色土（盛土）（404～411）



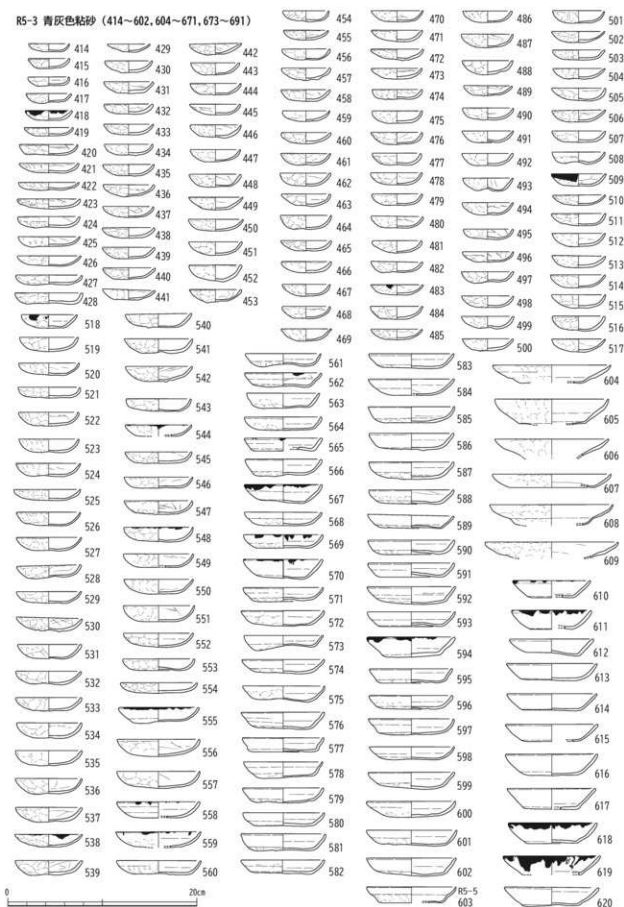
R5-2 煙灰し土（412～413）



0 20cm

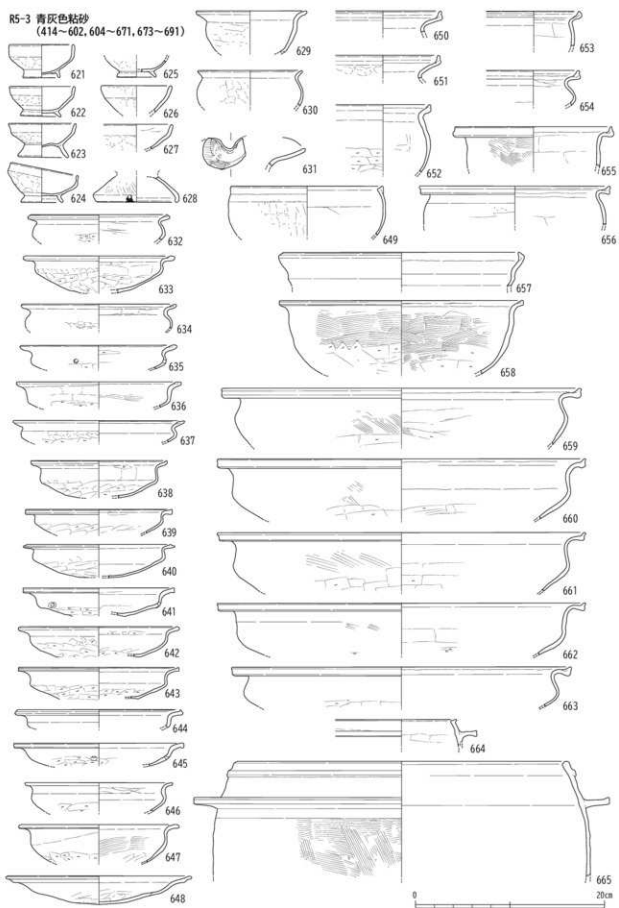
第16図 出土遺物実測図8（1：4）

R5-3 青灰色粘砂 (414~602, 604~671, 673~691)



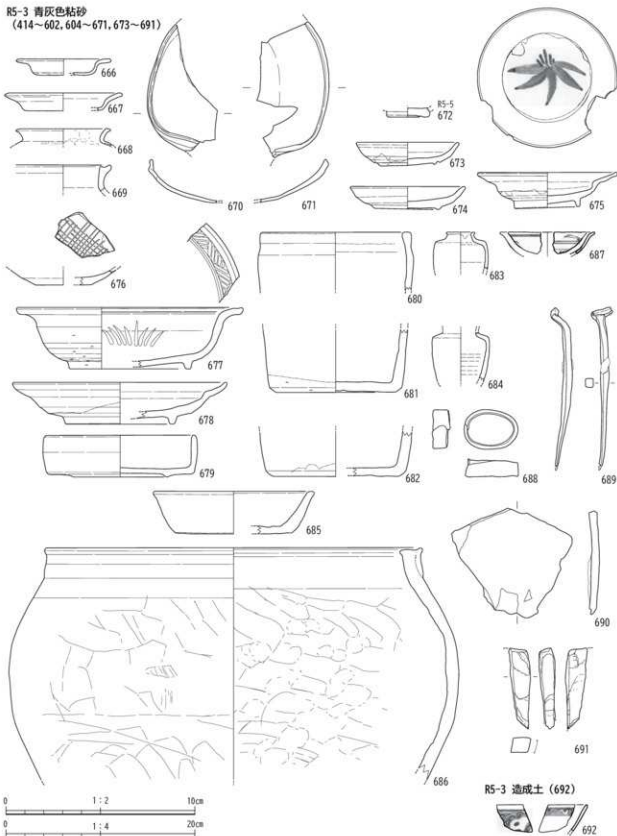
第17图 出土文物实测图9 (1:4)

R5-3 青灰色粘砂
(414~602, 604~671, 673~691)



第18图 出土文物实测图10 (1:4)

R5-3 青灰色粘砂
(414~602, 604~671, 673~691)



第19図 出土遺物実測図11 (688~690 1:2、その他1:4)

【参考文献】

山茶碗 安井俊則 2012「第1章総論 第2節麗美高」『愛知県史』別編 中世・近世 常滑系 愛知県
中世土師器（供膳具） 伊藤裕偉 2008「中北勢地域の中世土器」『三重県史』資料編考古2 三重県
伊藤裕偉 2008「南伊勢・志摩地域の中世土器」『三重県史』資料編考古2 三重県
森川常厚 2008「伊賀地域の中世土器」『三重県史』資料編考古2 三重県
中世土師器（煮炊具） 伊藤裕偉 2008「中北勢地域の中世土器」『三重県史』資料編考古2 三重県
伊藤裕偉 2008「南伊勢・志摩地域の中世土器」『三重県史』資料編考古2 三重県
伊藤裕偉 1996「伊勢の中世煮湯用土器から東海を見る」『鶴と養そのデザイン』第4回東海考古学フォーラム
近世土師器（供膳具・煮炊具） 三重県埋蔵文化財センター 2015「VI-4 近世土師器の形態と変遷」『高河原遺跡発掘調査報告』
古瀬戸・瀬戸美濃産陶磁器（供膳具・貯蔵具等） 多治見市教育委員会 1993「第9章江戸時代・明治時代前半代の美濃窯産年と製造品

種」『多治見の古窯第3号 美濃窯の焼物』特集写真で見る美濃焼の歴史

藤澤良祐 2007「第1章総論 第3節古瀬戸生産の成立と展開」『第1章総論 第4節瀬戸大窯の時代』第1章総論 第5節尾張藩政下の瀬戸窯業」『愛知県史』別編窯業2 中世・近世 瀬戸系 愛知県

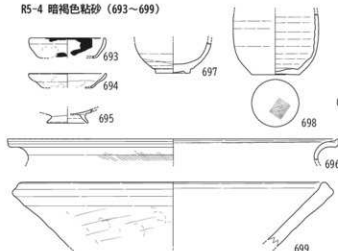
常滑産陶器（貯蔵具等） 中野晴久 2012「第1章総論 第3節常滑窯」『愛知県史』別編 中世・近世 常滑系 愛知県

白磁・青磁・青花（供膳具） 大橋康二 2017「日本などにおいての出土の明清の中国磁器（染付中心に）」『日本における明清の中国磁器』近世陶磁研究会

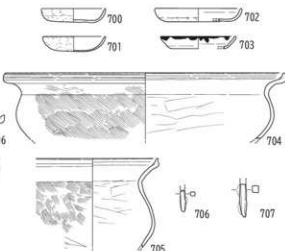
横伸一郎 2022「第7章貿易陶磁器 第2節中世後期の貿易陶磁器」『新版概説中世の土器・陶磁器』日本中世土器研究会編 真陽社

肥前産磁器（供膳具） 野上建紀 2000「磁器の編年（色絵以外）1. 碗・小坏・皿・紅皿・紅瑠口」『九州陶磁の編年』九州近世陶磁学会10周年記念 九州近世陶磁学会

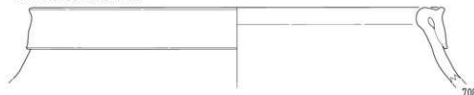
R5-4 暗褐色粘砂 (693~699)



R5-6 SK2 (暗褐色粘質土) (700~707)



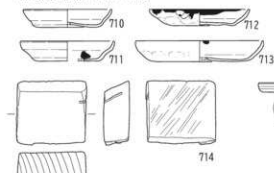
R5-7 暗灰褐色砂礫 (708)



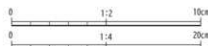
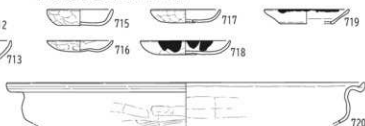
R5-8 褐色粘質土 (709)



R5-8 暗褐色礫 (710~714)



R5-8 暗褐色粘質土 (715~720)



第20図 出土遺物実測図12 (706~707 1:2、その他1:4)

番号	異名	種・別	器種等	調音法	通称・邦名等	演奏法(楽)	調弦・技法の特色	転上	色 調	演奏度	特長事項
1	001-01	土師器	皿	E-F	黒褐色粘土	010.2 調1.2	赤・オサエ・ヨコナド 内・ナド・ナド	変	2.197/2 黒白	020/12	瀬戸窯遺産
2	001-05	土師器	丸皿	E-F	黒褐色粘土	010.4 調1.8	赤・ヨコナド・ヨコナドナド・黒焼(黒点斑)	変	2.198/2 黒黄 2.198/2 黒黄・緑	030/12	瀬戸窯遺産(吉野)
3	001-06	磁器 (青磁)	鉢	E-F	黒褐色粘土	010.4 調1.8	赤・ヨコナド・ヨコナドナド・黒焼	変	2.198/2 黒白 2.027/1 黒・オリーブ・緑	040/12	中国産 唐行無銘
4	001-04	土師器	皿	E-F	灰白色土(黄緑)	010.6 調1.3	赤・オサエ・ナド 内・ナド	変	1.998/2 黒白	020/12	瀬戸窯系
5	001-02	陶器	緑豆	E-F	灰白色土(黄緑)	010.1 調1.0	赤・ヨコナド・黒焼(黒点斑)	変	1.998/2 黒白 5.940/1 黒・黄	030/12	瀬戸窯遺産
6	001-03	磁器	皿	E-F	黒褐色粘土(黄緑)	010.4 調1.3 調1.7	赤・ヨコナド・ヨコナドナド・黒焼 内・ヨコナド・黒焼	変	2.198/2 黒白 2.027/1 黒・黄・緑・O(黄)	030/12	瀬戸不詳(国産) 唐行無銘 内産和唐銘付
7	001-01	土師器	皿	E-F	黒褐色粘土 赤土表	010.6 調1.3	赤・オサエ・ナド 内・ナド	変	1.998/2 黒白	020/12	瀬戸窯系
8	001-07	土師器	小皿	E-F	黒褐色粘土	010.6 調1.8	赤・オサエ・ナド 内・ナド	変	2.198/2 黒黄	030/12	瀬戸窯系
9	001-10	土師器	皿	E-F	黒褐色粘土 赤土表	010.4 調1.8	赤・オサエ・ナド 内・ナド	変	2.198/2 黒黄	030/12	瀬戸窯系
10	001-06	土師器	皿	E-F	黒褐色粘土 赤土表	010.6 調1.2	赤・オサエ・ヨコナド 内・ナド・ヨコナド	変	1.997/2 白・黄・緑	030/12	瀬戸窯系
11	001-04	土師器	皿	E-F	黒褐色粘土 赤土表	010.6 調1.2	赤・オサエ・ナド 内・ナド	変	1.998/2 黒白	030/12	瀬戸窯系
12	001-05	土師器	皿	E-F	黒褐色粘土 赤土表	010.6 調1.2	赤・オサエ・ナド 内・ナド	変	1.998/2 黒白	030/12	瀬戸窯系
13	001-05	土師器	皿	E-F	黒褐色粘土 赤土表	010.6 調1.2	赤・オサエ・ヨコナド 内・ナド・ヨコナド	変	2.198/2 黒白	030/12	瀬戸窯系
14	001-03	土師器	皿	E-F	黒褐色粘土 赤土表	010.6 調1.2	赤・オサエ・ナド 内・ナド	変	1.997/2 白・黄・緑	030/12	瀬戸窯系
15	001-05	土師器	皿	E-F	黒褐色粘土 赤土表	010.6 調1.2	赤・オサエ・ナド・ヨコナド 内・ナド・ヨコナド	変	1.998/2 黒白	030/12	瀬戸窯系
16	001-02	土師器	皿	E-F	黒褐色粘土 赤土表	010.2 調1.8	赤・オサエ・ヨコナド 内・ナド・ヨコナド	変	2.198/2 黒白	030/12	瀬戸窯系
17	001-03	土師器	皿	E-F	黒褐色粘土 赤土表	010.6 調1.8	赤・オサエ・ナド 内・ナド	変	1.998/2 黒黄	030/12	瀬戸窯系
18	001-02	土師器	皿	E-F	黒褐色粘土 赤土表	010.6 調1.8	赤・オサエ・ナド・ヨコナド 内・ナド・ヨコナド	変	2.198/2 黒白	030/12	瀬戸窯系
19	001-04	土師器	皿	E-F	黒褐色粘土 赤土表	010.6 調1.8	赤・オサエ・ナド・ヨコナド 内・ナド・ヨコナド	変	1.997/2 白・黄・緑	030/12	瀬戸窯系
20	001-06	土師器	皿	E-F	黒褐色粘土 赤土表	010.6 調1.8	赤・ナド・ヨコナド 内・ナド・ヨコナド	変	5.940/4 黒・黄	030/12	瀬戸窯系
21	001-08	土師器	皿	E-F	黒褐色粘土 赤土表	010.6 調1.4	赤・オサエ・ナド・ヨコナド 内・ナド・ヨコナド	変	2.198/2 黒黄	030/12	瀬戸窯系
22	001-03	土師器	皿	E-F	黒褐色粘土 赤土表	010.6 調1.8	赤・オサエ・ナド・ヨコナド 内・ナド・ヨコナド	変	2.198/2 黒白	030/12	瀬戸窯系
23	001-09	土師器	皿	E-F	黒褐色粘土 赤土表	010.6 調1.8	赤・オサエ・ナド・ヨコナド 内・ナド・ヨコナド	変	2.198/2 黒黄	030/12	瀬戸窯系
24	001-02	土師器	皿	E-F	黒褐色粘土 赤土表	010.6 調1.8	赤・オサエ・ナド・ヨコナド 内・ナド・ヨコナド	変	2.198/2 黒白	030/12	瀬戸窯系
25	001-01	土師器	皿	E-F	黒褐色粘土 赤土表	010.6 調1.8	赤・オサエ・ナド・ヨコナド 内・ナド・ヨコナド	変	2.198/2 黒白	030/12	瀬戸窯系
26	001-05	土師器	皿	E-F	黒褐色粘土 赤土表	010.6 調1.8	赤・オサエ・ナド・ヨコナド 内・ナド・ヨコナド	変	1.998/2 黒白	030/12	瀬戸窯系
27	001-01	土師器	皿	E-F	黒褐色粘土 赤土表	010.4 調1.8	赤・オサエ・ナド・ヨコナド 内・ナド・ヨコナド	変	1.998/2 黒白	030/12	瀬戸窯系
28	001-03	土師器	皿	E-F	黒褐色粘土 赤土表	010.6 調1.8	赤・オサエ・ナド・ヨコナド 内・ナド・ヨコナド	変	1.998/2 黒白	030/12	瀬

第2表 遺物観察表2

番号	東国 番号	種・目	器種等	調査地	遺構・層名等	法量(cm)	調査・注記の特徴	出土	色 調	保存度	特記事項
50	002-02	磁器	輪花唐	E-2	赤土	320.7 高1.7 径5.8	内：型押成、カズリ、施陶 内：型押成、施陶	底	100%白 5.0%1.0 緑褐色/黄	324/12 底：元青	肥前縣 輪花は六方 磨付施陶 内産品に 似付
51	002-03	磁器	輪花唐	E-2	赤土	321.5 高1.5 径5.2	内：型押成、カズリ、施陶 内：型押成、施陶	底	2.0%1.0 灰白 5.0%1.0 灰白/黄	324/12 底：元青	肥前縣 輪花は六方が 磨付施陶 内産品 に似付
52	002-04	土師器	伊賀7	E-2	赤土	-	内：-	底	5.0%4.0 白/黄	小研	施土にスリヤする
53	009-01	磁器 (白磁)	福見瓦	E-2	黄褐色粘土	320.2 高1.1 径12.0	内：ロコナデ、ロコナズリ、施陶 内：ロコナデ、施陶	底	90% 白	323/12 底12	施地無 磨付施陶
54	009-02	磁器 (白磁)	丸唐	E-2	黄褐色粘土	321.4	内：ロコナデ、ロコナズリ、施陶 内：ロコナデ、施陶	底	90% 白	323/12	肥前縣 内産品付
55	009-05	磁器 (白磁)	丸唐	E-2	黄褐色粘土	322.8 高1.2 径14.5	内：ロコナデ、ロコナズリ、施陶 内：ロコナデ、施陶	底	90% 灰白 10%0.1 緑褐色/黄	324/12 底12	肥前縣 磨付施陶 内産品付
56	009-03	磁器 (白磁)	菊花唐	E-2	黄褐色粘土	325.0	内：型押成、施陶 内：型押成、施陶	底	90% 白	323/12	肥前縣が 内産品付
57	009-08	土師器	唐	E-2	赤土	326.2	内：オサエ・ナデ 内：ナデ	底	100%1.0 浅黄褐色	323/12	海伊勢島
58	009-09	土師器	唐	E-2	赤土	326.2	内：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	底	100%1.2 白/黄	323/12	海伊勢島
59	009-05	土師器	唐	E-2	赤土	327.5 高1.8	内：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	底	100%1.0 浅黄褐色	323/12	海伊勢島
60	009-09	土師器	唐	E-2	赤土	328.1	内：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	底	5.0%0.1 白/黄	323/12	海伊勢島
61	009-06	土師器	唐	E-2	赤土	328.5	内：オサエ・ナデ 内：ナデ	底	5.0%0.1 白/黄	323/12	海伊勢島
62	009-07	土師器	唐	E-2	赤土	328.8	内：オサエ・ナデ 内：ナデ	底	5.0%0.1 浅黄褐色	323/12	海伊勢島
63	009-08	土師器	唐	E-2	赤土	329.2	内：ナデ・オサエ・ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	底	5.0%0.1 浅黄褐色	323/12	海伊勢島
64	009-01	磁器 (青土)	唐	E-2	赤土	326.8	内：ロコナデ、ロコナズリ、施陶 内：ナデ、ヨコナデ	底	90% 白 5.0%0.1 緑褐色/黄	323/12	平島磨 磨付施陶
65	010-05	土師器	割唐	E-3	黄褐色粘土 (民衆土)	326.6	内：ハムメ (80%) 土、磨付ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	底	2.0%1.0 黄	323/12	海伊勢島
66	010-04	土師器	小唐	E-3	黄褐色粘土	326.8 高1.1	内：オサエ・ナデ 内：ナデ	やや底	100%1.0 灰白	323/12	海伊勢島
67	010-05	土師器	小唐	E-3	黄褐色粘土	326.9 高1.1	内：オサエ・ナデ 内：ナデ	やや中	2.0%1.2 灰黄	323/12	海伊勢島
68	009-05	土師器	小唐	E-3	黄褐色粘土	326.9 高1.8	内：オサエ・ナデ 内：ナデ	やや底	100%1.0 灰白	323/12	海伊勢島
69	010-10	土師器	小唐	E-3	黄褐色粘土	327.3 高1.1	内：オサエ・ナデ 内：ナデ	やや中	5.0%0.1 浅黄褐色	323/12	海伊勢島
70	010-03	土師器	唐	E-3	黄褐色粘土 (民衆土)	327.9 高1.1	内：オサエ 内：ナデ	底	2.0%1.2 灰黄	323/12	海伊勢島
71	010-02	土師器	唐	E-3	黄褐色粘土 (民衆土)	327.8 高1.0	内：オサエ 内：ナデ	底	2.0%1.2 灰白	323/12	海伊勢島
72	010-05	土師器	唐	E-3	黄褐色粘土 (民衆土)	327.5 高1.0	内：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや中	2.0%1.2 灰黄	324/12	海伊勢島
73	010-07	土師器	唐	E-3	黄褐色粘土 (民衆土)	327.5 高1.2	内：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや中	2.0%1.2 灰黄	326/12	海伊勢島
74	010-07	土師器	唐	E-3	黄褐色粘土 (民衆土)	328.4 高1.1	内：オサエ 内：ナデ	底	100%1.2 白/黄	323/12	海伊勢島
75	010-04	土師器	唐	E-3	黄褐色粘土 (民衆土)	328.2 高1.4	内：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや中	2.0%1.0 灰白	324/12	海伊勢島
76	010-06	土師器	唐	E-3	黄褐色粘土 (民衆土)	328.0 高1.9	内：オサエ・ナデ 内：ナデ	やや中	2.0%1.0 灰白	323/12	海伊勢島
77	010-09	土師器	唐	E-3	黄褐色粘土 (民衆土)	328.3 高1.2	内：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや中	2.0%1.0 灰白	326/12	海伊勢島
78	010-06	土師器	唐	E-3	黄褐色粘土 (民衆土)	328.0 高1.9	内：オサエ 内：ナデ	底	100%0.2 灰白	323/12	海伊勢島
79	010-05	土師器	唐	E-3	黄褐色粘土 (民衆土)	328.2	内：オサエ 内：ナデ	底	100%0.2 白/黄	323/12	海伊勢島
80	010-02	土師器	唐	E-3	黄褐色粘土 (民衆土)	328.0 高1.3	内：オサエ 内：ナデ	底	5.0%0.2 灰黄	323/12	海伊勢島、スリヤ付
81	010-04	土師器	唐	E-3	黄褐色粘土 (民衆土)	328.2 高1.8	内：オサエ 内：ナデ	底	100%0.2 白/黄	323/12	海伊勢島
82	010-08	土師器	唐	E-3	黄褐色粘土 (民衆土)	328.0 高1.9	内：オサエ 内：ナデ	底	2.0%1.2 灰黄	323/12	海伊勢島
83	010-04	土師器	唐	E-3	黄褐色粘土 (民衆土)	328.4 高1.3	内：オサエ・ナデ 内：ナデ	やや中	100%0.1 白/黄	324/12	海伊勢島
84	009-06	土師器	唐	E-3	黄褐色粘土 (民衆土)	328.3 高1.8	内：オサエ・ナデ 内：ナデ	やや中	100%0.4 白/黄	323/12	海伊勢島
85	010-03	土師器	唐	E-3	黄褐色粘土 (民衆土)	328.6	内：オサエ 内：ナデ	底	100%0.2 灰黄褐色	323/12	海伊勢島
86	010-03	土師器	唐	E-3	黄褐色粘土 (民衆土)	328.6 高1.8	内：オサエ・ナデ 内：ナデ	やや中	2.0%1.0 灰白	324/12	海伊勢島
87	010-02	土師器	唐	E-3	黄褐色粘土 (民衆土)	328.1 高1.9	内：オサエ・ナデ 内：ナデ	やや中	2.0%1.2 灰白	323/12	海伊勢島
88	010-01	土師器	唐	E-3	黄褐色粘土 (民衆土)	328.6 高1.8	内：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	底	2.0%1.2 灰黄	323/12	海伊勢島
89	010-05	土師器	唐	E-3	黄褐色粘土 (民衆土)	328.5 高1.7	内：オサエ・ナデ 内：ナデ	やや中	2.0%1.2 灰白	324/12	海伊勢島
90	010-02	土師器	唐	E-3	黄褐色粘土 (民衆土)	328.5 高1.7	内：オサエ・ナデ 内：ナデ	やや中	2.0%1.2 灰白	323/12	海伊勢島
91	010-04	土師器	唐	E-3	黄褐色粘土 (民衆土)	328.1 高1.1	内：オサエ 内：ナデ	底	2.0%1.2 灰黄	323/12	海伊勢島
92	009-08	土師器	唐	E-3	黄褐色粘土 (民衆土)	328.1	内：オサエ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	底	2.0%1.2 灰黄	323/12	海伊勢島
93	010-06	土師器	唐	E-3	黄褐色粘土 (民衆土)	328.5 高1.1	内：オサエ・ナデ 内：ナデ	やや中	2.0%1.2 灰黄	323/12	海伊勢島
94	010-01	土師器	唐	E-3	黄褐色粘土 (民衆土)	328.3 高1.1	内：オサエ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	底	100%0.2 白/黄	323/12	海伊勢島
95	010-01	土師器	唐	E-3	黄褐色粘土 (民衆土)	328.4 高1.1	内：ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	底	0%0.1 白/黄	323/12	海伊勢島
96	009-07	土師器	唐	E-3	黄褐色粘土 (民衆土)	328.8	内：オサエ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	底	2.0%1.2 灰黄	323/12	海伊勢島
97	010-03	土師器	唐	E-3	黄褐色粘土 (民衆土)	328.8 高1.2	内：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや中	100%0.1 灰白	323/12	海伊勢島
98	010-03	土師器	唐	E-3	黄褐色粘土 (民衆土)	328.4 高1.3	内：オサエ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	底	100%0.2 灰黄褐色	323/12	海伊勢島
99	010-02	土師器	唐	E-3	黄褐色粘土 (民衆土)	328.4 高1.1	内：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや中	2.0%1.0 灰白	323/12	海伊勢島

第3表 遺物観察表3

番号	車種 番号	種別	材料	設備等	調査区	通称・屋名等	位置 (m)	調査・技法の特長	施工	色 調	保存度	特記事項
100	01-01	土留壁	並	K-3	東陽色砂紙	東陽色砂紙	013.2 高2.1	外: オヤシ+ナデ、ヨコナデ 内: ナデ、ヨコナデ	ヤササ	1988/2 灰白	02/12	海伊勢系
101	01-05	土留壁	並	K-3	東陽色砂紙	東陽色砂紙	013.2 高2.1	外: オヤシ+ナデ、ヨコナデ 内: ナデ、ヨコナデ	壁	2.917/2 灰白	03/12	海伊勢系
102	01-04	土留壁	網	K-3	東陽色砂紙 (経塗)	東陽色砂紙 (経塗)	013.0	外: ヨコナデ、ハクメ (4-5-5.2, 3m)、クワノ 内: ヨコナデ、ナデ、クワノ	壁	1987/2 に似・黄緑	03/12	海伊勢系
103	00-04	瓦葺	縦割・小	K-3	東陽色砂紙 (経塗)	東陽色砂紙 (経塗)	012.6 高2.1	外: ヨコナデ、瓦葺 (経塗) 内: ヨコナデ、瓦葺 (経塗)	葺	1971/8 瓦葺 2.918/2 東陽色	03/12 05/12	海伊勢系 (志戸?) 赤瓦葺
104	01-06	瓦葺	瓦目葺	K-3	赤土	赤土	013.1	外: ヨコナデ、瓦葺 (経塗) 内: ヨコナデ、ヨコナデ	ヤササ	2.918/2 灰白 2.919/2 に似・黄緑	04/12	海伊勢系 赤土葺
105	01-04	土留壁	並	K-3	東陽色砂紙 (経塗)	東陽色砂紙 (経塗)	013.0	外: オヤシ+ナデ、ヨコナデ 内: ナデ、ヨコナデ	ヤササ	2.918/2 灰白	03/12	海伊勢系
106	01-03	土留壁	並	K-3	赤土	赤土	013.0	外: オヤシ+ナデ、ヨコナデ 内: ナデ、ヨコナデ	ヤササ	2.917/4 壁	03/12	海伊勢系
107	01-02	壁紙 (縦割)	並	K-3	赤土	赤土	013.2	外: ヨコナデ、ヨコナデ 内: ヨコナデ、瓦葺	ヤササ	2.918/2 灰白 2.920/1 灰白・緑	04/12	海伊勢系 瓦葺
108	01-01	瓦葺	縦割	K-3	赤土	赤土	013.0	外: ヨコナデ、瓦葺 (5本1.5m)、瓦葺 (経 塗)	葺	2.918/2 灰白 2.919/2 緑赤・緑	04/12	海伊勢系 赤瓦葺
109	01-07	瓦葺	水葺小	K-3	赤土	赤土	012.7	外: ヨコナデ、瓦葺 (経塗) 内: ヨコナデ、瓦葺 (経塗)	葺	2.918/2 灰白 2.919/2 緑赤・緑	04/12	海伊勢系 内庭瓦葺・水葺
110	01-04	土留壁	並	K-3	瓦葺色砂紙	瓦葺色砂紙	013.0 高2.1	外: オヤシ+ナデ 内: ナデ	ヤササ	2.918/4 黄緑	03/12	海伊勢系
111	01-07	土留壁	並	K-3	瓦葺色砂紙	瓦葺色砂紙	012.4 高2.1	外: オヤシ+ナデ 内: ナデ	ヤササ	2.918/2 灰白	03/12	海伊勢系
112	01-06	土留壁	並	K-3	瓦葺色砂紙	瓦葺色砂紙	012.7 高2.1	外: オヤシ+ナデ 内: ナデ	ヤササ	2.918/3 黄緑	03/12	海伊勢系
113	01-06	土留壁	並	K-3	瓦葺色砂紙	瓦葺色砂紙	013.2 高2.1	外: オヤシ+ナデ 内: ナデ	ヤササ	2.918/2 に似・緑	03/12	海伊勢系
114	01-07	土留壁	並	K-3	瓦葺色砂紙	瓦葺色砂紙	013.0 高2.1	外: オヤシ+ナデ、ヨコナデ 内: ナデ	ヤササ	2.917/4 に似・緑	03/12	海伊勢系 内庭瓦葺
115	01-05	土留壁	並	K-3	瓦葺色砂紙	瓦葺色砂紙	013.0 高2.1	外: オヤシ+ナデ 内: ナデ	ヤササ	2.918/3 黄緑	03/12	海伊勢系 内庭瓦葺
116	01-05	土留壁	並	K-3	瓦葺色砂紙 経塗1	瓦葺色砂紙 経塗1	013.0	外: オヤシ+ナデ、ヨコナデ 内: ナデ、ヨコナデ	ヤササ	2.918/2 灰白	03/12	海伊勢系
117	01-06	土留壁	並	K-3	瓦葺色砂紙	瓦葺色砂紙	013.0	外: オヤシ+ナデ、ヨコナデ 内: ナデ、ヨコナデ	ヤササ	2.918/3 黄緑	03/12	海伊勢系
118	01-03	土留壁	並	K-3	瓦葺色砂紙	瓦葺色砂紙	013.0 高2.1	外: オヤシ+ナデ、ヨコナデ 内: ナデ、ヨコナデ	ヤササ	2.918/2 灰白 2.919/4 黄緑	03/12	海伊勢系
119	01-02	土留壁	並	K-3	瓦葺色砂紙	瓦葺色砂紙	013.2	外: オヤシ+ナデ、ヨコナデ 内: ナデ、ヨコナデ	ヤササ	2.918/3 黄緑	03/12	海伊勢系
120	01-05	土留壁	付付壁	K-3	瓦葺色砂紙 経塗1	瓦葺色砂紙 経塗1	013.0	外: ナデ 内: ナデ	ヤササ	2.918/4 黄緑	04/12	海伊勢系 付付壁
121	01-04	土留壁	付付壁	K-3	瓦葺色砂紙 経塗1	瓦葺色砂紙 経塗1	013.4	外: ナデ 内: ナデ	ヤササ	2.918/4 黄緑	04/12	海伊勢系 付付壁
122	01-08	土留壁	網	K-3	瓦葺色砂紙 経塗1	瓦葺色砂紙 経塗1	01不明	外: ヨコナデ 内: ヨコナデ	ヤササ	2.918/2 灰白	小	海伊勢系
123	01-07	土留壁	網	K-3	瓦葺色砂紙 経塗1	瓦葺色砂紙 経塗1	01不明	外: ヨコナデ 内: ヨコナデ	ヤササ	2.918/2 灰白	小	海伊勢系 外庭スス付葺
124	01-01	土留壁	網	K-3	瓦葺色砂紙 経塗1	瓦葺色砂紙 経塗1	013.0	外: ハクメ (7-8-8-8)、ヨコナデ 内: ヨコナデ、ヨコナデ	ヤササ	2.918/3 黄緑 2.919/2 黄緑	03/12	海伊勢系 内庭スス付葺 内庭ツググ
125	01-03	土留壁	垂直	K-3	瓦葺	瓦葺	013.0	外: ハクメ、ヨコナデ 内: 工ナデ、ヨコナデ	ヤササ	2.918/3 黄緑	03/12	海伊勢系 外庭一部スス付葺
126	01-02	土留壁	垂直	K-3	瓦葺	瓦葺	013.0	外: ヨコナデ 内: ヨコナデ	ヤササ	2.918/3 黄緑	03/12	海伊勢系 外庭一部スス付葺
127	01-04	土留壁	垂直	K-3	瓦葺色砂紙	瓦葺色砂紙	01不明	外: ヨコナデ 内: ヨコナデ	ヤササ	2.918/2 灰白 2.919/3 に似・緑	03/12	海伊勢系外 外庭一部スス付葺
128	01-01	壁紙 (縦割)	網	K-3	瓦葺色砂紙 経塗1	瓦葺色砂紙 経塗1	01不明	外: ヨコナデ、瓦葺 内: ヨコナデ、ヨコナデ	葺	2.918/2 灰白 2.920/1 黄緑・ナデ	小	中国 龍蔵軒文
129	01-03	壁紙 (縦割)	並	K-3	瓦葺色砂紙 経塗1	瓦葺色砂紙 経塗1	01不明	外: ヨコナデ、瓦葺 (経塗) 内: ヨコナデ、瓦葺 (経塗)	葺	2.918/1 灰白 2.919/2 黄赤・緑	小	海伊勢系 内庭瓦葺と瓦葺の区別が不明に 設計
130	01-02	壁紙 (縦割)	並	K-3	瓦葺色砂紙 経塗1	瓦葺色砂紙 経塗1	01不明	外: ヨコナデ、瓦葺 内: ヨコナデ、瓦葺	葺	2.918/1 灰白 2.919/1 緑・緑	小	海伊勢系 瓦葺・瓦葺と瓦葺物不同 経付?
131	01-01	瓦葺	瓦葺	K-3	瓦葺色砂紙	瓦葺色砂紙	013.4	外: オヤシ+ナデ 内: 瓦葺ナデ	ヤササ	1984/2 灰赤	03/12	海伊勢系 内庭及び外庭外庭瓦葺
132	02-10	土留壁	小	K-2	東陽一焼色砂紙	東陽一焼色砂紙	013.0 高2.1	外: オヤシ 内: ナデ	壁	2.917/3 に似・黄緑	03/12	海伊勢系
133	02-02	土留壁	小	K-2	東陽一焼色砂紙	東陽一焼色砂紙	013.2 高2.1	外: オヤシ 内: ナデ	壁	2.917/4 に似・黄緑	03/12	海伊勢系
134	02-06	土留壁	小	K-2	東陽一焼色砂紙	東陽一焼色砂紙	013.0 高2.1	外: オヤシ+ナデ 内: ナデ	壁	2.918/4 に似・黄緑	03/12	海伊勢系
135	02-03	土留壁	小	K-2	東陽一焼色砂紙	東陽一焼色砂紙	013.0 高2.1	外: オヤシ 内: ナデ	壁	1987/4 に似・黄緑	03/12	海伊勢系
136	02-10	土留壁	小	K-2	東陽一焼色砂紙	東陽一焼色砂紙	013.4 高2.1	外: オヤシ 内: ナデ	壁	1987/3 に似・黄緑	03/12	海伊勢系
137	02-08	土留壁	小	K-2	東陽一焼色砂紙	東陽一焼色砂紙	013.0 高2.0	外: オヤシ 内: ナデ	壁	1988/3 黄緑	03/12	海伊勢系
138	02-02	土留壁	小	K-2	東陽一焼色砂紙	東陽一焼色砂紙	013.7 高2.1	外: オヤシ+ナデ 内: ナデ	壁	2.918/4 に似・緑	03/12	海伊勢系 内庭瓦葺
139	02-01	土留壁	小	K-2	東陽一焼色砂紙	東陽一焼色砂紙	013.0 高2.0	外: オヤシ 内: ナデ	壁	2.918/3 に似・黄緑	03/12	海伊勢系
140	02-06	土留壁	小	K-2	東陽一焼色砂紙	東陽一焼色砂紙	013.4 高2.1	外: オヤシ 内: ナデ	壁	1988/2 灰白	03/12	海伊勢系
141	02-03	土留壁	小	K-2	東陽一焼色砂紙	東陽一焼色砂紙	013.2 高2.1	外: オヤシ+ナデ 内: ナデ	ヤササ	2.918/4 壁	03/12	海伊勢系
142	02-04	土留壁	小	K-2	東陽一焼色砂紙	東陽一焼色砂紙	013.4 高2.1	外: オヤシ+ナデ 内: ナデ	ヤササ	2.918/3 黄緑	03/12	海伊勢系 内庭瓦葺
143	02-05	土留壁	小	K-2	東陽一焼色砂紙	東陽一焼色砂紙	013.0 高2.1	外: オヤシ 内: ナデ	壁	1987/3 に似・黄緑	03/12	海伊勢系 雲母片
144	02-11	土留壁	小	K-2	東陽一焼色砂紙	東陽一焼色砂紙	013.0 高2.1	外: オヤシ 内: ナデ	壁	2.917/4 壁	03/12	海伊勢系
145	02-12	土留壁	小	K-2	東陽一焼色砂紙	東陽一焼色砂紙	013.0 高2.1	外: オヤシ 内: ナデ	壁	1.918/4 に似・黄緑	03/12	海伊勢系 内庭瓦葺
146	02-07	土留壁	小	K-2	東陽一焼色砂紙	東陽一焼色砂紙	013.7 高2.1	外: ナデ 内: ナデ	葺	2.918/4 に似・黄緑	03/12	海伊勢系
147	02-05	土留壁	小	K-2	東陽一焼色砂紙	東陽一焼色砂紙	013.7 高2.1	外: ナデ 内: ナデ	葺	2.918/3 に似・黄緑	03/12	海伊勢系
148	02-05	土留壁	小	K-2	東陽一焼色砂紙	東陽一焼色砂紙	013.7 高2.1	外: オヤシ 内: ナデ	葺	2.918/3 に似・黄緑 2.918/4 に似・黄緑 2.919/1 黄緑	03/12	海伊勢系 内庭一部スス付葺 雲母片

第4表 遺物観察表4

番号	東洋館 番号	種・質	器種等	調査坑	遺構・層名等	法量(cm)	調査・技法の特徴	出土	色 調	残存度	特記事項
149	527-11	土師器	皿	B-2	黒焼・褐色釉彩	228.2 高1.2	焼・オサエ 内・ナデ	焼	5.58(7) に近い焼	C3/12	海伊集系
150	527-09	土師器	皿	B-2	黒焼・褐色釉彩	228.3 高1.2	焼・オサエ・ナデ 内・ナデ	焼	5.58(7) 浅黄焼	C3/12	海伊集系
151	521-03	土師器	皿	B-2	鉄赤土	228.6 高1.3	焼・ナデ 内・ナデ	焼	5.58(7) 浅黄焼	C3/12	海伊集系 摩滅
152	524-07	土師器	皿	B-2	黒焼・褐色釉彩	228.4 高1.2	焼・オサエ 内・ナデ	焼	5.58(7) に近い焼	C3/12	海伊集系
153	529-02	土師器	皿	B-2	黒焼・褐色釉彩	228.5 高1.4	焼・オサエ・ナデ 内・ナデ	ヤササ	5.58(7) 浅黄焼	C3/12	海伊集系
154	527-03	土師器	皿	B-2	黒焼・褐色釉彩	228.5 高1.3	焼・オサエ・ナデ 内・ナデ	焼	5.58(7) に近い焼	C4/12	海伊集系 磨滅大
155	523-06	土師器	皿	B-2	黒焼・褐色釉彩	228.8 高1.5	焼・オサエ・ナデ 内・ナデ	焼	5.58(7) に近い焼	C4/12	海伊集系
156	524-03	土師器	皿	B-2	黒焼・褐色釉彩	228.2 高1.6	焼・オサエ 内・ナデ	焼	5.58(7) に近い焼	C5/12	海伊集系 磨滅甚大 磨滅大
157	527-04	土師器	皿	B-2	黒焼・褐色釉彩	228.2 高1.7	焼・オサエ 内・ナデ	焼	5.58(7) に近い焼	C5/12	海伊集系 磨滅大
158	529-09	土師器	皿	B-2	黒焼・褐色釉彩	228.8 高1.8	焼・オサエ・ナデ 内・ナデ	焼	5.58(7) に近い焼	C4/12	海伊集系
159	527-08	土師器	皿	B-2	黒焼・褐色釉彩	228.8 高1.7	焼・オサエ・ヨコナデ 内・ナデ・ヨコナデ	焼	5.58(7) に近い焼	C4/12	海伊集系
160	526-01	土師器	皿	B-2	黒焼・褐色釉彩	228.1 高1.1	焼・オサエ・ヨコナデ 内・ナデ・ヨコナデ	ヤササ	5.58(7) 灰白	C3/12	海伊集系 内面工具痕 磨滅甚大
161	527-12	土師器	皿	B-2	黒焼・褐色釉彩	228.0 高2.8	焼・オサエ 内・ナデ・ヨコナデ	焼	5.58(7) に近い焼	C3/12	海伊集系
162	526-04	土師器	皿	B-2	黒焼・褐色釉彩	228.0 高2.8	焼・オサエ 内・ナデ・ヨコナデ	焼	5.58(7) に近い焼	C3/12	海伊集系 磨滅大
163	524-04	土師器	碗	B-2	黒焼・褐色釉彩	B4.7	焼・タズリ・土赤ナデ 内・タズリ・土赤ナデ	4号 長・5.58(7) 短・5.58(7) 磨滅大	B3/12	海伊集系 内面工具痕	
164	524-03	土師器	碗	B-2	黒焼・褐色釉彩	C28.2	焼・ハタメ (5.58)・タズリ・ヨコナデ 内・土赤ナデ・ヨコナデ	焼	5.58(7) 浅黄焼	C3/12	海伊集系
165	529-03	土師器	鉢	B-2	鉄赤土	C28.8	焼・ハタメ (5.58)・ヨコナデ 内・土赤ナデ・ナデ・ヨコナデ	焼	5.58(7) 浅黄焼	C3/12	海伊集系
166	529-02	土師器	鉢	B-2	黒焼・褐色釉彩	C28.9	焼・ヨコナデ 内・ヨコナデ	焼	5.58(7) に近い焼	C3/12	海伊集系 外底土付
167	523-02	土師器	鉢	B-2	黒焼・褐色釉彩	C28.9	焼・オサエ・ヨコナデ 内・ヨコナデ	焼	5.58(7) 灰白	C3/12	海伊集系 外一部土付
168	523-01	土師器	鉢	B-2	黒焼・褐色釉彩	C34.9	焼・ヨコナデ (4.58)・ヨコナデ 内・土赤ナデ・ヨコナデ	焼	5.58(7) 灰白 5.58(7) に近い焼	C3/12	海伊集系 外一部土付
169	523-03	土師器	鉢	B-2	黒焼・褐色釉彩	C36.0	焼・ヨコナデ 内・土赤ナデ・ヨコナデ	焼	5.58(7) 灰白 5.58(7) に近い焼	C3/12	海伊集系 外底土付
170	529-01	土師器	鉢	B-2	黒焼・褐色釉彩	C34.0	焼・オサエ・ナデ・ヨコナデ 内・ナデ・ヨコナデ	焼	5.58(7) に近い焼	C3/12	海伊集系
171	524-04	土師器	鉢	B-2	黒焼・褐色釉彩	C24.8	焼・ヨコナデ 内・ヨコナデ	焼	5.58(7) に近い焼 5.58(7) 灰白	C3/12	海伊集系 内面土付
172	524-01	土師器	煮炊	B-2	黒焼・褐色釉彩	C21.8	焼・ナデ・ヨコナデ 内・ナデ・ヨコナデ	焼	5.58(7) に近い焼	C3/12	海伊集系 外底土付
173	524-09	土師器	平皿 片口鉢	B-2	黒焼・褐色釉彩	C21.8	焼・ハタメ (5.58)・ヨコナデ 内・ヨコナデ・タズリ	焼	5.58(7) に近い焼	C3/12	海伊集系 片口鉢
174	524-02	土師器	平皿 鉢	B-2	黒焼・褐色釉彩	C21.6	焼・ハタメ (6.58)・ヨコナデ 内・土赤ナデ・ヨコナデ	焼	5.58(7) 灰白 5.58(7) に近い焼	C3/12	海伊集系 外底土付
175	525-02	陶器	縁付小皿	B-2	黒焼・褐色釉彩	C21.2	焼・ヨコナデ・黒焼 (灰白)	焼	5.58(7) 浅黄焼 5.58(7) オリーブ黄・焼	C3/12	古瀬戸 灰白
176	524-06	陶器	縁付小皿	B-2	黒焼・褐色釉彩	C21.4	焼・ヨコナデ・黒焼 (灰白)	焼	5.58(7) 灰白 5.58(7) オリーブ黄・焼	C3/12	瀬戸実直度
177	525-06	陶器	小皿	B-2	黒焼・褐色釉彩	B4.5	焼・ヨコナデ・黒焼 (灰白)	焼	5.58(7) 灰白 5.58(7) 灰白・焼	B3/12	瀬戸実直度 (古瀬戸)
178	524-07	陶器	浅皿	B-2	黒焼・褐色釉彩	B5.4	焼・ヨコナデ・ヨコナデ 内・ヨコナデ・黒焼 (灰白)	焼	5.58(7) 灰白 5.58(7) オリーブ黄・焼	B3/12	古瀬戸 灰白・灰白・ナデ・ナデ
179	529-02	陶器	天目茶碗	B-2	黒焼・褐色釉彩	C22.0	焼・ヨコナデ・黒焼 (灰白)	焼	5.58(7) に近い焼 5.58(7) オリーブ黄・焼	C3/12	瀬戸実直度
180	529-03	陶器	天目茶碗	B-2	黒焼・褐色釉彩	C21.5	焼・ヨコナデ・黒焼 (灰白)	焼	5.58(7) に近い焼 5.58(7) オリーブ黄・焼	C4/12	瀬戸実直度
181	529-06	陶器	茶碗	B-2	黒焼・褐色釉彩	C21.2	焼・ヨコナデ・オサエ・黒焼 (灰白)	焼	5.58(7) に近い焼 5.58(7) オリーブ黄・焼	C3/12	実直度
182	524-05	陶器	縁付	B-2	黒焼・褐色釉彩	C21.0	焼・ヨコナデ・黒焼 (灰白)	焼	5.58(7) に近い焼 5.58(7) オリーブ黄・焼	小片	瀬戸実直度
183	525-07	陶器	鉢	B-2	黒焼・褐色釉彩	C21.0	焼・ヨコナデ・黒焼 (灰白)	焼	5.58(7) に近い焼 5.58(7) オリーブ黄・焼	小片	古瀬戸 縁付大皿
184	525-04	陶器	鉢	B-2	黒焼・褐色釉彩	C20.8	焼・ヨコナデ・黒焼 (灰白)	焼	5.58(7) に近い焼 5.58(7) オリーブ黄・焼	C3/12	古瀬戸 縁付付大皿 片口
185	521-01	陶器	鉢	B-2	鉄赤土	B4.0	焼・ヨコナデ 内・ヨコナデ・黒焼	焼	5.58(7) 浅黄焼 5.58(7) 灰白	B3/12	古瀬戸 縁付付大皿
186	525-05	陶器	鉢	B-2	黒焼・褐色釉彩	B32.0	焼・ヨコナデ 内・ヨコナデ・黒焼 (灰白)	焼	5.58(7) 浅黄焼 5.58(7) 灰白	C3/12	古瀬戸
187	529-01	陶器	中鉢	B-2	黒焼・褐色釉彩	C21.8	焼・ヨコナデ・黒焼 (灰白)	焼	5.58(7) 浅黄焼 5.58(7) 灰白	C3/12	瀬戸実直度 C21.8(7) 浅黄焼
188	525-01	磁器 (青磁)	碗	B-2	黒焼・褐色釉彩	C21.0	焼・ヨコナデ・黒焼	焼	5.58(7) 灰白 5.58(7) 灰白・焼	小片	中瀬戸
189	525-03	磁器 (青磁)	碗	B-2	黒焼・褐色釉彩	B4.5	焼・ヨコナデ・ヨコナデ・黒焼	焼	5.58(7) 灰白 5.58(7) オリーブ黄・焼	B3/12	中瀬戸 灰白・灰
190	524-08	磁器 (白磁)	碗	B-2	黒焼・褐色釉彩	C20.8	焼・ヨコナデ・ヨコナデ 内・ヨコナデ・黒焼	焼	5.58(7) 灰白 5.58(7) オリーブ黄・焼	C3/12	中瀬戸 灰白・灰
191	529-05	磁器 (白磁)	丸皿	B-2	黒焼・褐色釉彩	C20.8	焼・ヨコナデ・黒焼	焼	5.58(7) 灰白 5.58(7) オリーブ黄・焼	C3/12	中瀬戸 灰白・灰
192	529-04	磁器 (白磁)	丸皿	B-2	黒焼・褐色釉彩	C20.8	焼・ヨコナデ・黒焼	焼	5.58(7) 灰白 5.58(7) オリーブ黄・焼	C3/12	中瀬戸 灰白・灰
193	521-01	磁器 (白磁)	和鉢	B-2	黒焼・褐色釉彩	B4.0	焼・ヨコナデ・黒焼	焼	5.58(7) 灰白 5.58(7) オリーブ黄・焼	2023-Y-06-1	
194	521-03	磁器 (白磁)	和鉢	B-2	黒焼・褐色釉彩	B4.0	焼・ヨコナデ・黒焼	焼	5.58(7) 灰白 5.58(7) オリーブ黄・焼	2023-Y-06-3	
195	521-02	磁器 (白磁)	和鉢	B-2	黒焼・褐色釉彩	B4.0	焼・ヨコナデ・黒焼	焼	5.58(7) 灰白 5.58(7) オリーブ黄・焼	2023-Y-06-2	
196	521-06	陶器	丸皿	B-2	赤土	C21.8	焼・ヨコナデ・ヨコナデ・黒焼 (灰白)	焼	5.58(7) 灰白 5.58(7) 灰白・焼	C4/12	瀬戸実直度 (古瀬戸)
197	521-02	陶器	碗	B-2	赤土	C21.2	焼・ヨコナデ・ヨコナデ・黒焼 (灰白)	焼	5.58(7) 浅黄焼 5.58(7) 灰白・焼	C3/12	瀬戸実直度 (古瀬戸)

第5表 遺物観察表5

番号	実測 番号	種・質	器種等	調査地	遺構・層名等	法量 (cm)	調査・技法の特徴	出土	色 調	保存度	特記事項
198	E2-64	陶器	赤土	B-2	赤成土	高4.6	赤・ロウワズリ、施釉（鉄黒・黄） 内：ロウワズリ	底	515/2 焼成焼 黒5.0 黄 焼	底5/2	瀬戸黄瀬成
199	E2-64	磁器 （黄土）	横切込	B-2	赤成土	口底.0	赤・ロウワズリ、施釉 内：ロウワズリ、施釉	底	2.508/2 灰白	D4/2	中国産
200	E2-65	磁器 （黄土）	横切込	B-2	赤成土	口底.0	赤・ロウワズリ、施釉 内：ロウワズリ、施釉	底	焼5.0 灰白 1005/1 焼成焼/焼	C3/2	中国産 内面磨削
201	E2-65	石製品	灰白	B-2	赤成土	口底.3 高11.2	磨削仕上げと2箇所灰白 磨削面あり				上底 磨214g 磨面磨削
202	E2-64	土師器	灰	B-3	灰褐色粘土層シルト 褐色砂	口底.0 高1.3	赤・オセエ・ナデ 内：ナデ	やや底	5.508/3 浅黄焼	C3/2	南伊勢系
203	E2-65	土師器	灰	B-3	灰褐色粘土層シルト 褐色砂	口底.0 高1.5	赤・オセエ・ナデ 内：ナデ	やや底	5.508/2 灰白	C3/2	南伊勢系
204	E2-62	陶器	天目青磁	B-3	灰褐色粘土層シルト 褐色砂	底4.2	赤・ロウワズリ、ロウワズリ、施釉（鉄黒・黄） 内：ロウワズリ、施釉（鉄黒）	底	1008/2 灰白 黒5.0 黄 焼	底12/2	瀬戸黄瀬成
205	E2-61	陶器	鉄	B-3	灰褐色粘土層シルト 褐色砂	底14.0	赤・ロウワズリ、ロウワズリ、施釉（鉄黒） 内：ロウワズリ、施釉（鉄黒）	底	焼5.0 灰白 1005/4 口底140g 焼	底3/2	古瀬戸 遺構大穴又は新瀬戸遺構か 三足あり 付1（1箇所付）
206	E2-64	土師器	灰	B-3	黄褐色シルト－灰 褐色砂	口底.0	赤・オセエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや底	5.508/3 浅黄焼	C3/2	南伊勢系
207	E2-62	土師器	鉄	B-3	黄褐色シルト－灰 褐色砂	口不明	赤：ヨコナデ 内：ヨコナデ	やや底	5087/3 口底140g	小片	南伊勢系
208	E2-64	陶器	九山	B-3	黄褐色シルト－灰 褐色砂	口底.0	赤・ロウワズリ、施釉（鉄黒） 内：ロウワズリ、施釉（鉄黒）	底	焼5.0 灰白 5.087/2 灰白 焼	C3/2	瀬戸黄瀬成
209	E2-65	陶器	鉄	B-3	黄褐色シルト－灰 褐色砂	口不明	赤・ロウワズリ、施釉（鉄黒） 内：ロウワズリ、施釉（鉄黒）	やや底	5.508/2 灰白 5087/2 灰白 焼	小片	古瀬戸 新瀬戸大穴又は新瀬戸大穴か
210	E2-64	陶器	鉄	B-3	黄褐色シルト－灰 褐色砂	口不明	赤・ロウワズリ、施釉（鉄黒） 内：ロウワズリ、施釉（鉄黒）	やや底	2.508/2 灰白	小片	古瀬戸 新瀬戸大穴又は新瀬戸大穴か
211	E2-63	陶器	横切込	B-3	黄褐色シルト－灰 褐色砂	口不明	赤・ロウワズリ、施釉（鉄黒） 内：ロウワズリ、施釉（鉄黒）	底	7.508/2 浅黄焼 5087/1 焼成焼/焼	小片	古瀬戸
212	E2-61	陶器	横切込	B-3	黄褐色シルト－灰 褐色砂	口底.0	赤・ロウワズリ、施釉（鉄黒） 内：ロウワズリ、施釉（鉄黒）	底	1008/2 灰白 5087/1 焼成焼/焼	C3/2	瀬戸黄瀬成 土師器の磨削
213	E2-65	磁器 （黄土）	横	B-3	黄褐色シルト－灰 褐色砂	口不明	赤・ロウワズリ、施釉 内：ロウワズリ、施釉	底	焼5.0 灰白 1005/5 口底140g 焼	小片	中国産 経線文
214	E2-63	磁器 （黄土）	横	B-3	黄褐色シルト－灰 褐色砂	底4.0	赤・ロウワズリ、施釉 内：ロウワズリ、施釉	底	焼5.0 灰白 1005/2 オリーブ灰 焼	底3/2	中国産 横出山
215	E2-61	磁器 （黄土）	横切込	B-3	黄褐色シルト－灰 褐色砂	底4.0	赤・ロウワズリ、ロウワズリ、施釉 内：ロウワズリ、施釉	底	焼5.0 灰白 5.508/1 焼成焼/焼	底4/2	中国産 見込平皿文 横出山表 磨削無効
216	E2-61	磁器 （黄土）	灰	B-3	黄褐色シルト－灰 褐色砂	底2.8	赤・ロウワズリ、施釉 内：ロウワズリ、施釉	底	焼5.0 灰白 1008/1 焼成焼/焼	底2/2	中国産 見込に横入した1 横出山表 磨削無効
217	E2-67	陶器	灰	B-3	灰層	口底.0	赤・ロウワズリ、施釉（鉄黒） 内：ロウワズリ、施釉（鉄黒）	底	5087/2 灰白 焼 5087/2 灰白 焼	C3/2	瀬戸黄瀬成
218	E2-66	陶器	九山	B-3	灰層	口底.3 高2.5	赤・ロウワズリ、ロウワズリ、施釉（鉄黒） 内：ロウワズリ、施釉（鉄黒）	やや底	1008/1 灰白 2.508/4 口底140g 焼	C3/2	瀬戸黄瀬成
219	E2-65	陶器	横切込	B-3	灰層	口底.0	赤・ロウワズリ、施釉（鉄黒・黄） 内：ロウワズリ、施釉（鉄黒）	底	5.508/2 浅黄焼 5087/1 焼成焼/焼	C3/2	瀬戸黄瀬成 内面磨削
220	E2-61	陶器	青灰	B-3	灰層	口底.0 高1.5	赤・ナデ、工具ナデ 内：ナデ	やや底	5087/6 焼 2.5087/6 焼	C3/2	黄瀬成（多色） 内面磨削に磨削
221	E2-64	黄銅製品	横切込	B-3	灰土層	口底.5 高1.5					2022-10-04 家来遺物
222	E2-65	土師器	赤黄瀬	B-3	褐色粘土層シルト （黄土層）	口底.5 高1.7	赤・オセエ、工具ナデ、ヨコナデ 内：ヨコナデ、磨み磨削	やや底	2.508/6 焼	C3/2	中伊勢系
223	E2-66	土師器	赤黄瀬	B-3	褐色粘土層シルト （黄土層）	口底.0 高1.8	赤：ナデ、ヨコナデ 内：ヨコナデ	やや底	5086/4 口底140g	C4/2	南伊勢系 磨み磨削
224	E2-62	土師器	赤黄瀬	B-3	褐色粘土層シルト （黄土層）	口底.4 高1.3	赤：ハタメ（3割）ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや底	5085/6 焼	C3/2	南伊勢系
225	E2-61	土師器	赤黄瀬	B-3	褐色粘土層シルト （黄土層）	口底.5 高1.2	赤：ハタメ（1-8割）ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや底	5087/6 焼 5.508/2 浅黄焼 5.508/3 口底140g 焼	C3/2	南伊勢系
226	E2-63	土師器	赤黄瀬	B-3	褐色粘土層シルト （黄土層）	口底.0	赤：ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや底	5087/4 口底140g	C4/2	南伊勢系か 内面工具磨
227	E2-64	土師器	赤黄瀬	B-3	褐色粘土層シルト （黄土層）	口底.0 高1.2	赤：ナデ、ナデ 内：ナデ	やや底	5087/4 口底140g 5.508/3 浅黄焼	底3/2	南伊勢系か
228	E2-65	磁器 （黄土）	目録表	B-3	褐色粘土層シルト （黄土層）	口不明	赤・ロウワズリ、施釉 内：ロウワズリ、施釉	底	焼5.0 灰白	小片	中国産 草花文
229	E2-62	陶器	天目青磁	B-3	褐色粘土層シルト	口底.5	赤・ロウワズリ、ロウワズリ、施釉（鉄黒） 内：ロウワズリ、施釉（鉄黒）	底	2.508/2 灰白 5087/2 灰白 焼	C3/2	瀬戸黄瀬成
230	E2-63	磁器 （黄土）	横	B-3	褐色粘土層シルト	底4.1	赤・ロウワズリ、ロウワズリ、施釉 内：ロウワズリ、施釉	底	焼5.0 灰白	底11/2	瀬戸黄瀬成 見込文
231	E2-63	土師器	小灰	B-4	褐色色砂	口底.0 高1.8	赤・オセエ 内：ナデ	底	5.508/4 浅黄焼	C3/2	南伊勢系
232	E2-11	土師器	灰	B-4	褐色色砂	口底.0 高1.9	赤・オセエ・ナデ 内：ナデ	やや底	5086/4 浅黄	C3/2	南伊勢系
233	E2-66	土師器	小灰	B-4	褐色色砂	口底.0 高1.1	赤・オセエ・ナデ 内：ナデ	やや底	5086/4 浅黄	C3/2	南伊勢系
234	E2-64	土師器	小灰	B-4	褐色色砂	口底.0 高1.4	赤・オセエ・ナデ 内：ナデ	底	5.5087/4 口底140g	C3/2	南伊勢系
235	E2-62	土師器	小灰	B-4	褐色色砂	口底.0 高1.3	赤・オセエ・ナデ 内：ナデ	底	5087/4 口底140g	C4/2	南伊勢系
236	E2-64	土師器	小灰	B-4	褐色色砂	口底.0 高1.9	赤・オセエ・ナデ 内：ナデ	底	1008/3 浅黄焼	C4/2	南伊勢系
237	E2-63	土師器	小灰	B-4	褐色色砂	口底.0 高1.9	赤・オセエ・ナデ 内：ナデ	底	5.508/6 焼	C4/2	南伊勢系
238	E2-64	土師器	小灰	B-4	褐色色砂	口底.0 高1.3	赤・オセエ・ナデ 内：ナデ	底	5.5087/3 口底140g	C4/2	南伊勢系
239	E2-64	土師器	灰	B-4	褐色色砂	口底.0 高2.0	赤・オセエ・ナデ 内：ナデ	やや底	5.508/4 浅黄焼	C3/2	南伊勢系
240	E2-63	土師器	灰	B-4	褐色色砂	口底.0 高1.3	赤・オセエ・ナデ 内：ナデ	やや底	5.508/2 灰白	C3/2	南伊勢系 内面工具磨
241	E2-65	土師器	灰	B-4	褐色色砂	口底.4 高2.3	赤・オセエ・ナデ 内：ナデ	底	1008/3 浅黄焼	C5/2	南伊勢系

第6表 遺物観察表6

番号	調査 番号	群・期	器種等	調査地	遺構・層名等	法量(㎝)	調整・注記の特徴	出土	色 調	保存度	特記事項
242	253-09	土師器	皿	84-4	焼成土器	526.2 高2.2	焼:オサエ・ナド 内:ナド	焼	526/2 灰白	23/12	海伊勢系
243	253-01	土師器	皿	84-4	焼成土器	526.6 高2.3	焼:オサエ・ナド 内:ナド	焼	526/2 灰白	24/12	海伊勢系
244	253-04	土師器	皿	84-4	焼成土器	526.4 高2.1	焼:オサエ・ナド 内:ナド	やや中	526/3 浅黄褐色	25/12	海伊勢系
245	252-02	土師器	皿	84-4	焼成土器	526.1 高2.1	焼:オサエ・ナド 内:ナド	やや中	526/3 浅黄褐色	23/12	海伊勢系
246	253-06	土師器	皿	84-4	焼成土器	526.1 高2.1	焼:オサエ・ナド 内:ナド	焼	526/2 灰白 526/3 浅黄褐色	24/12	海伊勢系
247	254-06	土師器	皿	84-4	焼成土器	526.6 高2.2	焼:オサエ・ナド 内:ナド	焼	526/3 に近い黄褐色	24/12	海伊勢系
248	253-02	土師器	皿	84-4	焼成土器	526.4 高2.3	焼:オサエ・ナド 内:ナド	焼	526/3 に近い黄褐色	25/12	海伊勢系
249	254-10	土師器	皿	84-4	焼成土器	526.8 高2.6	焼:オサエ・ナド 内:ナド	焼	526/2 灰白色 526/3 灰白	23/12	海伊勢系
250	254-07	土師器	皿	84-4	焼成土器	526.9 高2.3	焼:オサエ・ナド, ヨコナデ 内:ナド, ヨコナデ	焼	526/4 浅黄褐色	24/12	海伊勢系
251	251-05	土師器	皿	84-4	焼成土器	526.8 高2.5	焼:オサエ・ナド 内:ナド	焼	526/2 灰白	24/12	海伊勢系
252	253-08	土師器	皿	84-4	焼成土器	526.6 高2.7	焼:オサエ・ナド 内:ナド	やや中	526/4 浅黄褐色	23/12	海伊勢系
253	253-07	土師器	皿	84-4	焼成土器	526.7 高2.7	焼:オサエ・ナド 内:ナド	やや中	526/3 に近い黄褐色	24/12	海伊勢系
254	253-05	土師器	皿	84-4	焼成土器	526.6 高2.6	焼:オサエ・ナド 内:ナド	やや中	526/3 浅黄褐色	23/12	海伊勢系
255	253-08	土師器	皿	84-4	焼成土器	526.8 高2.9	焼:オサエ・ナド 内:ナド	やや中	526/3 浅黄褐色	23/12	海伊勢系
256	253-01	土師器	小皿	84-4	焼成土器	527.6 高2.6	焼:オサエ・ナド 内:ナド	焼	526/4 に近い黄褐色	25/12	海伊勢系
257	252-08	土師器	皿	84-4	焼成土器	526.1 高2.1	焼:オサエ・ナド 内:ナド	やや中	526/2 灰白	23/12	海伊勢系
258	253-03	土師器	皿	84-4	焼成土器	526.8 高2.1	焼:オサエ・ナド 内:ナド	やや中	526/3 浅黄褐色	24/12	海伊勢系
259	252-10	土師器	皿	84-4	焼成土器	526.2 高2.2	焼:オサエ・ナド 内:ナド	やや中	526/3 浅黄褐色	24/12	海伊勢系
260	253-10	土師器	皿	84-4	焼成土器	526.2 高2.6	焼:オサエ・ナド 内:ナド	焼	526/4 に近い黄褐色	24/12	海伊勢系
261	251-04	土師器	皿	84-4	焼成土器	526.3 高2.3	焼:オサエ・ナド 内:ナド	焼	526/4 浅黄褐色	23/12	海伊勢系
262	251-07	土師器	皿	84-4	焼成土器	526.3 高2.1	焼:オサエ・ナド 内:ナド	焼	526/3 に近い黄褐色	23/12	海伊勢系
263	251-02	土師器	皿	84-4	焼成土器	526.6 高2.6	焼:オサエ・ナド 内:ナド	焼	526/4 に近い黄褐色	24/12	海伊勢系
264	250-08	土師器	皿	84-4	焼成土器	526.7 高2.7	焼:オサエ・ナド 内:ナド	焼	526/3 に近い黄褐色	24/12	海伊勢系
265	254-08	土師器	皿	84-4	焼成土器	526.2 高2.8	焼:オサエ・ナド 内:ナド	焼	526/2 灰白	23/12	海伊勢系
266	254-09	土師器	皿	84-4	焼成土器	526.4 高2.8	焼:オサエ・ナド 内:ナド	焼	526/3 浅黄褐色	23/12	海伊勢系
267	250-03	土師器	皿	84-4	焼成土器	527.2 高2.3	焼:オサエ・ナド 内:ナド	焼	526/4 に近い黄褐色	23/12	海伊勢系
268	250-02	土師器	皿	84-4	焼成土器	527.5 高2.6	焼:オサエ・ナド 内:ナド	焼	526/2 に近い黄褐色	24/12	海伊勢系
269	253-05	土師器	皿	84-4	焼成土器	526.9 高2.1	焼:オサエ・ナド 内:ナド	焼	526/3 に近い黄褐色	24/12	海伊勢系
270	253-02	土師器	皿	84-4	焼成土器	526.9 高2.2	焼:オサエ・ナド 内:ナド	やや中	526/4 浅黄褐色	23/12	海伊勢系
271	253-01	土師器	皿	84-4	焼成土器	526.8 高2.4	焼:オサエ・ナド 内:ナド	やや中	526/4 浅黄褐色	23/12	海伊勢系
272	252-05	土師器	小皿	84-4	焼成土器	527.9 高2.4	焼:オサエ・ナド 内:ナド	やや中	526/4 浅黄褐色	24/12	海伊勢系 量小大
273	251-04	土師器	皿	84-4	焼成土器	526.8 高2.5	焼:オサエ 内:ナド	焼	2.57/2 灰黄 2.57/3 黄褐色	23/12	海伊勢系 縁部に黒くスス付着
274	253-10	土師器	皿	84-4	焼成土器	526.2 高2.1	焼:オサエ・ナド 内:ナド	やや中	526/3 浅黄褐色	24/12	海伊勢系
275	252-06	土師器	皿	84-4	焼成土器	526.9 高2.4	焼:オサエ・ナド 内:ナド	焼	526/3 に近い黄褐色	23/12	海伊勢系
276	253-06	土師器	皿	84-4	焼成土器	526.9 高2.6	焼:オサエ・ナド 内:ナド	やや中	526/3 黄褐色 526/2 黄褐色	23/12	海伊勢系
277	250-01	土師器	皿	84-4	焼成土器	526.5 高2.2	焼:オサエ・ナド 内:ナド	焼	526/2 黒 2.57/3 黄褐色	23/12	海伊勢系 内面黒部にスス付着
278	253-07	土師器	皿	84-4	焼成土器	526.4 高2.1	焼:オサエ・ナド 内:ナド	焼	526/2 灰白	23/12	海伊勢系
279	253-08	土師器	皿	84-4	焼成土器	526.1 高2.1	焼:オサエ・ナド, ヨコナデ 内:ナド, ヨコナデ	焼	526/2 灰白	24/12	海伊勢系
280	252-01	土師器	皿	84-4	焼成土器	526.4 高2.9	焼:オサエ・ナド 内:ナド	やや中	526/3 浅黄褐色	23/12	海伊勢系
281	252-09	土師器	皿	84-4	焼成土器	526.6 高2.7	焼:オサエ・ナド, ヨコナデ 内:ナド, ヨコナデ	やや中	526/2 灰白	24/12	海伊勢系
282	250-04	土師器	皿	84-4	焼成土器	527.1 高2.1	焼:オサエ・ナド 内:ナド	焼	526/3 浅黄褐色	23/12	海伊勢系
283	253-09	土師器	皿	84-4	焼成土器	527.2 高2.1	焼:オサエ・ナド, ヨコナデ 内:ナド, ヨコナデ	焼	526/3 に近い黄褐色	23/12	海伊勢系
284	253-05	土師器	皿	84-4	焼成土器	526.8 高2.9	焼:オサエ・ナド 内:ナド	焼	526/3 浅黄褐色	23/12	海伊勢系
285	250-10	土師器	皿	84-4	焼成土器	527.6 高2.9	焼:オサエ・ナド, ヨコナデ 内:ナド, ヨコナデ	焼	526/4 に近い黄褐色	23/12	海伊勢系
286	253-10	土師器	皿	84-4	焼成土器	527.5 高2.9	焼:オサエ・ナド, ヨコナデ 内:ナド, ヨコナデ	焼	526/2 灰白	23/12	海伊勢系 内面黒褐色
287	250-07	土師器	皿	84-4	焼成土器	526.4 高2.9	焼:オサエ・ナド, ヨコナデ 内:ナド, ヨコナデ	焼	526/4 に近い黄褐色	23/12	海伊勢系
288	252-07	土師器	皿	84-4	焼成土器	526.6 高2.1	焼:ナド, ヨコナデ 内:ナド, ヨコナデ	やや中	526/2 灰白	23/12	海伊勢系
289	251-08	土師器	鉢	84-4	焼成土器	33不明	焼:スズメナデ, ヌズリ 内:ナド	焼	2.56/4 に近い黄褐色	2/12	海伊勢系のみ
290	249-04	土師器	鉢	84-4	焼成土器	33不明	焼:ヨコナデ 内:ヨコナデ	焼	526/2 灰白 526/3 灰褐色	小片	海伊勢系 内面スス付着
291	249-05	土師器	鉢	84-4	焼成土器	33不明	焼:ヨコナデ 内:ヨコナデ	焼	526/2 灰白 526/3 灰褐色	小片	海伊勢系 内面スス付着
292	249-02	土師器	鉢	84-4	焼成土器	325.9	焼:ハクメ (赤土) 30/1 内:スズメナデ, ヌズリ	やや中	526/3 浅黄褐色	23/12	海伊勢系

第7表 遺物観察表7

番号	実測 番号	種・質	器種等	調査地	遺構・層名等	法量(cm)	調査・技法の特徴	出土	色 調	残存度	特記事項
293	64-01	土師器	鉢	B-4	焼成色釉部	33.0-2	外: ハクマ (3.5x3.0x), 3コナデ 内: ナデ	底 3.0x0.2 灰白 3.0x0.2 灰黄褐	23/12	海洋部系 外蓋3ス付着	
294	64-02	土師器	煎鍋	B-4	焼成色釉部	33.0平	外: ナデ, ハクマ (4.0x3.0) 内: ナデ	やや底 3.0x0.2 灰白	小片	中北部系 外蓋3ス付着	
295	64-03	土師器	煎鍋	B-4	焼成色釉部	33.0平	外: ナデ 内: ナデ	やや底 3.0x0.2 灰白	小片	海洋部系 外蓋3ス付着	
296	64-02	土師器	煎鍋	B-4	焼成色釉部	33.0-4	外: ハクマ (3.5x3.0x), 3コナデ 内: ナデ, 3コナデ	底 3.0x0.2 4 コナデ横紋	23/12	海洋部系 外蓋3ス付着	
297	64-01	土師器	煎鍋	B-4	焼成色釉部	33.0-4	外: ナデ, ハクマ (4.0x3.0) 内: ナデ	底 3.0x0.2 浅黄褐	23/12	海洋部系	
298	64-01	五葉土器	煎鍋	B-4	焼成色釉部	33.0-4	外: ミナモト, クワリ 内: 工蓋ナデ	底 3.0x0.4 横	23/12	焼成部 外蓋3ス付着	
299	64-02	陶器	五葉土器	B-4	焼成色釉部	33.0-6	外: ロウワズリ, ロウワナデ, 施釉 (灰黄・黄 緑) 内: ロウワナデ, 施釉 (灰黄)	底 3.0x0.1 灰白 3.0x0.1 黄褐・横	23/12	瀬戸系陶器	
300	64-01	陶器	横紋部	B-4	焼成色釉部	33.0-12	外: ロウワズリ, 施釉 (赤銅緑) 内: ロウワズリ, 施釉 (赤銅緑)	底 3.0x0.2 灰白 3.0x0.2 赤黄・横	23/12	瀬戸系陶器	
301	64-07	陶器	向付小	B-4	焼成色釉部	33.0-3	外: ロウワズリ, 施釉 (赤銅緑) 内: ロウワズリ, 施釉 (赤銅緑)	底 3.0x0.2 灰白	23/12	瀬戸系陶器 (古型) 見込み部装	
302	64-03	陶器	小鉢小	B-4	焼成色釉部	33.0-6	外: ロウワズリ, ロウワナデ 内: ロウワズリ	やや底 2.5x0.2 灰白	23/12	古瀬戸 内蓋陶器	
303	64-02	陶器	小鉢小	B-4	焼成色釉部	33.0-2	外: ロウワズリ, ロウワナデ 内: ロウワズリ	やや底 2.5x0.2 灰白	23/12	古瀬戸 内蓋陶器	
304	64-02	陶器	鉢	B-4	焼成色釉部	33.0平	外: ロウワズリ, 横紋, 施釉 (灰黄)	底 3.0x0.2 4 コナデ 2.5x0.4 黄褐・横	小片	古瀬戸 横紋付大皿	
305	64-02	陶器	鉢	B-4	焼成色釉部	33.0-4	外: ロウワズリ, 施釉 (灰黄) 内: ロウワズリ, 施釉 (灰黄)	底 3.0x0.2 灰白 2.5x0.2 灰黄・横	23/12	古瀬戸 横紋付大皿	
306	64-06	陶器	鉢	B-4	焼成色釉部	33.0-5	外: ロウワズリ 内: ロウワズリ	底 3.0x0.2 浅黄褐	23/12	瀬戸系陶器 赤銅緑	
307	64-02	陶器	鉢	B-4	焼成色釉部	33.0-6	外: ロウワズリ, 施釉 (灰黄) 内: ロウワズリ, 施釉 (灰黄)	底 3.0x0.2 灰白 3.0x0.4 コナデ横紋・横	23/12	古瀬戸 内蓋陶器	
308	64-07	陶器	鉢	B-4	焼成色釉部	33.0-6	外: ロウワズリ, ロウワナデ, 施釉 (灰黄) 内: ロウワズリ, 施釉 (灰黄)	やや底 3.0x0.2 灰白 3.0x0.2 灰白	23/12	古瀬戸 横紋付大皿	
309	64-05	陶器	横紋部	B-4	焼成色釉部	33.0-4	外: ロウワズリ, 施釉 (赤銅緑) 内: ロウワズリ, 施釉 (赤銅緑)	底 3.0x0.2 灰白 2.5x0.2 灰黄・横	23/12	瀬戸系陶器	
310	64-01	陶器	横紋部	B-4	焼成色釉部	33.0-9	外: ロウワズリ, 施釉 (赤銅緑) 内: ロウワズリ, 横紋 (3.5x2.5x), 施釉 (赤銅緑)	底 3.0x0.2 灰白 3.0x0.2 4 コナデ・横	23/12	瀬戸系陶器 内口内蓋	
311	64-04	磁器 (青磁)	皿	B-4	焼成色釉部	34.0-6	外: ロウワズリ, ロウワナデ, 施釉 内: ロウワズリ, 施釉	底 3.0x0.1 灰白 2.5x0.1 ナデ・灰・横	23/12	中北部 内蓋内蓋無縁	
312	64-03	磁器 (青磁)	皿	B-4	焼成色釉部	34.0-1	外: ロウワズリ, 施釉 内: ロウワズリ, 施釉	底 2.5x0.2 灰	23/12	中北部 横紋部 横紋部	
313	64-04	磁器 (青磁)	横紋部	B-4	焼成色釉部	33.0-2 33.0-6	外: ロウワズリ, ロウワナデ, 施釉 内: ロウワズリ, 施釉	底 3.0x0.2 灰 3.0x0.1 横紋部/横	23/12 23/12	中北部 見込部ナデナデ 外蓋蓋文	
314	64-01	陶器	簋	B-4	焼成色釉部	33.0平	外: 施釉ナデ 内: 施釉ナデ, オサエ, ナデ	やや底 3.0x0.2 横紋部 3.0x0.2 横紋部	小片	常滑系 (黄緑)	
315	64-01	陶器	簋	B-4	焼成色釉部	33.0-2	外: 施釉ナデ 内: 施釉ナデ	やや底 3.0x0.6 横 2.5x0.2 横紋	23/12	常滑系	
316	64-02	陶器	簋	B-4	焼成色釉部	33.0-2	外: 工蓋ナデ, オサエ, ナデ 内: ナデ	やや底 2.5x0.6 横	23/12	常滑系 (赤黄)	
317	64-01	陶器	青鉢	B-4	焼成色釉部	33.0平	外: オサエ, ナデ 内: ナデ	やや底 3.0x0.6 赤黄	小片	常滑系 (赤黄) 内蓋陶器	
318	64-03	陶器	青鉢	B-4	焼成色釉部	33.0平	外: 工蓋ナデ 内: ナデ	やや底 3.0x0.6 赤	小片	常滑系 (赤黄) 内蓋陶器	
319	335-04	土師器	皿	B-4	灰黄焼成部ナデ ナデ (型地無)	33.0-6 33.0-2	外: オサエ, ナデ 内: ナデ	やや底 3.0x0.4 横	23/12	海洋部系 内蓋工蓋部	
320	335-03	土師器	皿	B-4	灰黄焼成部ナデ ナデ (型地無)	33.0-6 33.0-1	外: オサエ, ナデ 内: ナデ	やや底 3.0x0.3 横	23/12	海洋部系 内蓋工蓋部	
321	335-02	陶器	横紋部	B-4	灰黄焼成部ナデ ナデ (型地無)	33.0平	外: ロウワズリ, 横紋, 施釉 (横紋) 内: ロウワズリ, 施釉 (横紋)	底 3.0x0.2 灰白 3.0x0.1 横紋部	小片	瀬戸系陶器	
322	335-01	磁器 (白磁)	鉢	B-4	灰黄焼成部ナデ ナデ (型地無)	33.0-6 33.0-1	外: ロウワズリ, ロウワナデ, 施釉 内: ロウワズリ, 施釉	底 3.0x0.2 灰白 3.0x0.1 灰白	23/12	中北部 横紋部 横紋部 横紋部 横紋部 横紋部 横紋部	
323	334-04	磁器 (黄緑)	皿	B-4	灰黄焼成部ナデ ナデ (型地無)	33.0-2	外: ロウワズリ, 施釉 内: ロウワズリ, 施釉	底 3.0x0.2 灰白	23/12	中北部 灰黄部 灰黄部 灰黄部 灰黄部 灰黄部 灰黄部	
324	334-02	磁器 (黄緑)	丸皿	B-4	灰黄焼成部ナデ ナデ (型地無)	33.0-3	外: ロウワズリ, 施釉 内: ロウワズリ, 施釉	底 3.0x0.2 灰白	23/12	中北部 灰黄部 灰黄部 灰黄部 灰黄部 灰黄部 灰黄部	
325	334-03	磁器 (黄緑)	皿	B-4	灰黄焼成部ナデ ナデ (型地無)	33.0-4	外: ロウワズリ, 施釉 内: ロウワズリ, 施釉	底 3.0x0.2 灰白	23/12	中北部 灰黄部 灰黄部 灰黄部 灰黄部 灰黄部 灰黄部	
326	334-01	磁器 (黄緑)	石目鉢	B-4	灰黄焼成部ナデ ナデ (型地無)	33.0-5	外: ロウワズリ, ロウワナデ, 施釉 内: ロウワズリ, 施釉	底 3.0x0.2 灰白 3.0x0.2 灰白	23/12	中北部 灰黄部 灰黄部 灰黄部 灰黄部 灰黄部 灰黄部	
327	337-01	石目鉢	白	B-4	灰黄焼成部ナデ ナデ (型地無)	33.0-5 33.0-1	外: ロウワズリ, ロウワナデ, 施釉 内: ロウワズリ, 施釉	底 3.0x0.2 灰白 3.0x0.2 灰白	23/12	中北部 灰黄部 灰黄部 灰黄部 灰黄部 灰黄部 灰黄部	
328	336-01	土師器	皿	B-4	灰黄焼成部ナデ ナデ (型地無)	33.0-2 33.0-1	外: オサエ 内: ナデ	底 3.0x0.2 浅黄褐	23/12	海洋部系	
329	337-02	土師器	付付皿	B-4	灰黄焼成部ナデ ナデ (型地無)	33.0-5	外: オサエ, ロウワナデ 内: ナデ, 3コナデ	底 3.0x0.2 4 コナデ	23/12	海洋部系	
330	64-08	陶器	皿	B-4	灰黄焼成部ナデ ナデ (型地無)	33.0-2	外: ロウワズリ 内: ロウワズリ, 施釉 (灰黄)	底 2.5x0.2 灰白 2.5x0.2 灰白	23/12	瀬戸系陶器 横紋ナデ	
331	334-06	陶器	横紋部	B-4	灰黄焼成部ナデ ナデ (型地無)	33.0-2 33.0-4	外: ロウワズリ, 施釉 (灰黄) 内: ロウワズリ, 施釉 (灰黄)	底 2.5x0.1 灰白 2.5x0.1 灰黄・横	23/12	瀬戸系陶器 横紋部 横紋部 横紋部 横紋部 横紋部 横紋部	
332	334-05	陶器	横紋部	B-4	灰黄焼成部ナデ ナデ (型地無)	33.0-9 33.0-4	外: ロウワズリ, 施釉 (灰黄) 内: ロウワズリ, 施釉 (灰黄)	底 2.5x0.1 灰白 2.5x0.2 灰白	23/12	瀬戸系陶器 横紋部 横紋部 横紋部 横紋部 横紋部 横紋部	
333	334-03	陶器	鉢	B-4	灰黄焼成部ナデ ナデ (型地無)	33.0-2	外: ロウワズリ 内: ロウワズリ, 施釉 (灰黄)	底 2.5x0.2 灰白 2.5x0.2 灰黄	23/12	瀬戸系陶器 横紋部 横紋部 横紋部 横紋部 横紋部 横紋部	
334	64-04	磁器 (白磁)	横紋部	B-4	灰黄焼成部ナデ ナデ (型地無)	33.0-6 33.0-1	外: ロウワズリ, 施釉 内: ロウワズリ, 施釉	底 3.0x0.2 灰白 3.0x0.2 灰白	23/12	中北部 横紋部 横紋部 横紋部 横紋部 横紋部 横紋部	
335	64-06	磁器 (白磁)	横紋部	B-4	灰黄焼成部ナデ ナデ (型地無)	33.0-1	外: ロウワズリ, 施釉 内: ロウワズリ, 施釉	底 3.0x0.2 灰白 3.0x0.2 灰白	23/12	中北部 横紋部 横紋部 横紋部 横紋部 横紋部 横紋部	
336	64-07	磁器 (白磁)	横紋部	B-4	灰黄焼成部ナデ ナデ (型地無)	33.0-2	外: ロウワズリ, 施釉 内: ロウワズリ, 施釉	底 3.0x0.2 灰白 3.0x0.2 灰白	23/12	中北部 横紋部 横紋部 横紋部 横紋部 横紋部 横紋部	
337	337-01	磁器 (黄緑)	横紋部	B-4	灰黄焼成部ナデ ナデ (型地無)	33.0-6 33.0-1	外: ロウワズリ, ロウワナデ, 施釉 内: ロウワズリ, 施釉	底 3.0x0.2 灰白 3.0x0.1 横紋部/横	23/12	中北部 横紋部 横紋部 横紋部 横紋部 横紋部 横紋部	
338	337-02	磁器 (黄緑)	横紋部	B-4	灰黄焼成部ナデ ナデ (型地無)	33.0-6 33.0-1	外: ロウワズリ, ロウワナデ, 施釉 内: ロウワズリ, 施釉	底 3.0x0.2 灰白 3.0x0.1 横紋部/横	23/12	中北部 横紋部 横紋部 横紋部 横紋部 横紋部 横紋部	
339	337-03	磁器 (黄緑)	横紋部	B-4	灰黄焼成部ナデ ナデ (型地無)	33.0-6 33.0-1	外: ロウワズリ, ロウワナデ, 施釉 内: ロウワズリ, 施釉	底 3.0x0.2 灰白 3.0x0.1 横紋部/横	23/12	中北部 横紋部 横紋部 横紋部 横紋部 横紋部 横紋部	
340	337-04	磁器 (黄緑)	横紋部	B-4	灰黄焼成部ナデ ナデ (型地無)	33.0-6 33.0-1	外: ロウワズリ, ロウワナデ, 施釉 内: ロウワズリ, 施釉	底 3.0x0.2 灰白 3.0x0.1 横紋部/横	23/12	中北部 横紋部 横紋部 横紋部 横紋部 横紋部 横紋部	

第8表 遺物観察表8

番号	実測 番号	種・質	器種等	調査地	遺構・層名等	法量(m)	調査・注記の特徴	出土	色 調	保存度	特記事項
341	340-15	磁器 (青磁)	皿	84-4	焼土層	018.6	外：ロクロナデ、ロクロナデリ、染物 内：ロクロナデ、染物	密 黒半 白	05/12	中国産 唐付物類 見込社内蔵書文	
342	339-17	磁器 (青磁)	皿	84-4	焼土層	015.1	外：ロクロナデ、染物 内：ロクロナデ、染物	密 黒半 白 5.98(1) 染物/灰	04/12	中国産 唐付物類 見込字工文	
343	338-13	磁器 (青磁)	皿	84-4	焼土層	013.2	外：ロクロナデ、染物 内：ロクロナデ、染物	密 5.94(1) 灰白 2.50(1) 黒オリーブ/灰	04/12	中国産 唐付物類 見込字工文	
344	340-15	磁器 (青磁)	皿	84-4	焼土層	010.6	外：ロクロナデ、染物 内：ロクロナデ、染物	密 5.9(1) 灰 3.9(1) 染物/灰	03/12	中国産 外産品類文・唐産品文	
345	340-12	磁器 (青磁)	皿	84-4	焼土層	010.6	外：ロクロナデ、染物 内：ロクロナデ、染物	密 5.9(1) 灰 3.9(1) 染物/灰	03/12	中国産 外産品類文・唐産品文	
346	340-13	磁器 (青磁)	皿	84-4	焼土層	010.2	外：ロクロナデ、染物 内：ロクロナデ、染物	密 5.9(1) 灰 2.50(1) 黒オリーブ/灰	03/12	中国産 外産品類文・唐産品文	
347	339-15	磁器 (青磁)	碗口	84-4	焼土層	017.2	外：ロクロナデ、染物 内：ロクロナデ、染物	密 黒半 白	03/12	肥前産 外産品類文	
348	334-17	石製品	磁石	84-4	焼土層	地表面 深3.8				黒2号 3号使用	
349	334-14	瓦葺土器	鉢	84-4	焼土層	0138.2	外：ミナモト、ヨコナデ 内：工芸ナデ、ナズリ、ヨコナデ	密 灰半 黒	03/12	産物不明 外産1部内蔵品	
350	342-15	磁器 (青磁)	碗	84-4	灰層 (透土)	04.2	外：ロクロナデリ、染物 内：ロクロナデ、染物	密 黒半 白 3.9(1) 1 染物/灰	03/12	中国産付 見込古文	
351	338-14	磁器 (青磁)	丸皿	84-4	灰層 (透土)	015.5	外：ロクロナデリ、ロクロナデ、染物 内：ロクロナデ、染物	密 黒半 白 3.9(1) 1 染物/灰	01/12	中国産 唐付物類 見込古文 外産品類文	
352	342-16	磁器 (青磁)	碗	84-4	灰層 (透土)	04.2	外：ロクロナデリ、染物 内：ロクロナデ、染物	密 黒半 灰白 5.9(1) 1 染物/灰	05/12	中国産 見込古文	
353	338-13	磁器 (青磁)	碗	84-4	灰層 (透土)	04.2	外：ロクロナデリ、ロクロナデ、染物 内：ロクロナデ、染物	密 黒半 白 3.9(1) 1 染物/灰	01/12	中国産 唐付物類・砂付物 見込古文	
354	338-12	磁器 (青磁)	碗	84-4	灰層 (透土)	04.4	外：ロクロナデリ、ロクロナデ、染物 内：ロクロナデ、染物	密 黒半 白	01/12	中国産 唐付物類 見込人物文	
355	342-17	磁器 (青磁)	皿	84-4	灰層 (透土)	013.0	外：ロクロナデ、染物 内：ロクロナデ、染物	密 黒半 白 5.9(1) 1 染物/灰	03/12	中国産付 内蔵品文	
356	342-12	陶器	磁鉢	84-4	焼土層	012.0	外：ナデ、ヨコナデ 内：工芸ナデ、ナズリ (4-5本)(丸)	密 2.5(1) 4 緑 5.9(1) 1 褐色	03/12	肥前産 (赤物) 内産品類	
357	338-11	陶器	鉢	84-4	灰層 (透土)	01不明	外：工芸ナデ、ヨコナデ 内：オサエ、ナデ、ヨコナデ	密 5.9(1) 4 濃い緑 5.9(1) 2 灰褐色	小片	肥前産 (赤物) 口縁部部分打片、破片あり	
358	342-18	陶器	鉢	84-4	灰層 (透土)	01不明	外：工芸ナデ、ヨコナデ 内：工芸ナデ、オサエ、ナデ	密 2.5(1) 1 褐色 5.9(1) 4 灰褐色	小片	肥前産	
359	340-11	陶器	鉢	84-4	灰層 (透土)	0135.0	外：工芸ナデ 内：工芸ナデ、オサエ	密 5.9(1) 4 緑	03/12	肥前産	
360	337-12	陶器	皿	84-6	焼成土器層 (赤土層)	016.4	外：ロクロナデ、染物 (灰層) 内：ロクロナデ、染物 (灰層)	密 黒半 灰白 3.9(1) 1 灰褐色	01/12	肥前産品類	
361	337-11	陶器	加工片類	84-6	焼成土器層 (赤土層)	016.9 深2.0	外：工芸ナデ 内：工芸ナデ	中々密 黒半 灰 2.5(1) 4 緑		肥前産 破片類 陶器打片と破片類	
362	337-16	土師器	皿	84-7	焼成土器層 (灰層) 西半	0128.5 深1.3	外：オサエ、ナデ、ヨコナデ 内：オサエ、ナデ、ヨコナデ	中々密 3.9(1) 2 灰白	03/12	中々土器系	
363	337-15	土師器	皿	84-7	焼成土器層 (灰層) 西半	0128.0 深2.4	外：オサエ、ナデ 内：オサエ、ナデ	中々密 3.9(1) 1 灰白 5.9(1) 2 灰褐色	03/12	中々土器系 内産品類	
364	337-14	土師器	鉢	84-7	焼成土器層 (灰層) 西半	01不明	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	中々密 5.9(1) 1 褐色 5.9(1) 2 灰白	小片	中々土器系 外産品類	
365	336-12	陶器	碗	84-7	焼成土器層 (灰層) 西半	014.4	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ、染物 (灰層)	密 3.9(1) 1 灰白 5.9(1) 2 灰褐色	01/12	古瀬戸 平焼物	
366	336-13	磁器 (青磁)	皿	84-7	焼成土器層 (灰層) 西半	016.2	外：ロクロナデ、染物 内：ロクロナデ、染物	密 5.9(1) 1 灰白 2.50(1) 1 オリーブ/灰	05/12	中国産 高台内蔵品類付物類 灰は多い	
367	336-11	陶器	鉢	84-7	焼成土器層 (灰層) 西半	01不明	外：ロクロナデ、染物 (灰層) 内：ロクロナデ、染物 (灰層)	密 2.5(1) 2 灰白 5.9(1) 3 灰褐色	小片	古瀬戸 新瀬戸文様は新瀬戸人産か	
368	336-14	陶器	磁鉢	84-7	焼成土器層 (灰層) 西半	01不明	外：ロクロナデ、染物 (灰層) 内：ロクロナデ、染物 (灰層)	密 2.5(1) 2 灰白 5.9(1) 2 褐色/灰	小片	肥前産品類	
369	337-13	陶器	磁鉢	84-7	焼成土器層 (灰層) 西半	011.0	外：ロクロナデ、染物 (灰層) 内：ロクロナデ、染物 (灰層)	密 黒半 灰白 3.9(1) 1 灰褐色	01/12	肥前産品類 器部外切部 内産品類	
370	340-11	土師器	皿	85-1	焼成土器層 (赤土層多量)	015.8	外：オサエ、ナデ 内：ナデ	密 5.9(1) 2 褐色/灰	03/12	中々土器系 器部外切部	
371	339-18	土師器	皿	85-1	焼成土器層 (赤土層多量)	013.0	外：オサエ、ナデ 内：ナデ	密 3.9(1) 1 灰白	03/12	中々土器系	
372	340-12	土師器	台付皿	85-1	焼成土器層 (赤土層多量)	014.7	外：ナデ、足付ナデ 内：工芸ナデ	密 2.5(1) 2 灰褐色 5.9(1) 1 褐色	01/12	中々土器系	
373	339-17	土師器	磁鉢	85-1	焼成土器層 (赤土層多量)	01不明	外：ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	密 3.9(1) 1 灰白	小片	中々土器系	
374	339-14	土師器	鉢	85-1	焼成土器層 (赤土層多量)	0114.6	外：オサエ、ハタキ (8本)(丸)、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	密 3.9(1) 2 灰褐色	03/12	中々土器系	
375	339-11	土師器	鉢	85-1	焼成土器層 (赤土層多量)	0130.0	外：ハタキ (7本)(丸)、ヨコナデ 内：ヨコナデ	密 3.9(1) 2 灰褐色	03/12	中々土器系 外産品類	
376	339-11	土師器	鉢	85-1	焼成土器層 (赤土層多量)	0130.0	外：ハタキ (7本)(丸)、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	密 2.5(1) 1 灰白	03/12	中々土器系	
377	339-12	土師器	茶碗	85-1	焼成土器層 (赤土層多量)	0122.4	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	密 2.5(1) 1 褐色	03/12	中々土器系	
378	339-16	陶器	天目茶碗	85-1	焼成土器層 (赤土層多量)	0121.0	外：ロクロナデ、染物 (灰層) 内：ロクロナデ、染物 (灰層)	密 3.9(1) 1 灰白 5.9(1) 2 濃い褐色/灰	03/12	肥前産品類	
379	339-15	陶器	丸皿	85-1	焼成土器層 (赤土層多量)	0113.0	外：ロクロナデ、染物 (灰層) 内：ロクロナデ、染物 (灰層)	密 3.9(1) 2 濃い褐色 5.9(1) 2 褐色/灰	03/12	肥前産品類	
380	338-17	陶器	鉢	85-1	焼成土器層 (赤土層多量)	0124.4	外：オサエ、ナデ、ヨコナデ 内：工芸ナデ、ヨコナデ	密 2.5(1) 4 濃い褐色	03/12	肥前産 器部外切部	
381	407-11	木製品 (木製品)	皿	85-1	焼成土器層 (赤土層多量)	016.0	植物 器部内蔵品類。その他は赤土		03/12	2024-6-01-1 新機：ワナキ 器部内蔵品類 字工二ノカ	
382	407-16	木製品	札付	85-1	焼成土器層 (赤土層多量)	0111.7 深2.8	表面を丁寧に磨いて整形			2024-6-01-4 新機：ヒノキ 器部外切部	
383	407-15	木製品	器付	85-1	焼成土器層 (赤土層多量)	0110.5 深2.5	器部の両面を磨いて整形			2024-6-01-5 新機：ヒノキ	
384	407-14	木製品	器付	85-1	焼成土器層 (赤土層多量)	0110.4 深2.4	器部の両面を磨いて整形			2024-6-01-4 新機：ヒノキ	
385	407-12	木製品	板付	85-1	焼成土器層 (赤土層多量)	017.0 深2.7	縁部に之類100分のみあり (2箇所)			2024-6-01-2 新機部材付 新機：ヒノキ	
386	407-13	木製品	板付	85-1	焼成土器層 (赤土層多量)	0111.5 深2.5				2024-6-01-3 新機部材付 新機：ヒノキ	
387	338-11	土師器	皿	85-1	焼成土器層 (赤土層多量)	0131.7 深2.8	外：オサエ、ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	密 5.9(1) 2 褐色/灰	03/12	中々土器系	

第9表 遺物観察表9

番号	実測 番号	種・質	器種等	調査法	遺構・層名等	位置 (cm)	調査・技法の特徴	出土	色 調	残存度	特記事項
388	024-05	土師器	茶碗	目-1	海城赤粘質土 (黄 土系、木片多く 混)	口内 8 高 5.1	内：ヨコナリ、タテハケ (8本) (黄)、ヨコナデ 内：ハチナデナリ、ヨコナデ	底	5.597/2 に近い黄	23/12	海洋船系
389	024-02	土師器	天目茶碗	目-1	海城赤粘質土 (黄 土系、木片多く 混)	口内 1.1 高 5.1	内：ヨコナデナリ、ヨコナデナリ、施釉 (黄緑) 内：ヨコナデナリ、施釉 (黄緑)	底	5.987/4 に近い黄 5.982/3 施釉赤褐色	23/12	瀬戸系遺物
390	024-04	陶器	磁鉢	目-1	海城赤粘質土 (黄 土系、木片多く 混)	口平明	内：ヨコナデナリ、施釉 (黄緑) 内：ヨコナデナリ、施釉 (黄緑)	底	5.987/2 灰白 5.941/2 灰	小欠	瀬戸系遺物
391	024-01	陶器	磁鉢	目-1	海城赤粘質土 (黄 土系、木片多く 混)	底 3.8	内：ヨコナデナリ、底部赤褐色、施釉 (黄緑) 内：ヨコナデナリ、施釉 (黄緑)	底	5.986/2 灰白 5.984/4 に近い黄	底 2/12	瀬戸系遺物 内面磨光
392	024-06	磁器 (青灰)	皿	目-1	海城赤粘質土 (黄 土系、木片多く 混)	底 0.8	内：ヨコナデナリ、ヨコナデナリ、施釉 内：ヨコナデナリ、施釉	底	5.981/0 白 7.307/1 緑褐色/施	底 1/12	中国産 唐行磁器 見本品と文様
393	041-04	土師器	皿	目-2	海城赤粘質土	口内 8 高 1.8	内：オサエ・ナデ 内：ナデ	底	5.595/1 黄緑	23/12	海洋船系
394	041-04	土師器	皿	目-2	海城赤粘質土	口内 8 高 1.4	内：オサエ・ナデ 内：ナデ	ヤヤ中	5.595/3 黄褐色	23/12	海洋船系
395	041-05	土師器	皿	目-2	海城赤粘質土	口内 8 高 2.8	内：オサエ・ナデ 内：ナデ	底	5.593/3 黄褐色	23/12	海洋船系 内面工具痕
396	041-01	土師器	皿	目-2	海城赤粘質土	口内 8 高 1.1	内：オサエ・ナデ 内：ナデ	底	5.597/4 白	23/12	海洋船系
397	041-02	土師器	皿	目-2	海城赤粘質土	口内 4 高 1.3	内：オサエ・ナデ 内：ナデ	底	5.591/2 灰白	23/12	海洋船系 施釉痕あり
398	041-02	土師器	皿	目-2	海城赤粘質土	口内 8 高 1.1	内：オサエ・ナデ 内：ナデ	底	5.592/2 灰白	23/12	海洋船系
399	041-02	土師器	皿	目-2	海城赤粘質土	口内 8 高 1.5	内：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	ヤヤ中	5.592/2 灰白	23/12	海洋船系
400	041-02	土師器	皿	目-2	海城赤粘質土	口内 4 高 1.1	内：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	ヤヤ中	5.592/3 黄褐色	23/12	海洋船系
401	041-01	土師器	茶碗蓋	目-2	海城赤粘質土	口内 1.7	内：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	ヤヤ中	5.592/2 灰白	底 2/12	海洋船系
402	041-07	陶器	瓦葺片	目-2	海城赤粘質土	口平明	内：ヨコナデナリ、施釉 (灰緑) 内：ヨコナデナリ、施釉	底	2.591/1 灰白	小欠	瀬戸系遺物
403	041-06	磁器 (青灰)	皿	目-2	海城赤粘質土	口平明	内：ヨコナデナリ、施釉 内：ヨコナデナリ、施釉	底	7.307/1 緑褐色/施	小欠	中国産 内面磨光文様
404	041-05	土師器 (黄土)	皿	目-2	海城土 (黄土)	口内 8	内：オサエ・ナデ 内：ナデ	底	5.597/4 白	23/12	海洋船系
405	041-06	土師器	皿	目-2	海城土 (黄土)	口内 1	内：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	底	5.592/2 灰白	23/12	海洋船系
406	041-01	土師器	皿	目-2	海城土 (黄土)	口内 8	内：オサエ・ナデ 内：ナデ	底	5.597/4 白	23/12	海洋船系
407	041-03	陶器	丸皿	目-2	海城土 (黄土)	口内 4 高 1.2	内：ヨコナデナリ、ヨコナデナリ、施釉 (黄褐色) 内：ヨコナデナリ、施釉 (黄褐色)	底	2.591/1 灰白 7.307/4 黄褐色	23/12	瀬戸系遺物 (底面) トナリ痕あり
408	041-04	陶器	磁鉢	目-2	海城土 (黄土)	口内 2.8	内：ヨコナデナリ、タテメ (1.3mm) 施釉 (黄 褐色)	底	2.595/4 白	底 2/12	瀬戸系遺物 底部赤褐色 施釉部有、内面磨 光
409	041-07	陶器	磁鉢	目-2	海城土 (黄土)	口平明	内：ヨコナデナリ、施釉、施釉 (黄緑) 内：ヨコナデナリ、施釉 (黄緑)	底	5.591/0 灰白 5.592/3 黄褐色	小欠	瀬戸系遺物
410	041-08	磁器 (青灰)	皿	目-2	海城土 (黄土)	口平明	内：ヨコナデナリ、施釉 内：ヨコナデナリ、施釉	底	5.597/3 灰白 7.307/1 オリーブ色/施	小欠	中国産
411	021-01	弥生品	鉄鍔片	目-2	海城土 (黄褐色)	底 2.8 厚 0.23			古物屋か 2024-1-02-4		
412	041-06	陶器	罐形鉢	目-2	海城土 (黄褐色)	口内 8 高 1.8	内：ヨコナデナリ、施釉 (黄緑) 内：ヨコナデナリ、施釉	底	2.591/2 灰白 施釉 黄	23/12	古瀬戸 口縁部磨光
413	041-05	土師器	鉢	目-2	海城土	口内 6	内：ナデ、ヨコナデ 内：ヨコナデ	ヤヤ中	5.592/2 灰白	23/12	海洋船系 外底エッジ磨
414	041-05	土師器	皿	目-3	黄灰粘質土	口内 3 高 0.9	内：オサエ 内：ナデ	底	5.596/4 黄	23/12	海洋船系
415	041-05	土師器	皿	目-3	黄灰粘質土	口内 4 高 1.1	内：オサエ 内：ナデ	底	5.591/4 白	23/12	海洋船系
416	041-08	土師器	皿	目-3	黄灰粘質土	口内 4 高 1.8	内：オサエ・ナデ 内：ナデ	ヤヤ中	5.597/4 黄 5.597/6 黄	23/12	海洋船系
417	041-08	土師器	皿	目-3	黄灰粘質土	口内 8 高 1.8	内：オサエ 内：ナデ	底	5.597/2 に近い黄	23/12	海洋船系
418	074-09	土師器	皿	目-3	黄灰粘質土	口内 8 高 1.1	内：オサエ・ナデ 内：ナデ	底	5.596/4 白	23/12	海洋船系 施釉痕あり
419	041-02	土師器	皿	目-3	黄灰粘質土	口内 2 高 0.9	内：オサエ・ナデ 内：ナデ	ヤヤ中	2.597/1 灰白	23/12	海洋船系
420	071-04	土師器	皿	目-3	黄灰粘質土	口内 2 高 1.1	内：オサエ・ナデ 内：工具ナデ	底	5.592/3 黄褐色	23/12	海洋船系 内面工具痕
421	071-06	土師器	皿	目-3	黄灰粘質土	口内 3 高 1.1	内：オサエ・ナデ 内：ナデ	底	5.592/3 黄褐色	23/12	海洋船系
422	071-07	土師器	皿	目-3	黄灰粘質土	口内 4 高 0.8	内：オサエ・ナデ 内：ナデ	底	5.592/3 黄褐色	23/12	海洋船系
423	071-03	土師器	皿	目-3	黄灰粘質土	口内 7 高 1.1	内：オサエ・ナデ 内：工具ナデ	底	5.597/4 白	23/12	海洋船系 内面工具痕
424	071-02	土師器	皿	目-3	黄灰粘質土	口内 6 高 1.2	内：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：工具ナデ	底	5.597/4 白	23/12	海洋船系 内面工具痕
425	071-05	土師器	皿	目-3	黄灰粘質土	口内 8 高 1.1	内：オサエ・ナデ 内：ナデ	底	5.597/4 白	23/12	海洋船系
426	071-09	土師器	皿	目-3	黄灰粘質土	口内 7 高 1.1	内：オサエ・ナデ 内：ナデ	底	5.597/4 白	23/12	海洋船系
427	071-08	土師器	皿	目-3	黄灰粘質土	口内 8 高 1.1	内：オサエ・ナデ 内：ナデ	底	5.597/2 白	23/12	海洋船系
428	071-07	土師器	皿	目-3	黄灰粘質土	口内 2 高 1.2	内：オサエ・ナデ 内：ナデ	底	5.597/4 白	23/12	海洋船系
429	041-04	土師器	皿	目-3	黄灰粘質土	口内 5 高 0.9	内：オサエ 内：ナデ	底	5.596/4 白	23/12	海洋船系
430	041-13	土師器	皿	目-3	黄灰粘質土	口内 3 高 1.1	内：オサエ・ナデ 内：ナデ	底	5.597/3 白	23/12	海洋船系
431	041-12	土師器	皿	目-3	黄灰粘質土	口内 2 高 1.2	内：オサエ 内：ナデ	底	5.597/2 白	23/12	海洋船系
432	041-04	土師器	皿	目-3	黄灰粘質土	口内 2 高 1.1	内：オサエ 内：工具ナデ	底	5.597/3 白	23/12	海洋船系 内面工具痕
433	041-11	土師器	皿	目-3	黄灰粘質土	口内 2 高 1.1	内：オサエ 内：ナデ	底	5.597/3 白	23/12	海洋船系
434	041-06	土師器	皿	目-3	黄灰粘質土	口内 2 高 1.2	内：オサエ 内：ナデ	底	5.596/4 黄褐色	23/12	海洋船系
435	071-07	土師器	皿	目-3	黄灰粘質土	口内 5 高 1.2	内：オサエ 内：ナデ	底	5.596/3 黄褐色	23/12	海洋船系
436	041-09	土師器	皿	目-3	黄灰粘質土	口内 4 高 1.1	内：オサエ・ナデ 内：工具ナデ	底	5.596/2 灰白	23/12	海洋船系 内面工具痕

第10表 遺物観察表10

番号	葉書 番号	種・目	器種等	調査地	遺構・層名等	法量(cm)	調整・注記の特長	出土	色 調	保存度	特記事項
437	596-42	土師器	Ⅲ	Ⅱ-3	黄灰色粘砂	525.4 高1.2	内:オサエ・ナツ 内:土高ナツ	黄	5.508/3 に似る	2017/12	海伊勢系 内面工具類
438	579-41	土師器	Ⅲ	Ⅱ-3	黄灰色粘砂	525.4 高1.1	内:オサエ・ナツ 内:ナツ	黄	5.508/3 に似る	2012/12	海伊勢系
439	587-43	土師器	Ⅲ	Ⅱ-3	黄灰色粘砂	525.4 高1.2	内:オサエ 内:ナツ	黄	5.508/2 に似る	2012/12	海伊勢系
440	579-45	土師器	Ⅲ	Ⅱ-3	黄灰色粘砂	525.4 高1.2	内:オサエ・ナツ 内:ナツ	黄	5.508/3 に似る 5.508/7 底面	2012/12	海伊勢系
441	571-48	土師器	Ⅲ	Ⅱ-3	黄灰色粘砂	525.4 高1.2	内:オサエ・ナツ 内:ナツ	黄	5.508/4 に似る	2017/12	海伊勢系
442	566-19	土師器	Ⅲ	Ⅱ-3	黄灰色粘砂	525.5 高1.3	内:オサエ 内:土高ナツ	黄	5.508/3 浅黄緑	206/12	海伊勢系 内面工具類
443	585-47	土師器	Ⅲ	Ⅱ-3	黄灰色粘砂	525.2 高1.3	内:オサエ・ナツ 内:ナツ	黄	5.508/2 に似る	206/12	海伊勢系
444	579-54	土師器	Ⅲ	Ⅱ-3	黄灰色粘砂	525.4 高1.2	内:オサエ 内:ナツ	黄	5.508/2 に似る	2017/12	海伊勢系
445	588-06	土師器	Ⅲ	Ⅱ-3	黄灰色粘砂	525.4 高1.1	内:オサエ・ナツ 内:ナツ	やや黄	5.508/3 浅黄緑	2012/12	海伊勢系
446	589-11	土師器	Ⅲ	Ⅱ-3	黄灰色粘砂	525.4 高1.4	内:オサエ・ナツ 内:ナツ	黄	5.508/3 浅黄緑	206/12	海伊勢系
447	583-47	土師器	Ⅲ	Ⅱ-3	黄灰色粘砂	525.3 高1.3	内:オサエ 内:ナツ	黄	5.508/4 に似る	2012/12	海伊勢系
448	585-08	土師器	Ⅲ	Ⅱ-3	黄灰色粘砂	525.5 高1.4	内:オサエ 内:ナツ	黄	5.508/3 に似る	206/12	海伊勢系
449	571-42	土師器	Ⅲ	Ⅱ-3	黄灰色粘砂	525.7 高1.4	内:オサエ・ナツ 内:ナツ	黄	5.508/3 に似る	2012/12	海伊勢系
450	588-43	土師器	Ⅲ	Ⅱ-3	黄灰色粘砂	525.8 高1.3	内:オサエ・ナツ 内:ナツ	やや黄	5.508/4 に似る 5.508/4 浅黄緑	2012/12	海伊勢系
452	589-43	土師器	Ⅲ	Ⅱ-3	黄灰色粘砂	525.8 高1.8	内:オサエ・ナツ 内:ナツ	やや黄	5.508/2 底面	206/12	海伊勢系
453	586-47	土師器	Ⅲ	Ⅱ-3	黄灰色粘砂	525.5 高1.4	内:オサエ・ナツ 内:ナツ	黄	5.508/3 に似る	2017/12	海伊勢系
454	587-06	土師器	Ⅲ	Ⅱ-3	黄灰色粘砂	525.8 高1.2	内:オサエ 内:ナツ	黄	5.508/2 に似る	2012/12	海伊勢系
455	579-08	土師器	Ⅲ	Ⅱ-3	黄灰色粘砂	524.8 高1.8	内:オサエ・ナツ 内:ナツ	黄	5.508/4 に似る	2012/12	海伊勢系
456	585-08	土師器	Ⅲ	Ⅱ-3	黄灰色粘砂	525.1 高1.1	内:オサエ 内:ナツ	黄	5.508/3 に似る	2012/12	海伊勢系
457	588-09	土師器	Ⅲ	Ⅱ-3	黄灰色粘砂	525.2 高1.2	内:オサエ・ナツ 内:ナツ	やや黄	5.508/4 浅黄緑	2012/13	海伊勢系 外底面化粧付
458	566-11	土師器	Ⅲ	Ⅱ-3	黄灰色粘砂	525.6 高1.3	内:オサエ 内:土高ナツ	黄	5.508/4 に似る 5.508/3 に似る	2012/12	海伊勢系 内面工具類
459	588-19	土師器	Ⅲ	Ⅱ-3	黄灰色粘砂	525.8 高1.1	内:オサエ・ナツ 内:ナツ	やや黄	5.508/4 浅黄緑	2012/12	海伊勢系
460	587-41	土師器	Ⅲ	Ⅱ-3	黄灰色粘砂	525.2 高1.2	内:オサエ 内:ナツ	黄	5.508/3 に似る	2012/12	海伊勢系
461	571-41	土師器	Ⅲ	Ⅱ-3	黄灰色粘砂	525.2 高1.3	内:オサエ・ナツ 内:ナツ	黄	5.508/2 に似る	2012/12	海伊勢系 内面化粧付
462	588-12	土師器	Ⅲ	Ⅱ-3	黄灰色粘砂	525.4 高1.4	内:オサエ・ナツ 内:土高ナツ	やや黄	5.508/3 浅黄緑	2012/12	海伊勢系 内面工具類
463	588-04	土師器	Ⅲ	Ⅱ-3	黄灰色粘砂	525.3 高1.5	内:オサエ・ナツ 内:ナツ	やや黄	5.508/4 浅黄緑	2012/12	海伊勢系
464	572-11	土師器	Ⅲ	Ⅱ-3	黄灰色粘砂	525.4 高1.5	内:オサエ・ナツ 内:ナツ	黄	5.508/3 に似る	2012/12	海伊勢系 外底一部化粧付
465	589-11	土師器	Ⅲ	Ⅱ-3	黄灰色粘砂	525.4 高1.3	内:オサエ・ナツ 内:ナツ	やや黄	5.508/4 浅黄緑	2012/12	海伊勢系 外底面化粧付
466	579-54	土師器	Ⅲ	Ⅱ-3	黄灰色粘砂	525.3 高1.2	内:オサエ・ナツ 内:ナツ	黄	5.508/3 に似る	2012/12	海伊勢系
467	587-04	土師器	Ⅲ	Ⅱ-3	黄灰色粘砂	525.1 高1.3	内:オサエ 内:ナツ	黄	5.508/4 に似る	2012/12	海伊勢系
468	586-04	土師器	Ⅲ	Ⅱ-3	黄灰色粘砂	525.2 高1.3	内:オサエ 内:土高ナツ	黄	2.507/2 黄緑	2012/13	海伊勢系 内面工具類
469	579-09	土師器	Ⅲ	Ⅱ-3	黄灰色粘砂	525.3 高1.3	内:オサエ 内:ナツ	黄	5.508/4 に似る	2012/12	海伊勢系 外底面化粧付
470	571-45	土師器	Ⅲ	Ⅱ-3	黄灰色粘砂	525.5 高1.2	内:オサエ・ナツ 内:ナツ	黄	5.508/2 底面	2012/12	海伊勢系
471	589-47	土師器	Ⅲ	Ⅱ-3	黄灰色粘砂	525.4 高1.2	内:オサエ・ナツ 内:ナツ	やや黄	5.508/4 浅黄緑	2011/12	海伊勢系
472	587-45	土師器	Ⅲ	Ⅱ-3	黄灰色粘砂	525.6 高1.2	内:オサエ 内:ナツ	黄	5.508/2 に似る	206/12	海伊勢系
473	565-09	土師器	Ⅲ	Ⅱ-3	黄灰色粘砂	525.4 高1.1	内:オサエ 内:ナツ	黄	5.508/4 浅黄緑	2012/12	海伊勢系
474	579-42	土師器	Ⅲ	Ⅱ-3	黄灰色粘砂	525.1 高1.1	内:オサエ 内:土高ナツ	黄	5.508/4 浅黄緑	2012/12	海伊勢系 内面工具類
475	579-08	土師器	Ⅲ	Ⅱ-3	黄灰色粘砂	525.2 高1.3	内:オサエ・ナツ 内:土高ナツ	黄	5.508/2 に似る	2012/12	海伊勢系 内面工具類 外底面化粧付
476	587-42	土師器	Ⅲ	Ⅱ-3	黄灰色粘砂	525.5 高1.3	内:オサエ・ナツ 内:土高ナツ	黄	5.508/3 に似る	2012/12	海伊勢系 内面工具類
477	587-43	土師器	Ⅲ	Ⅱ-3	黄灰色粘砂	525.2 高1.3	内:オサエ・ナツ 内:ナツ	黄	5.508/4 に似る	2012/12	海伊勢系
478	589-05	土師器	Ⅲ	Ⅱ-3	黄灰色粘砂	525.5 高1.3	内:オサエ・ナツ 内:ナツ	やや黄	5.508/3 浅黄緑	2012/12	海伊勢系
479	586-05	土師器	Ⅲ	Ⅱ-3	黄灰色粘砂	525.5 高1.2	内:オサエ 内:ナツ	黄	5.508/3 に似る	2012/12	海伊勢系
480	586-01	土師器	Ⅲ	Ⅱ-3	黄灰色粘砂	525.5 高1.2	内:オサエ 内:土高ナツ	黄	5.508/3 に似る	2012/12	海伊勢系 内面工具類
481	585-19	土師器	Ⅲ	Ⅱ-3	黄灰色粘砂	525.2 高1.2	内:オサエ 内:ナツ	黄	5.508/3 に似る	206/12	海伊勢系
482	586-04	土師器	Ⅲ	Ⅱ-3	黄灰色粘砂	525.5 高1.2	内:オサエ・ナツ 内:ナツ	黄	5.508/2 黄緑	2012/12	海伊勢系
483	571-48	土師器	Ⅲ	Ⅱ-3	黄灰色粘砂	525.5 高1.1	内:オサエ・ナツ 内:ナツ	黄	5.508/3 に似る	2012/12	海伊勢系 外底面化粧付
484	587-09	土師器	Ⅲ	Ⅱ-3	黄灰色粘砂	525.6 高1.4	内:オサエ 内:ナツ	黄	5.508/3 に似る	2012/12	海伊勢系
485	587-12	土師器	Ⅲ	Ⅱ-3	黄灰色粘砂	525.4 高1.1	内:オサエ 内:土高ナツ	黄	5.508/3 浅黄緑	2012/12	海伊勢系 内面工具類
486	579-47	土師器	Ⅲ	Ⅱ-3	黄灰色粘砂	525.2 高1.2	内:オサエ・ナツ 内:ナツ	黄	5.508/2 に似る 5.508/2 底面	2012/12	海伊勢系 外底面化粧付
487	587-18	土師器	Ⅲ	Ⅱ-3	黄灰色粘砂	525.5 高1.4	内:オサエ 内:土高ナツ	黄	5.508/4 浅黄緑	2012/12	海伊勢系 内面工具類

第11表 遺物顕彰表11

番号	実測 番号	種・目	器種等	調査法	遺構・層名等	法量 (cm)	調査・技法の特徴	出土	色 調	残存度	特記事項
488	948-12	土師器	皿	E-3	黄灰色粘砂	125.4 高1.5	内：オサエ・ナブ 内：ナブ	やや密	2.5/97/1 灰白	C12/12	海洋数系
489	973-01	土師器	皿	E-3	黄灰色粘砂	125.2 高1.1	内：オサエ・ナブ 内：工具ナブ	密	1/98/2 3 浅黄褐色	C12/12	海洋数系 内庭工器類
490	973-02	土師器	皿	E-3	黄灰色粘砂	125.4 高1.2	内：オサエ・ナブ 内：ナブ	密	1/98/2 2 C12/1黄褐色	C12/12	海洋数系
491	948-11	土師器	皿	E-3	黄灰色粘砂	125.4 高1.2	内：オサエ・ナブ 内：ナブ	やや密	3/98/4 浅褐色	C12/12	海洋数系
492	948-06	土師器	皿	E-3	黄灰色粘砂	125.4 高1.3	内：オサエ・ナブ 内：ナブ	やや密	7.5/98/2 2 灰白	C12/12	海洋数系
493	979-05	土師器	皿	E-3	黄灰色粘砂	125.3 高1.4	内：オサエ・ナブ 内：工具ナブ	密	1/98/2 3 浅黄褐色	C12/12	海洋数系
494	948-01	土師器	皿	E-3	黄灰色粘砂	125.4 高1.3	内：オサエ・ナブ 内：工具ナブ	密	1/98/2 2 C12/1黄褐色	C12/12	海洋数系 内庭工器類
495	948-07	土師器	皿	E-3	黄灰色粘砂	125.3 高1.1	内：オサエ 内：工具ナブ	密	7.5/97/4 C12/1黄褐色	C12/12	海洋数系 内庭工器類
496	948-08	土師器	皿	E-3	黄灰色粘砂	125.4 高1.1	内：オサエ・ナブ 内：工具ナブ	密	1/98/2 3 浅黄褐色	C12/12	海洋数系 内庭工器類
497	947-07	土師器	皿	E-3	黄灰色粘砂	125.6 高1.3	内：オサエ 内：ナブ	密	1/98/2 2 C12/1黄褐色	C12/12	海洋数系
498	947-03	土師器	皿	E-3	黄灰色粘砂	125.4 高1.2	内：オサエ・ナブ 内：ナブ	密	7.5/97/2 C12/1黄褐色	C12/12	海洋数系
499	979-03	土師器	皿	E-3	黄灰色粘砂	125.5 高1.3	内：オサエ・ナブ 内：ナブ	密	7.5/98/2 3 浅黄褐色	C12/12	海洋数系
500	979-01	土師器	皿	E-3	黄灰色粘砂	125.4 高1.3	内：オサエ・ナブ 内：ナブ	密	1/98/2 2 灰白	C12/12	海洋数系
501	972-04	土師器	皿	E-3	黄灰色粘砂	125.5 高1.3	内：オサエ・ナブ 内：ナブ	密	1/98/2 7 C12/1黄褐色	C12/12	海洋数系
502	948-09	土師器	皿	E-3	黄灰色粘砂	125.6 高1.2	内：オサエ 内：ナブ	密	7.5/97/2 C12/1黄褐色	C12/12	海洋数系
503	948-10	土師器	皿	E-3	黄灰色粘砂	125.6 高1.3	内：オサエ・ナブ 内：ナブ	密	7.5/98/2 3 浅黄褐色	C12/12	海洋数系
504	979-10	土師器	皿	E-3	黄灰色粘砂	125.5 高1.1	内：オサエ・ナブ 内：ナブ	密	1/98/2 3 浅黄褐色	C12/12	海洋数系
505	948-01	土師器	皿	E-3	黄灰色粘砂	125.7 高1.4	内：オサエ・ナブ 内：工具ナブ	やや密	1/98/2 2 灰白	C12/12	海洋数系 内庭工器類
506	947-08	土師器	皿	E-3	黄灰色粘砂	125.7 高1.3	内：オサエ 内：工具ナブ	密	1/98/2 7 C12/1黄褐色	C12/12	海洋数系 内庭工器類
507	948-02	土師器	皿	E-3	黄灰色粘砂	125.6 高1.2	内：オサエ 内：ナブ	密	7.5/97/2 C12/1黄褐色	C12/12	海洋数系
508	971-03	土師器	皿	E-3	黄灰色粘砂	125.6 高1.1	内：オサエ・ナブ 内：ナブ	密	7.5/98/2 3 浅黄褐色	C12/12	海洋数系
509	948-05	土師器	皿	E-3	黄灰色粘砂	125.6 高1.3	内：オサエ・ナブ 内：ナブ	やや密	7.5/98/2 2 灰白	C12/12	海洋数系 外庭流石貯け器
510	948-01	土師器	皿	E-3	黄灰色粘砂	125.6 高1.1	内：オサエ・ナブ 内：ナブ	1/98/2 2 浅黄褐色 1/98/2 2 C12/1黄褐色	C12/12	海洋数系	
511	948-08	土師器	皿	E-3	黄灰色粘砂	125.3 高1.3	内：オサエ・ナブ 内：ナブ	やや密	7.5/98/2 3 浅黄褐色	C12/12	海洋数系
512	979-11	土師器	皿	E-3	黄灰色粘砂	125.6 高1.4	内：オサエ・ナブ 内：ナブ	密	7.5/97/2 暗黄褐色	C12/12	海洋数系
513	948-06	土師器	皿	E-3	黄灰色粘砂	125.7 高1.3	内：オサエ 内：ナブ	密	1/98/2 2 C12/1黄褐色	C12/12	海洋数系
514	947-06	土師器	皿	E-3	黄灰色粘砂	125.8 高1.4	内：オサエ 内：ナブ	密	7.5/98/2 3 浅黄褐色	C12/12	海洋数系
515	948-04	土師器	皿	E-3	黄灰色粘砂	125.7 高1.4	内：オサエ・ナブ 内：ナブ	やや密	7.5/98/2 2 灰白	C12/12	海洋数系
516	947-02	土師器	皿	E-3	黄灰色粘砂	125.6 高1.3	内：オサエ 内：ナブ	密	7.5/97/2 C12/1黄褐色	C12/12	海洋数系
517	979-12	土師器	皿	E-3	黄灰色粘砂	125.6 高1.4	内：オサエ・ナブ 内：ナブ	密	7.5/98/2 3 浅黄褐色	C12/12	海洋数系
518	948-09	土師器	皿	E-3	黄灰色粘砂	125.8 高1.4	内：オサエ・ナブ 内：ナブ	やや密	2.5/97/2 灰白 1/98/2 2 灰白	C12/12	海洋数系 外庭流石貯け器
519	948-03	土師器	皿	E-3	黄灰色粘砂	126.2 高1.5	内：オサエ・ナブ 内：ナブ	やや密	7.5/97/2 暗黄褐色	C12/12	海洋数系
520	971-10	土師器	皿	E-3	黄灰色粘砂	126.4 高1.3	内：オサエ・ナブ 内：ナブ	密	7.5/97/4 C12/1黄褐色	C12/12	海洋数系 釜山火
521	948-06	土師器	皿	E-3	黄灰色粘砂	126.6 高1.4	内：オサエ 内：ナブ	密	7.5/97/4 C12/1黄褐色	C12/12	海洋数系
522	972-06	土師器	皿	E-3	黄灰色粘砂	126.6 高1.4	内：オサエ・ナブ 内：ナブ	密	1/98/2 2 C12/1黄褐色	C12/12	海洋数系
523	971-11	土師器	皿	E-3	黄灰色粘砂	126.3 高1.4	内：オサエ・ナブ 内：ナブ	密	1/98/2 2 C12/1黄褐色	C12/12	海洋数系
524	971-12	土師器	皿	E-3	黄灰色粘砂	126.3 高1.4	内：オサエ・ナブ 内：ナブ	密	1/98/2 2 C12/1黄褐色	C12/12	海洋数系
525	948-05	土師器	皿	E-3	黄灰色粘砂	127.1 高1.1	内：オサエ・ナブ 内：ナブ	密	7.5/98/4 浅黄褐色	C12/12	海洋数系
526	977-08	土師器	皿	E-3	黄灰色粘砂	126.8 高1.4	内：オサエ 内：ナブ	密	1/98/2 7 C12/1黄褐色	C12/12	海洋数系
527	948-05	土師器	皿	E-3	黄灰色粘砂	126.8 高1.4	内：オサエ・ナブ 内：ナブ	密	1/98/2 7 C12/1黄褐色	C12/12	海洋数系
528	972-03	土師器	皿	E-3	黄灰色粘砂	126.8 高1.5	内：オサエ・ナブ 内：ナブ	密	2.5/7/3 浅黄褐色	C12/12	海洋数系
529	971-05	土師器	皿	E-3	黄灰色粘砂	126.5 高1.2	内：オサエ・ナブ 内：ナブ	密	1/98/2 2 灰白	C12/12	海洋数系 内庭注器
530	971-10	土師器	皿	E-3	黄灰色粘砂	127.0 高1.6	内：オサエ・ナブ 内：工具ナブ	密	1/98/2 2 C12/1黄褐色 1/98/2 1 黄褐色	C12/12	海洋数系 内庭工器類
531	948-07	土師器	皿	E-3	黄灰色粘砂	126.8 高1.5	内：オサエ・ナブ 内：ナブ	やや密	1/98/2 2 灰白	C12/12	海洋数系
532	972-05	土師器	皿	E-3	黄灰色粘砂	127.0 高1.4	内：オサエ・ナブ 内：ナブ	密	1/98/2 2 C12/1黄褐色	C12/12	海洋数系
533	972-12	土師器	皿	E-3	黄灰色粘砂	127.8 高1.4	内：オサエ・ナブ 内：ナブ	密	1/98/2 2 C12/1黄褐色	C12/12	海洋数系
534	948-02	土師器	皿	E-3	黄灰色粘砂	126.8 高1.6	内：オサエ・ナブ 内：工具ナブ	やや密	1/98/2 2 灰白	C12/12	海洋数系 内庭工器類
535	948-01	土師器	皿	E-3	黄灰色粘砂	127.1 高1.1	内：オサエ・ナブ 内：ナブ	やや密	7.5/97/2 暗黄褐色	C12/12	海洋数系
536	972-02	土師器	皿	E-3	黄灰色粘砂	127.1 高1.7	内：オサエ・ナブ 内：ナブ	密	1/98/2 2 C12/1黄褐色	C12/12	海洋数系 外庭流石貯け器
537	972-01	土師器	皿	E-3	黄灰色粘砂	127.1 高1.6	内：オサエ 内：工具ナブ	密	1/98/2 2 C12/1黄褐色	C12/12	海洋数系 内庭工器類
538	971-07	土師器	皿	E-3	黄灰色粘砂	127.1 高1.3	内：オサエ 内：ナブ	密	5/97/4 C12/1黄褐色	C12/12	海洋数系 調理器具

第12表 遺物観察表12

番号	実測 番号	種・目	器種等	調査地	遺構・層名等	法量(㎝)	調整・技法の特徴	出土	色 調	保存度	特記事項
540	E71-10	土師器	皿	E5-1	黄灰色粘土	E71.2 高1.4	赤・オセエ・ナデ 内：ナデ	表	10007/2 に近い黄褐色	E712/12	海伊勢系 内庭工芸類
541	E71-18	土師器	皿	E5-1	黄灰色粘土	E71.5 高1.5	赤・オセエ・ナデ 内：ナデ	表	10007/2 に近い黄褐色	E712/12	海伊勢系 内庭祭祀器
542	E71-25	土師器	皿	E5-1	黄灰色粘土	E71.1 高1.6	赤・オセエ・ナデ 内：土師ナデ	表	10007/2 に近い黄褐色	E712/12	海伊勢系 内庭工芸類
543	E71-48	土師器	皿	E5-1	黄灰色粘土	E71.9 高1.3	赤・オセエ・ナデ 内：ナデ	表	5.5007/4 に近い黄褐色	E712/12	海伊勢系
544	E89-12	土師器	皿	E5-1	黄灰色粘土	E71.9 高1.4	赤・オセエ・ナデ 内：ナデ	表	5007/3 に近い黄褐色	E712/12	海伊勢系 調理器あり
545	E72-49	土師器	皿	E5-1	黄灰色粘土	E71.1 高1.2	赤・オセエ・ナデ 内：ナデ	表	10007/2 に近い黄褐色	E712/12	海伊勢系
546	E89-36	土師器	皿	E5-1	黄灰色粘土	E71.3 高1.2	赤・オセエ・ナデ 内：ナデ	表	5007/3 に近い黄褐色	E712/12	海伊勢系
547	E77-47	土師器	皿	E5-1	黄灰色粘土	E71.3 高1.4	赤・オセエ・ナデ 内：土師ナデ	表	5.5007/2 に近い黄褐色	E718/12	海伊勢系 内庭工芸類
548	E76-46	土師器	皿	E5-1	黄灰色粘土	E71.3 高1.4	赤・オセエ・ナデ 内：ナデ	表	2.507/2 灰青	E712/12	海伊勢系 調理器あり
549	E93-47	土師器	皿	E5-1	黄灰色粘土 (器身 に割目)	E71.4 高1.4	赤・オセエ・ナデ 内：ナデ	表	10007/2 灰白	E712/12	海伊勢系
550	E80-47	土師器	皿	E5-1	黄灰色粘土	E71.4 高1.4	赤・オセエ・ナデ 内：ナデ	表	10007/2 に近い黄褐色	E712/12	海伊勢系
551	E80-12	土師器	皿	E5-1	黄灰色粘土	E71.5 高1.7	赤・オセエ・ナデ 内：ナデ	表	5007/4 に近い黄褐色	E712/12	海伊勢系
552	E74-41	土師器	皿	E5-1	黄灰色粘土	E71.4 高1.5	赤・オセエ・ナデ 内：ナデ	やや表	5.5007/4 灰青	E712/12	海伊勢系
553	E62-47	土師器	皿	E5-1	黄灰色粘土 (器身 に割目)	E71.6 高1.2	赤・オセエ・ナデ 内：ナデ	表	10007/2 に近い黄褐色	E712/12	海伊勢系
554	E92-46	土師器	皿	E5-1	黄灰色粘土 (器身 に割目)	E71.1 高1.1	赤・オセエ・ナデ 内：ナデ	表	5.5007/3 に近い黄褐色	E712/12	海伊勢系
555	E76-38	土師器	皿	E5-1	黄灰色粘土	E71.9 高1.7	赤・オセエ・ナデ 内：ナデ、ヨコナデ	表	10007/3 に近い黄褐色	E712/12	海伊勢系 調理器あり
556	E75-48	土師器	皿	E5-1	黄灰色粘土	E71.8 高1.8	赤・オセエ・ナデ 内：ナデ	やや表	5.5008/1 黄褐色	E712/12	海伊勢系 内庭工芸類
557	E75-19	土師器	皿	E5-1	黄灰色粘土	E71.8 高1.8	赤・オセエ・ナデ 内：ナデ	やや表	5.5008/1 黄褐色	E712/12	海伊勢系
558	E99-42	土師器	皿	E5-1	黄灰色粘土	E71.9 高1.7	赤・オセエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	表	5.5008/2 灰白	E712/12	海伊勢系 調理器あり
559	E89-49	土師器	皿	E5-1	黄灰色粘土	E71.9 高1.7	赤・オセエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	表	5.5007/4 に近い黄褐色	E712/12	海伊勢系 調理器あり
560	E88-42	土師器	皿	E5-1	黄灰色粘土	E71.9 高1.5	赤・オセエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	表	5.5008/3 黄褐色 割目 灰白	E712/12	海伊勢系
561	E80-11	土師器	皿	E5-1	黄灰色粘土	E71.9 高1.4	赤・オセエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	表	5.5007/4 に近い黄褐色	E712/12	海伊勢系
562	E76-45	土師器	皿	E5-1	黄灰色粘土	E71.2 高1.5	赤・オセエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	表	10007/2 に近い黄褐色 5.5008/3 黄褐色	E712/12	海伊勢系 調理器あり
563	E75-42	土師器	皿	E5-1	黄灰色粘土	E71.8 高1.8	赤・オセエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや表	5.5008/2 灰白 5.5008/3 灰白	E711/12	海伊勢系
564	E74-11	土師器	皿	E5-1	黄灰色粘土	E71.2 高1.4	赤・オセエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや表	10007/2 灰白	E718/12	海伊勢系
565	E90-41	土師器	皿	E5-1	黄灰色粘土	E71.4 高1.4	赤・オセエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	表	5.5007/2 に近い黄褐色	E712/12	海伊勢系 調理器あり
566	E77-45	土師器	皿	E5-1	黄灰色粘土	E71.1 高1.9	赤・オセエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	表	10007/3 に近い黄褐色	E712/12	海伊勢系 器身欠
567	E76-44	土師器	皿	E5-1	黄灰色粘土	E71.1 高1.7	赤・オセエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	表	10007/3 に近い黄褐色	E712/12	海伊勢系 調理器あり
568	E89-12	土師器	皿	E5-1	黄灰色粘土	E71.2 高1.4	赤・オセエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	表	10007/2 灰白	E712/12	海伊勢系
569	E89-43	土師器	皿	E5-1	黄灰色粘土	E71.4 高1.4	赤・オセエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	表	10007/2 に近い黄褐色	E712/12	海伊勢系 調理器あり
570	E76-43	土師器	皿	E5-1	黄灰色粘土	E71.4 高1.1	赤・オセエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	表	5.5007/3 に近い黄褐色	E712/12	海伊勢系 調理器あり
571	E77-11	土師器	皿	E5-1	黄灰色粘土	E71.5 高1.5	赤・オセエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	表	5.5007/4 に近い黄褐色 5.5008/3 黄褐色	E712/12	海伊勢系
572	E75-43	土師器	皿	E5-1	黄灰色粘土	E71.8 高1.4	赤・オセエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや表	5.5008/3 黄褐色	E712/12	海伊勢系
573	E80-19	土師器	皿	E5-1	黄灰色粘土	E71.3 高1.6	赤・オセエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	表	5.5008/3 黄褐色	E712/12	海伊勢系
574	E74-44	土師器	皿	E5-1	黄灰色粘土	E71.5 高1.5	赤・オセエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや表	5.5008/2 灰白	E718/12	海伊勢系
575	E80-44	土師器	皿	E5-1	黄灰色粘土	E71.7 高1.7	赤・オセエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	表	5.5008/2 灰白	E712/12	海伊勢系
576	E74-47	土師器	皿	E5-1	黄灰色粘土	E71.8 高1.8	赤・オセエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや表	5.5008/4 灰青	E712/12	海伊勢系
577	E75-46	土師器	皿	E5-1	黄灰色粘土	E71.7 高1.5	赤・オセエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや表	5.5008/3 黄褐色	E712/12	海伊勢系
578	E89-41	土師器	皿	E5-1	黄灰色粘土	E71.4 高1.7	赤・オセエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	表	10007/2 に近い黄褐色	E712/12	海伊勢系 外庭祭祀器状器
579	E77-46	土師器	皿	E5-1	黄灰色粘土	E71.6 高1.6	赤・オセエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	表	5.5007/3 に近い黄褐色	E712/12	海伊勢系
580	E89-41	土師器	皿	E5-1	黄灰色粘土	E71.7 高1.4	赤・オセエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	表	5.5007/4 に近い黄褐色	E712/12	海伊勢系
581	E77-43	土師器	皿	E5-1	黄灰色粘土	E71.8 高1.6	赤・オセエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	表	5.5007/3 に近い黄褐色	E712/12	海伊勢系
582	E85-45	土師器	皿	E5-1	黄灰色粘土	E71.9 高1.5	赤・オセエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	表	5.5007/1 暗褐色	E712/12	海伊勢系
583	E75-41	土師器	皿	E5-1	黄灰色粘土	E71.9 高1.4	赤・オセエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや表	5.5008/1 灰白 5.5008/3 灰青	E712/12	海伊勢系 外庭祭祀工芸類
584	E80-19	土師器	皿	E5-1	黄灰色粘土	E71.1 高1.7	赤・オセエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	表	5.5008/4 黄褐色	E712/12	海伊勢系
585	E74-46	土師器	皿	E5-1	黄灰色粘土	E71.2 高1.7	赤・オセエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや表	10007/2 灰白	E711/12	海伊勢系
586	E74-45	土師器	皿	E5-1	黄灰色粘土	E71.8 高1.8	赤・オセエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや表	5.5008/3 黄褐色	E712/12	海伊勢系
587	E74-41	土師器	皿	E5-1	黄灰色粘土	E71.8 高1.8	赤・オセエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや表	5.5007/4 に近い黄褐色	E712/12	海伊勢系
588	E74-19	土師器	皿	E5-1	黄灰色粘土	E71.9 高1.5	赤・オセエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや表	5.5008/3 黄褐色 5.5008/3 灰青	E712/12	海伊勢系 内庭工芸類
589	E77-12	土師器	皿	E5-1	黄灰色粘土	E71.2 高1.5	赤・オセエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	表	2.507/2 灰青	E712/12	海伊勢系

第13表 遺物顕彰表13

番号	実測 番号	種・質	器種等	調査地	遺構・層名等	法量 (cm)	調査・技法の特徴	出土	色 調	残存度	特記事項
590	E75-54	土師器	皿	E-3	南沢色釉部	128.2 高1.5	赤・オセエ・ナデ、ヨコナデ 内・ナデ、ヨコナデ	ヤヤ密	5.982/2 灰白	C25/12	南伊勢系
591	E74-42	土師器	皿	E-3	南沢色釉部	128.2 高1.5	赤・オセエ・ナデ、ヨコナデ 内・ナデ、ヨコナデ	ヤヤ密	5.982/2 灰白 5.982/2 灰白	C25/12	南伊勢系
592	E74-40	土師器	皿	E-3	南沢色釉部	128.5 高1.9	赤・オセエ・ナデ、ヨコナデ 内・ナデ、ヨコナデ	ヤヤ密	5.982/2 灰白 5.982/2 灰白	C21/12	南伊勢系
593	E69-47	土師器	皿	E-3	南沢色釉部	128.4 高1.6	赤・オセエ・ナデ、ヨコナデ 内・ナデ、ヨコナデ	密	5.983/3 消色	C23/12	南伊勢系
594	E74-42	土師器	皿	E-3	南沢色釉部	128.4 高1.7	赤・オセエ・ナデ、ヨコナデ 内・ナデ、ヨコナデ	密	5.984/2 灰黄	C21/12	南伊勢系 跡部系あり
595	E75-45	土師器	皿	E-3	南沢色釉部	128.8 高1.5	赤・オセエ・ナデ、ヨコナデ 内・ナデ、ヨコナデ	ヤヤ密	5.982/3 浅黄緑	C25/12	南伊勢系
596	E74-12	土師器	皿	E-3	南沢色釉部	128.9 高1.5	赤・オセエ・ナデ、ヨコナデ 内・ナデ、ヨコナデ	ヤヤ密	5.982/3 浅黄緑	C25/12	南伊勢系
597	E77-42	土師器	皿	E-3	南沢色釉部	128.1 高1.1	赤・オセエ・ナデ、ヨコナデ 内・ナデ、ヨコナデ	密	5.987/3 にがい黄緑	C22/12	南伊勢系
598	E68-96	土師器	皿	E-3	南沢色釉部	128.4 高1.4	赤・オセエ・ナデ、ヨコナデ 内・ナデ、ヨコナデ	密	5.982/3 浅黄緑	C26/12	南伊勢系
599	E75-45	土師器	皿	E-3	南沢色釉部	128.2 高1.6	赤・オセエ・ナデ、ヨコナデ 内・ナデ、ヨコナデ	ヤヤ密	5.981/3 黄緑 5.982/2 灰白	C26/12	南伊勢系
600	E75-47	土師器	皿	E-3	南沢色釉部	128.4 高1.7	赤・オセエ・ナデ、ヨコナデ 内・ナデ、ヨコナデ	ヤヤ密	5.982/2 灰白 5.982/2 灰白	C22/12	南伊勢系
601	E68-43	土師器	皿	E-3	南沢色釉部	128.6 高1.7	赤・オセエ・ナデ、ヨコナデ 内・ナデ、ヨコナデ	密	5.987/4 にがい黄	C26/12	南伊勢系
602	E74-49	土師器	皿	E-3	南沢色釉部	128.5 高1.9	赤・オセエ・ナデ、ヨコナデ 内・ナデ、ヨコナデ	ヤヤ密	5.982/3 浅黄緑	C22/12	南伊勢系
603	E69-41	土師器	皿	E-3	南沢色釉部	128.5	赤・オセエ、ヨコナデ 内・ナデ、ヨコナデ	密	5.982/2 灰白	C23/12	南伊勢系
604	E69-43	土師器	皿	E-3	南沢色釉部 (部外 区部分)	C22.5	赤・オセエ、ヨコナデ 内・ナデ、ヨコナデ	密	5.982/3 浅黄緑	C21/12	南伊勢系
605	E69-45	土師器	皿	E-3	南沢色釉部 (部外 区部分)	C22.1	赤・オセエ、ヨコナデ 内・ナデ、ヨコナデ	密	5.987/2 暗緑灰	C23/12	南伊勢系
606	E69-46	土師器	皿	E-3	南沢色釉部 (部外 区部分)	C22.8	赤・オセエ 内・ナデ	密	5.982/2 灰白	C22/12	南伊勢系
607	E69-54	土師器	皿	E-3	南沢色釉部 (部外 区部分)	C22.6	赤・オセエ 内・ナデ	密	5.987/2 暗緑灰	C22/12	南伊勢系
608	E69-40	土師器	皿	E-3	南沢色釉部	C21.1	赤・オセエ・ナデ、ヨコナデ 内・ナデ、ヨコナデ	密	5.987/2 暗緑灰	C23/12	南伊勢系
609	E69-42	土師器	皿	E-3	南沢色釉部 (部外 区部分)	C24.1	赤・オセエ 内・ナデ	密	5.982/3 灰白	C22/12	南伊勢系
610	E69-43	土師器	皿	E-3	南沢色釉部	128.2 高1.6	赤・オセエ・ナデ、ヨコナデ 内・ナデ、ヨコナデ	密	5.987/3 にがい黄緑	C26/12	南伊勢系 跡部系あり
611	E69-54	土師器	皿	E-3	南沢色釉部	128.4 高1.8	赤・オセエ・ナデ、ヨコナデ 内・ナデ、ヨコナデ	密	5.987/4 にがい黄	C24/12	南伊勢系 跡部系あり
612	E75-11	土師器	皿	E-3	南沢色釉部	128.9 高1.9	赤・オセエ・ナデ、ヨコナデ 内・ナデ、ヨコナデ	ヤヤ密	5.982/4 灰白	C22/12	南伊勢系
613	E75-12	土師器	皿	E-3	南沢色釉部	128.6 高1.8	赤・オセエ・ナデ、ヨコナデ 内・ナデ、ヨコナデ	ヤヤ密	5.982/1 灰白 5.982/2 灰白	C26/12	南伊勢系
614	E77-44	土師器	皿	E-3	南沢色釉部	128.5 高1.8	赤・オセエ、ヨコナデ 内・ナデ、ヨコナデ	密	5.987/2 にがい黄緑	C26/12	南伊勢系
615	E69-48	土師器	皿	E-3	南沢色釉部	128.8 高1.8	赤・オセエ・ナデ、ヨコナデ 内・ナデ、ヨコナデ	密	2.957/1 灰白	C25/12	南伊勢系
616	E69-49	土師器	皿	E-3	南沢色釉部	128.8 高1.5	赤・オセエ・ナデ、ヨコナデ 内・ナデ、ヨコナデ	密	5.987/3 にがい黄	C24/12	南伊勢系
617	E69-47	土師器	皿	E-3	南沢色釉部	128.4 高1.2	赤・オセエ・ナデ、ヨコナデ 内・ナデ、ヨコナデ	密	5.987/2 にがい黄緑	C27/12	南伊勢系
618	E74-41	土師器	皿	E-3	南沢色釉部	128.4 高1.2	赤・オセエ・ナデ、ヨコナデ 内・ナデ、ヨコナデ	密	5.987/2 にがい黄緑	C22/12	南伊勢系 跡部系あり
619	E69-46	土師器	皿	E-3	南沢色釉部	C26.5	赤・ナデ、ヨコナデ 内・ナデ、ヨコナデ	密	5.987/3 にがい黄	C24/12	南伊勢系 跡部系あり
620	E77-41	土師器	皿	E-3	南沢色釉部	128.9 高1.1	赤・オセエ・ナデ、ヨコナデ 内・ナデ、ヨコナデ	密	5.987/2 にがい黄緑 灰白黄	C22/12	南伊勢系
621	E65-54	土師器	台付皿	E-3	南沢色釉部	128.9 高1.5	赤・オセエ、ヨコナデ、緑付ナデ 内・ナデ、ヨコナデ	密	5.987/2 にがい黄緑	C25/12	南伊勢系 外底スス付
622	E74-47	土師器	台付皿	E-3	南沢色釉部	127.5 高1.8	赤・オセエ、ヨコナデ 内・ナデ、ヨコナデ	密	5.987/4 にがい黄	C22/12	南伊勢系 内面正装 緑付裏面
623	E74-55	土師器	台付皿	E-3	南沢色釉部	127.1 高1.1	赤・オセエ・ナデ、ヨコナデ、緑付ナデ 内・ナデ、ヨコナデ	密	5.987/4 にがい黄	C22/12	南伊勢系 緑付裏面
624	E74-46	土師器	台付皿	E-3	南沢色釉部	127.4 高1.2	赤・オセエ、ヨコナデ、緑付ナデ 内・ナデ、ヨコナデ	密	5.987/3 にがい黄	C26/12	南伊勢系 緑付裏面 裏面欠
625	E69-45	土師器	台付皿	E-3	南沢色釉部	64.2	赤・オセエ、緑付ナデ 内・ナデ	密	5.987/3 にがい黄	61/12	南伊勢系
626	E69-54	土師器	台付皿	E-3	南沢色釉部	127.5	赤・オセエ・ナデ 内・ナデ	密	5.987/2 暗緑灰	C24/12	南伊勢系 裏面欠
627	E69-56	土師器	台付皿	E-3	南沢色釉部	127.9 高1.2	赤・オセエ、ヨコナデ 内・ナデ、ヨコナデ	密	5.987/3 にがい黄	小片	南伊勢系
628	E69-43	土師器	平鉢	E-3	南沢色釉部	64.8	赤・オセエ・ナデ、ヨコナデ 内・ナデ、ヨコナデ	密	5.987/2 にがい黄	61/12	尾形平鉢 跡部系
629	E74-48	土師器	鉢	E-3	南沢色釉部	C21.1	赤・オセエ・ナデ、ヨコナデ 内・ナデ、ヨコナデ	密	5.987/2 にがい黄緑	C24/12	南伊勢系 口縁部スス付
630	E65-42	土師器	鉢	E-3	南沢色釉部	C21.1	赤・オセエ、ヨコナデ 内・ナデ、ヨコナデ	密	5.987/2 にがい黄緑	C26/12	南伊勢系
631	E62-56	土師器	鉢	E-3	南沢色釉部	127.9 高1.2	赤・ハナモ 15(8) - ナデ、緑付ナデ 内・ナデ	ヤヤ密	5.987/4 にがい黄	小片	南伊勢系 口口部
632	E69-47	土師器	鉢	E-3	南沢色釉部	C21.9	赤・ナデ、クズリ、ヨコナデ 内・ナデ、ヨコナデ	密	5.987/3 にがい黄	C21/12	南伊勢系
633	E69-42	土師器	盛鉢	E-3	南沢色釉部	126.9	赤・オセエ、クズリ、ヨコナデ 内・エダナデ、クズリ、ヨコナデ	密	5.982/2 灰白	C24/12	南伊勢系
634	E69-43	土師器	鉢	E-3	南沢色釉部	C26.4	赤・オセエ・ナデ、クズリ、ヨコナデ 内・ナデ、ヨコナデ	密	5.987/3 にがい黄緑	C24/12	南伊勢系
635	E69-54	土師器	盛鉢	E-3	南沢色釉部	C26.6	赤・クズリ、ヨコナデ 内・エダナデ、クズリ、ヨコナデ	ヤヤ密	5.987/3 にがい黄	C22/12	南伊勢系 裏面正装1箇所
636	E69-41	土師器	盛鉢	E-3	南沢色釉部	C27.4	赤・ナデ、クズリ、ヨコナデ 内・ハナモ 15(8) - ナデ、ヨコナデ	ヤヤ密	5.982/3 浅黄緑	C22/12	南伊勢系
637	E67-42	土師器	鉢	E-3	南沢色釉部	C26.2	赤・オセエ・ナデ、クズリ、ヨコナデ 内・ナデ、ヨコナデ	密	5.982/4 にがい黄	C21/12	南伊勢系
638	E69-54	土師器	盛鉢	E-3	南沢色釉部	C27.4	赤・ナデ、クズリ、ヨコナデ 内・エダナデ、クズリ、ヨコナデ	密	5.987/4 にがい黄	C23/12	南伊勢系
639	E74-49	土師器	盛鉢	E-3	南沢色釉部	C25.6	赤・クズリ、ヨコナデ 内・ナデ、クズリ、ヨコナデ	密	5.987/3 にがい黄	C22/12	南伊勢系
640	E69-47	土師器	盛鉢	E-3	南沢色釉部	C26.9	赤・ナデ、クズリ、ヨコナデ 内・エダナデ、クズリ、ヨコナデ	密	5.987/4 にがい黄	C24/12	南伊勢系

第14表 遺物観察表14

番号	東洋館 番号	種・目	図鑑等	調査・層名等	法量(cm)	調査・注記の特徴	出土	色 調	残存度	特記事項	
642	642-43	土師器	磁器	55-1	黄灰色粘土	319.6	外：ナメ、クズリ、ヨコナデ 内：ナメ、クズリ、ヨコナデ	やや暗	5.596/1 浅黄褐色	231/12	海神祭具 焼成温度凡1箇所
642	642-43	土師器	磁器	55-1	黄灰色粘土	317.6	外：ナメ、クズリ、ヨコナデ 内：ナメ、クズリ、ヨコナデ	暗	5.597/1 灰白	235/12	海神祭具 底部一部焼残
642	642-43	土師器	磁器	55-1	黄灰色粘土	316.6	外：ナメ、クズリ、ヨコナデ 内：ナメ、クズリ、ヨコナデ	暗	5.596/2 灰白	233/12	海神祭具 底部一部焼残
644	642-43	土師器	磁器	55-1	黄灰色粘土	317.6	外：ナメ、クズリ、ヨコナデ 内：ナメ、クズリ、ヨコナデ	暗	5.596/3 濃い黄	233/12	海神祭具 口縁部沿えスス付着
645	642-42	土師器	磁器	55-1	黄灰色粘土	318.6	外：ナメ、クズリ、ヨコナデ 内：ナメ、クズリ、ヨコナデ	やや暗	5.597/1 濃い黄褐色	231/12	海神祭具 焼成温度凡1箇所
646	641-46	土師器	鉢	55-1	黄灰色粘土	315.6	外：ナメ、クズリ、ヨコナデ 内：ナメ、クズリ、ヨコナデ	暗	5.596/2 灰白	233/12	海神祭具
647	640-45	土師器	鉢	55-1	黄灰色粘土	317.6	外：ナメ、クズリ、ヨコナデ 内：ナメ、クズリ、ヨコナデ	やや暗	5.596/2 灰白	233/12	海神祭具
648	640-46	土師器	磁器	55-1	黄灰色粘土	317.6 高さ3.6	外：ナメ、クズリ、ヨコナデ 内：ナメ、クズリ、ヨコナデ	暗	5.597/2 暗褐色	232/12	海神祭具 口 スス付着
649	640-41	土師器	鉢	55-1	黄灰色粘土	317.6	外：ナメ、クズリ、ヨコナデ 内：ナメ、クズリ、ヨコナデ	暗	5.596/1 濃い黄	233/12	海神祭具 口
650	642-45	土師器	鉢	55-1	黄灰色粘土 (器底部分)	317.6	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	暗	5.596/2 灰白	小片	海神祭具 外底スス付着
651	642-44	土師器	鉢	55-1	黄灰色粘土	317.6	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	暗	5.596/2 灰白	小片	海神祭具 外底スス付着
652	641-45	土師器	鉢	55-1	黄灰色粘土	317.6	外：ナメ、クズリ、ヨコナデ 内：ナメ、クズリ、ヨコナデ	暗	5.596/1 灰白	小片	海神祭具 外底スス付着
653	641-44	土師器	鉢	55-1	黄灰色粘土	317.6	外：ナメ、クズリ、ヨコナデ 内：ナメ、クズリ、ヨコナデ	暗	5.597/1 濃い黄	小片	海神祭具 外底スス付着
654	641-42	土師器	磁器	55-1	黄灰色粘土	317.6	外：ナメ、クズリ、ヨコナデ 内：ナメ、クズリ、ヨコナデ	暗	5.596/1 黄	小片	海神祭具 内底ツツ付着
655	642-46	土師器	鉢	55-1	黄灰色粘土	316.6	外：ハタメ (5本筋)、クズリ、ヨコナデ 内：ハタメ (5本筋)、クズリ、ヨコナデ	やや暗	5.597/1 黄 5.596/1 黄	232/12	海神祭具
656	641-41	土師器	鉢	55-1	黄灰色粘土	320.2	外：ナメ、クズリ、ヨコナデ 内：ナメ、クズリ、ヨコナデ	暗	5.597/1 濃い黄	232/12	海神祭具 外底スス付着
657	642-43	土師器	鉢	55-1	黄灰色粘土	325.6	外：ナメ、クズリ、ヨコナデ 内：ナメ、クズリ、ヨコナデ	やや暗	5.596/1 浅黄褐色	233/12	海神祭具 外底スス付着
658	642-42	土師器	鉢	55-1	黄灰色粘土	325.6	外：ハタメ (5本筋)、クズリ、ヨコナデ 内：ハタメ (5本筋)、クズリ、ヨコナデ	やや暗	5.597/1 灰白 5.597/2 暗褐色	232/12	海神祭具 外底スス付着
659	640-45	土師器	鉢	55-1	黄灰色粘土	326.1	外：ナメ、ハタメ (5本筋)、クズリ、ヨコナデ 内：ナメ、クズリ、ヨコナデ	暗	5.596/2 灰白	233/12	海神祭具
660	641-43	土師器	鉢	55-1	黄灰色粘土	326.6	外：ナメ、クズリ、ヨコナデ 内：ナメ、クズリ、ヨコナデ	やや暗	5.597/1 暗褐色	233/12	海神祭具 外底スス付着
661	641-41	土師器	鉢	55-1	黄灰色粘土	326.6	外：ナメ、ハタメ (5本筋)、クズリ、ヨコナデ 内：ナメ、クズリ、ヨコナデ	やや暗	5.597/1 暗褐色	232/12	海神祭具 外底スス付着
662	641-42	土師器	鉢	55-1	黄灰色粘土	326.6	外：ナメ、ハタメ (5本筋)、クズリ、ヨコナデ 内：ナメ、クズリ、ヨコナデ	やや暗	5.597/1 暗褐色	233/12	海神祭具 外底スス付着
663	642-41	土師器	磁器	55-1	黄灰色粘土	326.6	外：ナメ、クズリ、ヨコナデ 内：ナメ、クズリ、ヨコナデ	やや暗	5.597/1 黄	232/12	海神祭具 外底スス付着
664	641-44	土師器	煎茶	55-1	黄灰色粘土	317.6	外：ヨコナデ、取付ナデ 内：ナメ、クズリ、ヨコナデ	やや暗	5.597/1 濃い黄	小片	海神祭具 外底スス付着
665	641-43	土師器	煎茶	55-1	黄灰色粘土 (器底部分)	325.6	外：ハタメ (5本筋)、ヨコナデ、取付ナデ 内：ヨコナデ	暗	5.596/1 灰白	232/12	海神祭具
666	642-45	土師器	煮飯器	55-1	黄灰色粘土	326.6	外：ナメ、クズリ、ヨコナデ 内：ナメ、クズリ、ヨコナデ	やや暗	5.597/1 濃い黄	232/12	海神祭具
667	641-45	土師器	煮飯器	55-1	黄灰色粘土	322.4	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	暗	5.597/2 濃い黄褐色	235/12	海神祭具 スス付着
668	642-44	土師器	煮飯器	55-1	黄灰色粘土	325.6	外：ハタメ (5本筋)、ヨコナデ 内：ナメ、クズリ、ヨコナデ	やや暗	5.597/1 濃い黄褐色	233/12	海神祭具 小片
669	641-43	土師器	煮飯器	55-1	黄灰色粘土	317.6	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	暗	5.596/1 褐色	小片	海神祭具 内底面酸化
670	644-41	土師器	十徳	55-1	黄灰色粘土	焼痕13.6	外：クズリ、ヨコナデ 内：ナメ、クズリ、ヨコナデ	やや暗	5.597/1 濃い黄	-	海神祭具 外底スス付着
671	644-42	土師器	十徳	55-1	黄灰色粘土	焼痕13.3	外：クズリ、ヨコナデ 内：ナメ、クズリ、ヨコナデ	やや暗	5.597/1 濃い黄 5.596/1 褐色	-	海神祭具 外底スス付着
672	641-42	陶器	瓦片車輪	55-1	黄灰色粘土	64.2	外：ヨコナデ、施釉 (鉄黒) 内：ヨコナデ、施釉 (鉄黒)	暗	5.596/1 濃い黄褐色 5.596/1 黄	641/12	海神祭具 施釉の可能性があります
673	643-41	陶器	瓦片	55-1	黄灰色粘土	216.6 高さ2.5	外：ヨコナデ、ヨコナデ、施釉 (鉄黒) 内：ヨコナデ、ヨコナデ、施釉 (鉄黒)	暗	5.596/1 灰白 2.596/2 灰白	236/12	海神祭具 施釉 (灰白)
674	674-42	陶器	瓦片	55-1	黄灰色粘土	212.6 高さ2.4	外：ヨコナデ、ヨコナデ、施釉 (鉄黒) 内：ヨコナデ、ヨコナデ、施釉 (鉄黒)	暗	5.596/1 灰白 2.596/2 灰白	235/12	海神祭具 施釉 (灰白)
675	643-41	陶器	瓦片車輪	55-1	黄灰色粘土	214.4 高さ1.8	外：ヨコナデ、ヨコナデ、施釉 (鉄黒) 内：ヨコナデ、ヨコナデ、施釉 (鉄黒)	暗	5.596/2 灰白 5.596/1 灰白	236/12	海神祭具 施釉 (灰白)
676	674-46	陶器	瓦片	55-1	黄灰色粘土	216.6	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、施釉 (鉄黒)	暗	5.596/2 灰白 2.596/2 灰白	643/12	海神祭具 施釉 (灰白)
677	645-42	陶器	鉢	55-1	黄灰色粘土	224.6 高さ6.5	外：ヨコナデ、ヨコナデ、施釉 (鉄黒) 内：ヨコナデ、施釉 (鉄黒)	暗	5.597/1 灰白 5.597/2 灰白	237/12	海神祭具 (器底) 施釉 (灰白) 口縁部・内底に施釉 施釉面多い
678	645-41	陶器	鉢	55-1	黄灰色粘土	222.7 高さ4.4	外：ヨコナデ、ヨコナデ、施釉 (鉄黒) 内：ヨコナデ、施釉 (鉄黒)	暗	5.597/1 灰白 5.597/2 灰白	232/12	海神祭具 (器底) 施釉 (灰白) 口縁部・内底に施釉 施釉面多い
679	643-45	陶器	内付	55-1	黄灰色粘土	225.6 高さ4.4	外：ヨコナデ、ヨコナデ、施釉 (鉄黒) 内：ヨコナデ	暗	5.597/1 灰白 5.597/2 灰白	232/12	海神祭具 施釉 (灰白)
680	643-43	陶器	中瓶	55-1	黄灰色粘土	221.6	外：ヨコナデ、施釉 (鉄黒) 内：ヨコナデ、施釉 (鉄黒)	暗	5.597/2 灰白 2.597/2 灰白	233/12	海神祭具 施釉 (灰白) 641と同一個体の可能性があります
681	643-44	陶器	中瓶	55-1	黄灰色粘土	224.6	外：ヨコナデ、ヨコナデ、施釉 (鉄黒) 内：ヨコナデ	暗	5.597/2 灰白 2.597/2 灰白	235/12	海神祭具 施釉 (灰白) 641と同一個体の可能性があります
682	674-47	陶器	中瓶	55-1	黄灰色粘土	222.2	外：ヨコナデ、ヨコナデ、施釉 (鉄黒) 内：ヨコナデ、ヨコナデ、施釉 (鉄黒)	暗	5.597/2 灰白 2.597/2 灰白	232/12	海神祭具 施釉 (灰白) 641と同一個体の可能性があります
683	674-44	陶器	中瓶	55-1	黄灰色粘土	221.6	外：ヨコナデ、施釉 (鉄黒) 内：ヨコナデ、施釉 (鉄黒)	暗	5.597/2 灰白 2.597/2 灰白	234/12	海神祭具 施釉 (灰白)
684	645-43	陶器	中瓶	55-1	黄灰色粘土	226.6	外：ヨコナデ、施釉 (鉄黒) 内：ヨコナデ、施釉 (鉄黒)	暗	5.597/2 灰白 2.597/2 灰白	233/12	海神祭具 施釉 (灰白)
685	674-43	陶器	鉢	55-1	黄灰色粘土	227.6 高さ4.5	外：ヨコナデ、ヨコナデ、施釉 (鉄黒) 内：ヨコナデ、ヨコナデ、施釉 (鉄黒)	暗	5.597/2 灰白 2.597/2 灰白	232/12	海神祭具 (器底) 施釉 (灰白) 口縁部・内底に施釉 施釉面多い
686	644-41	陶器	壺	55-1	黄灰色粘土	240.6	外：ナメ、ヨコナデ 内：ナメ、クズリ、ヨコナデ	暗	5.596/1 灰白 5.596/2 灰白	232/12	海神祭具 (器底)
687	643-42	磁器	漆付	55-1	黄灰色粘土	317.6	外：ヨコナデ、施釉 内：ヨコナデ、施釉	暗	5.596/1 灰白 5.596/2 灰白	小片	海神祭具
688	642-42	磁器	工具用 瓦	55-1	黄灰色粘土	焼痕2.4+2.1 高さ2.7	外：ヨコナデ、施釉 内：ヨコナデ、施釉	暗	5.596/1 灰白 5.596/2 灰白	232/12	海神祭具 (器底) 施釉 (灰白) 口縁部・内底に施釉 施釉面多い
689	642-41	磁器	瓦片	55-1	黄灰色粘土	216.6 高さ4.4	外：ヨコナデ、施釉 (鉄黒) 内：ヨコナデ、施釉 (鉄黒)	暗	5.596/1 灰白 2.596/2 灰白	236/12	海神祭具 施釉 (灰白)
690	642-44	磁器	漆付 瓦	55-1	黄灰色粘土	216.6 高さ4.4	外：ヨコナデ、施釉 (鉄黒) 内：ヨコナデ、施釉 (鉄黒)	暗	5.596/1 灰白 2.596/2 灰白	236/12	海神祭具 施釉 (灰白)
691	642-47	磁器	瓦片	55-1	黄灰色粘土	216.6 高さ4.4	外：ヨコナデ、施釉 (鉄黒) 内：ヨコナデ、施釉 (鉄黒)	暗	5.596/1 灰白 2.596/2 灰白	236/12	海神祭具 施釉 (灰白)

第15表 遺物観察表15

番号	実測 番号	種・質	器種等	調査地	遺構・層名等	法量 (cm)	調査・技法の特徴	出土	色 調	残存度	特記事項
492	94-06	磁器	碗	R-4	造成土	口74	赤・ロコナデ、黒陶 ロコナデ、黒陶	底・灰白 底・灰白・黒	小片	江戸末遺構	内装瓦葺き・手触り
493	94-02	土師器	皿	R-4	暗褐色粘砂	口38.2	赤・オサエ・ナデ 内・ナデ	底	1000/12 に近い・暗	12/12	海伊勢系 遺構あり
494	94-03	土師器	皿	R-4	暗褐色粘砂	口38.2	赤・オサエ・ナデ 内・ナデ	底	7.5/98/2 浅黄緑	12/12	海伊勢系
495	94-06	土師器	鉢	R-4	暗褐色粘砂	口4.4	赤・紐付ナデ 内・ナデ	底	1000/12 灰白	10/12	海伊勢系 内装スス付
496	94-07	土師器	合付	R-4	暗褐色粘砂	口35.8	赤・ハタメ (38x6)・ヨコナデ 内・ナデ、ヨコナデ	底	1000/12 に近い・黄緑	12/12	海伊勢系
497	94-05	陶器	丸瓶	R-4	暗褐色粘砂	口3.7	赤・ロコナデ、ロコナデズリ、黒陶 (灰陶) 内・ロコナデ、黒陶 (灰陶)	底	2.3/9/1 灰白	10/12	江戸末遺構 内装瓦葺き
498	94-04	陶器	瓶か	R-4	暗褐色粘砂	口5.0	赤・ロコナデ、赤付ナデ、黒陶 (灰陶) 内・ロコナデ	底	1000/12 に近い・黄緑	10/12	底面不明 底部刻印「ニ」 内装深付蓋
499	94-01	陶器	花瓶	R-4	暗褐色粘砂	口32.0	赤・オサエ・ナデ、ヨコナデ 内・ナデ、ヨコナデ	底	5/98/4 2 に近い・暗	12/12	浅黄緑 (遺構) 内装深付蓋
700	94-03	土師器	皿	R-6	赤 (暗褐色粘土)	口37.5 底3.5	赤・オサエ・ナデ 内・ナデ	やや底	7.5/98/2 浅黄緑	12/12	海伊勢系
701	94-04	土師器	皿	R-6	赤 (暗褐色粘土)	口36.7 底3.4	赤・オサエ 内・ナデ	底	7.5/98/2 に近い・暗	12/12	海伊勢系
702	94-01	土師器	皿	R-6	赤 (暗褐色粘土)	口38.2 底3.4	赤・オサエ・ナデ、ヨコナデ 内・ナデ、ヨコナデ	やや底	5/98/4 浅緑	12/12	海伊勢系
703	94-02	土師器	皿	R-6	赤 (暗褐色粘土)	口38.0	赤・ナデ、ヨコナデ 内・ナデ、ヨコナデ	やや底	7.5/98/2 浅黄緑	12/12	海伊勢系 遺構あり
704	94-05	土師器	鉢	R-6	赤 (暗褐色粘土)	口36.8	赤・ハタメ (38x6)・ヨコナデ 内・土灰ナデ、ヨコナデ	底	7.5/98/2 に近い・暗	12/12	海伊勢系
705	94-03	土師器	鉢	R-6	赤 (暗褐色粘土)	口37.0	赤・ハタメ (38x6)・ウズリ、ヨコナデ 内・土灰ナデ、ヨコナデ	底	1000/12 に近い・黄緑	小片	海伊勢系
706	102-06	鉄製品	釘か	R-6	S K 2	長さ2 幅0.2			断片	2024-10-02-6	
707	102-05	鉄製品	釘か	R-6	S K 2	長さ2 幅0.4			断片	2024-10-02-5	
708	94-04	陶器	壺	R-7	暗灰色粘土	口34.8	赤・紐付ナデ 内・紐付ナデ	底	底・灰	12/12	浅黄緑 (灰陶) 口縁部黒陶製
709	94-05	陶器	山形碗	R-8	褐色粘土	口5.0	赤・ロコナデ、紐付ナデ 内・ロコナデ	底	底・灰白	10/12	浅黄緑 内装深付
710	94-06	土師器	皿	R-8	暗褐色粘土	口38.4 底3.5	赤・ナデ、ヨコナデ 内・ナデ、ヨコナデ	やや底	1000/12 灰白	12/12	海伊勢系 底部外装瓦葺き
711	94-08	土師器	皿	R-8	暗褐色粘土	口38.9 底3.1	赤・ナデ、ヨコナデ 内・ナデ、ヨコナデ	やや底	7.5/98/2 暗黄緑	12/12	海伊勢系 遺構あり
712	94-05	土師器	皿	R-8	暗褐色粘土	口38.6 底3.1	赤・オサエ・ナデ、ヨコナデ 内・ナデ、ヨコナデ	やや底	7.5/98/2 暗黄緑	12/12	海伊勢系 遺構あり
713	94-07	土師器	皿	R-8	暗褐色粘土	口38.4 底3.2	赤・オサエ・ナデ、ヨコナデ 内・ナデ、ヨコナデ	やや底	1000/12 灰白 1000/12 灰白	12/12	海伊勢系 底部外装瓦葺き 内装スス付
714	401-07	木製品	不明板材	R-8	暗褐色粘土	長さ7 幅0.1				2024-10-01-7 板端：サツマイ根葉葉葉葉葉 の断面に似ている	
715	94-07	土師器	皿	R-8	暗褐色粘土 (10 ax大漆器)	口33.4 底3.8	赤・オサエ・ナデ 内・ナデ	やや底	7.5/98/2 に近い・暗	12/12	海伊勢系
716	94-03	土師器	皿	R-8	暗褐色粘土 (10 ax大漆器)	口37.8 底3.2	赤・オサエ・ナデ 内・ナデ	やや底	7.5/98/2 浅黄緑	12/12	海伊勢系 内装瓦葺き
717	94-02	土師器	皿	R-8	暗褐色粘土 (10 ax大漆器)	口37.4 底3.4	赤・オサエ・ナデ 内・ナデ	やや底	1000/12 灰白	12/12	海伊勢系
718	94-06	土師器	皿	R-8	暗褐色粘土 (10 ax大漆器)	口38.6 底3.5	赤・オサエ・ナデ、ヨコナデ 内・ナデ、ヨコナデ	やや底	1000/12 に近い・黄緑	12/12	海伊勢系 遺構あり
719	94-04	土師器	皿	R-8	暗褐色粘土 (10 ax大漆器)	口38.8 底3.3	赤・ナデ、ヨコナデ 内・ナデ、ヨコナデ	やや底	7.5/98/2 灰白	12/12	海伊勢系 遺構あり
720	94-01	土師器	浅鉢	R-8	暗褐色粘土 (10 ax大漆器)	口38.8	赤・オサエ・土灰ナデ、ヨコナデ 内・土灰ナデ、ヨコナデ	やや底	1000/12 に近い・暗 1000/12 浅黄緑	12/12	海伊勢系 内装スス付

第16表 出土品類一覧表

調査坑No.	層位	分類群	部位	状態	備考
R5-1	暗灰色粘砂 (練・木片混)	二枚貝	殻	破片	
R5-3	造成土	サザエ	殻	破片	
R5-3	暗青灰色粘砂 (練混)	サザエ	殻	破片	
R5-6	土坑か	アカニシ	殻	破片	殻皮剥離
R5-6	土坑か	アカニシ	殻	破片	
R5-7	暗灰褐色砂礫層	アワビ類	殻	破片	
R5-7	暗灰褐色砂礫層	不明二枚貝	殻	破片	
R5-8	暗褐色礫層	ヤマトシジミ	殻	破片	
R5-8	暗褐色粘質土 10ax大漆器	ヤマトシジミ	殻	破片	
R5-8	暗褐色礫層	イタヤガイ	殻	破片	
R5-8	褐色粘質土	サザエ	殻	破片	
R5-8	暗褐色粘質土 10ax大漆器	サザエ	殻	破片	
R5-8	暗褐色礫層	サザエ	殻	破片	
R5-8	暗褐色礫層	マダカアワビ	殻	破片	
R5-8	暗褐色礫層 10ax大漆器	アワビ類	殻	破片	
R5-8	暗褐色粘質土 10ax大漆器	アワビ類	殻	破片	
R5-8	暗褐色粘質土 10ax大漆器	カキ類	殻	破片	
R5-8	暗褐色粘質土 10ax大漆器	不明貝	殻	破片	

VI 自然科学分析

1 分析の目的

中館遺跡の各調査坑から出土した遺物とともに、植物種子・貝殻、漆器や木製品が出土している。土器出土層からの共伴であったり、その上下層から出土するこれらの同定を行い、堆積層周辺の植生や自然環境等の復元的考察を試みるために、同定分析を行った。以下に、令和3年度実施の調査坑から出土した試料について種実および貝類の同定結果を、令和5年度実施の調査坑から出土した漆器と木製品について漆塗膜分析および樹種同定結果を報告する。

2 中館遺跡から出土した大型植物遺体

(1) はじめに

調査坑№3から出土した、中世後期～近現代と推定されている大型植物遺体について、同定結果を報告し、当時の利用植物について検討した。

(2) 試料と方法

分析試料は、調査坑№3から肉眼で確認され、採取された3試料で、中世後期から近現代の大型植物遺体と推定されている。

同定および計数は、肉眼および実体顕微鏡で行った。同定された試料は、三重県埋蔵文化財センターに保管されている。

(3) 結果

同定した結果、3試料は木本植物のウメ核とモモ核、ヤマモモ核であった(第17表)。

以下に、出土した大型植物遺体を試料別に記載する。

試料①-1：ヤマモモ1点

試料①-2：ウメ1点

試料①-3：モモ1点

次に、得られた分類群の記載を行い、図版に写真を示して同定の根拠とする。なお、分類群の学名は米倉・梶田(2003-)に準拠し、APG IIIリストの順とした。

ウメ *Prunus mume* Siebold et Zucc. 核 バラ科
茶色で、上面観は両凸レンズ形、側面観は卵円形。表面全体に、不規則で深い小さな孔がある。着点は凹む。縫合線に沿って深い溝が入る。高さ19.6mm、幅13.5mm、厚さ11.3mm。

モモ *Prunus persica* (L.) Batsch 核 バラ科
茶褐色で、完形ならば上面観は両凸レンズ形、側面観は楕円形で先が尖る。表面に不規則な深い皺がある。片側の側面には縫合線に沿って深い溝が入るが、残存していない。残存高15.6mm、残存幅15.9mm、残存厚6.3mm。

ヤマモモ *Morella rubra* Lour. 核 ヤマモモ科
赤褐色で、いびつな凸レンズ型の扁平な球体。表面は粗い。核皮は厚く硬い。長さ7.8mm、幅6.1mm、厚さ4.6mm。

(4) 考察

調査坑№3から出土した、中世後期から近現代と推定されている大型植物遺体3点を同定した結果、栽培植物で果樹のウメとモモ、野生植物で食用として利用可能なヤマモモであった。

ウメやモモ、ヤマモモの核は、果肉を食べた後に、食用にならない核の部分が捨てられた可能性や、周辺に生育していた果樹から落下し、堆積した可能性が考えられる。

(パンダリ スダルジャン パレオ・ラボ)

第17表 中館遺跡の調査坑№3から出土した大型植物遺体(括弧内は破片数)

分類群	試料No.	時期		
		①-1	①-2	①-3
		中世後期～近現代		
	採取方法	現地取上げ		
ウメ	核		1	
モモ	核			(1)
ヤマモモ	核	1		



第21図 中館遺跡の調査坑No.3から出土した大型植物遺体

1. ウメ核 (No. ①-2)、2. モモ核 (No. ①-3)、3. ヤマモモ核 (No. ①-1)

3 中館遺跡出土の貝類同定

(1) はじめに

三重県に所在する中館遺跡から出土した貝類の同定結果を報告する。

(2) 試料と方法

試料は、確認トレンチから出土した貝類である。時期は、中世後期～近現代と考えられている。肉眼で試料を観察し、現生標本との比較により、部位と分類群の同定を行った。

(3) 結果

貝類の同定結果を第18表に示す。腹足綱で2分類群、斧足綱で1分類群が確認された。

調査坑 No. 1 の黒褐色粘質土からは、アカニシの体層破片1点が同定された。殻表には結節状の螺肋が認められる。

調査坑 No. 3 の黒褐色粘質土からは、バカガイの左殻2点、右殻3点、破片が2点と、アワビ属と思われる破片が1点同定された。バカガイとしたのは、いずれも弾帯受が大きく、前後の側面が明らかなく、

殻頂があまり盛り上がらない点、太く低い輪肋が認められる点などから判断した。

貝類の生息域で見ると、アカニシは水深30m以下の砂泥底、バカガイは潮間帯下部～水深20mほどの砂泥底に生息し、アワビ属は潮間帯～水深50mほどの岩礁域に生息する。これらの貝類は、いずれも食用となるため、海岸部で採取された貝類が遺跡へ持ち込まれたと考えられる。

(三谷 智広 バレオ・ラボ)

4 中館遺跡における漆製品の塗膜分析

(1) はじめに

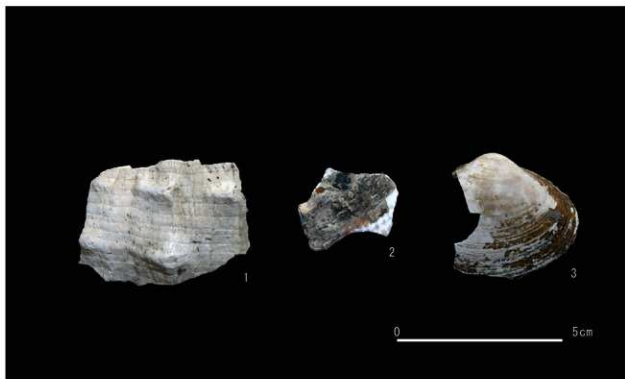
遺跡出土の漆椀について、断面の顕微鏡観察、蛍光X線分析を行い、その構造より製作工程の考察を行う。

(2) 試料

分析試料は、漆器皿より採取された漆膜である。漆器皿から木胎も含め2mm角程の破片を採取した。なお、これは樹種同定および保存処理に用いられた漆器製品(381)と同一試料である。

第18表 中館遺跡出土貝類の同定結果

試料No.	調査坑No.	層位	分類群	部位	状態	左右および点数			
						左	右	不明	
②-1	1	黒褐色粘質土 (貝殻混)	アカニシ	殻	体層破片	1			
②-2	3		バカガイ	殻	殻頂部		1		
②-3	3		バカガイ	殻	殻頂部		1		
②-4	3		バカガイ	殻	殻頂部		1		
②-5	3		バカガイ	殻	殻頂部		1		
②-6	3		バカガイ	殻	殻頂部	1			
②-7	3		バカガイ	殻	破片				1
②-8	3		バカガイ	殻	破片				1
②-9	3		アワビ属?	殻	破片	1			



第22図 中館遺跡出土の貝類 (1:調査坑No. 1出土 2・3:調査坑No. 3出土)

1. アカニシ (試料No. ②-1) 2. アワビ属? (試料No. ②-9) 3. バカガイ右殻 (試料No. ②-2)

(3) 方法

断面観察 蛍光X線分析を行った後、包埋し、厚さ数 μm になるまで# 80、# 120、# 240、# 1500、# 4000、# 6000、# 10000の耐水紙やすりおよび研磨機 (FG-18: RYOBI) で研磨した。なお、包埋およびプレパラートへの接着は高透明エポキシ樹脂 (セメダインスーパー: セメダイン株式会社製) で行った。完成した試料を透過顕微鏡 (OPTIPHOTO-2: Nikon) および落射顕微鏡 (OPTIPHOTO-2: Nikon) で観察した。

蛍光X線分析 エネルギー分散型蛍光X線分析装置を用いて測定を行う。機器は Thermo Scientific 製可搬型蛍光X線分析装置 NITON SL2-950S Plus を使用した。測定条件は励起用X線ターゲットが Ag (銀)、測定モードは Soil モード、Mining モードの2種類を利用する。装置の測定径は8mm、計測時間はともに約60秒で、大気雰囲気下で測定した。原子番号12番のMg (マグネシウム) から92番のU (ウラン) までの元素の検出が可能である。

(4) 結果

漆器は内面は赤色、外面は底部が黒色、側面が赤色である。

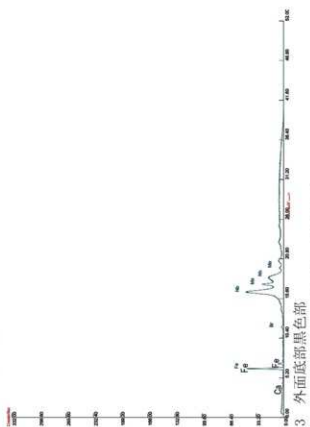
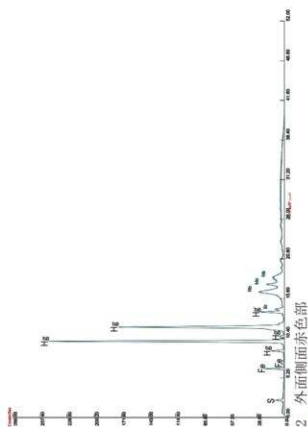
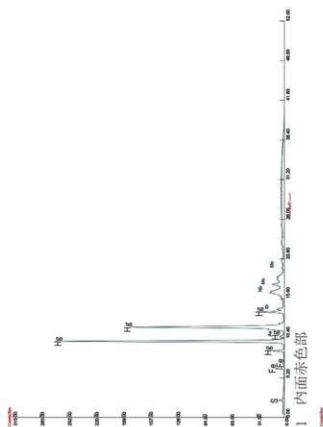
断面観察

・内面 赤色部

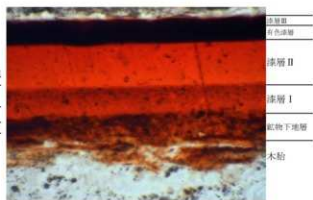
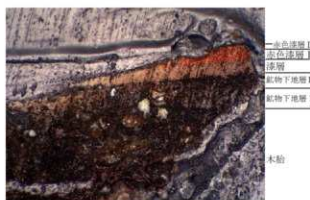
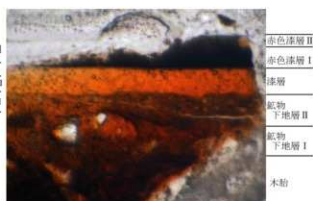
下位より木胎の上に下地層が2層、漆層が1層、赤色漆層が2層の5層が観察できた。下地層Ⅰは層厚23~113 μm で平坦ではなく、大きいもので径15 μm 程度の結晶鉱物が観察され、空隙には漆が観察された。結晶鉱物を偏光レンズを用いて観察すると、白から灰色へと変化しながら消光する石英、黄色や青色に変化しながら消光する黒雲母などが観察された。下地層Ⅱは層厚3~28 μm で上部が平坦で、径4 μm 程度の結晶鉱物が観察され、空隙には漆が観察された。結晶鉱物を偏光レンズを用いて観察すると、白から灰色へと変化しながら消光する石英などが観察された。漆層は層厚20 μm で平坦であり、不純物の無い透明な漆である。赤色漆層Ⅰは層厚17 μm で平坦であり、約径1 μm の赤色鉱物が観察され、空隙には漆が観察された。赤色漆層Ⅱは層厚10 μm で平坦であり、約径1 μm の赤色鉱物が観察され、空隙には漆が観察された。

・外面 黒色部

下位より木胎の上に下地層が1層、漆層が3層、有色漆層が1層の5層が観察された。下地層は15~31 μm で上部が平坦で、径4 μm 程度の結晶鉱物が観察



第23図 中館遺跡における蛍光X線分析結果



第24図 中館遺跡の塗膜分析写真

され、空隙には漆が観察された。結晶鉱物を偏光レンズを用いて観察すると、白から灰色へと変化しながら消光する石英などが観察された。漆層Ⅰは24 μ mで平坦であり、不純物の無い透明な漆層である。漆層Ⅱは37 μ mで平坦であり、不純物の無い透明な漆層である。有色漆層は層厚17 μ mで平坦であり、落射顕微鏡下では黒色、粒子は観察されない。漆層Ⅲは層厚12 μ mで平坦であり、落射顕微鏡下では乳黄色である。これは、下位の有色漆層の色が染み込んだため透過顕微鏡下では有色に観察されたのであり、不純物の無い漆層である。

蛍光X線分析 内面の赤色部、外面側面の赤色部、外面底部の黒色部、木胎の蛍光X線分析を行った。

赤色部では内面および外面側面共に水銀(Hg)のピークが高く検出され、硫黄(S)も検出される。外面底部黒色部では鉄(Fe)のピークが比較的高く検出される。木胎では目立って高く検出される元素は無いが、鉄(Fe)が検出される。

(5) 考察

・漆器Ⅲの地下層は内面で2層、外面底部では1層であり、粒子の異なる鉱物を用いた鉱物地下地であった。鉱物の粒径や観察状態から内面の鉱物地下地層Ⅱと外面底部の鉱物地下地層は同様のものと考えられる。なお、鉱物には石英が混じっていることから花崗岩などの風化土を用いた可能性が高い。また、鉱物地下地層Ⅰでは粒子が大きく粒径がまばらだが、鉱物地下地層Ⅱでは粒子が小さくほぼ均一のため、鉱物地下地層Ⅰでは地の粉、鉱物地下地層Ⅱではより細かく磨り潰した砥の粉を漆に混ぜたものを用いて地下塗りを行っている。多くの場合は地の粉、砥の粉に用いる土は珪藻土と言われるが、輪島、山科などでも用いられる。また、器の厚みが足りない部分に地の粉を用いた地下で厚みを持たせたものと考えられる。なお、下地に鉱物粒子を混ぜる漆下地は縄文時代から見られるが、それに並行して炭粉を漆に混ぜる炭粉漆下地も用いられてきた。平安時代中頃からはそれに加えて漆の代わりに柿渋を用いた安価な炭粉漆下地が主流となり、塗りの回数を1・2回にするなど製作工程を大幅に省略した漆器製品が流通するようになった(四柳2002)。そのため、下地に砥の粉、地

の粉を用いた漆下地は高価であったと考えられる。

・赤色部分は地下塗りを行った後、表面を研磨するなどで平坦にし、次に漆を塗布している。その後赤漆を2度塗布している。赤色に関しては水銀(Hg)、硫黄(S)が検出されていることから、水銀朱を漆に混ぜたいわゆる朱漆を用いている。また、最後の仕上げとしては木賊などで表面を磨いたものと考えられる。

・外面底部の黒色部では、地下塗りを行った後、表面を研磨するなどで平坦にし、次に漆を2度塗布し、黒色漆を塗布、最後に漆を塗布している。黒色は鉱物などの粒子が観察されなかったが、落射顕微鏡下では黒色を呈しており、他の測定点と比べると鉄(Fe)が比較的高く検出されたことから、漆に鉄粉を混ぜ酸化させることで漆黒にし、濾して鉄粉を回収した黒漆と考えられる。また、漆層Ⅲを塗布した後は木賊などで表面を磨いたものと考えられる。

(6) まとめ

本遺跡の漆器Ⅲは木胎を製作したのち、花崗岩を磨り潰した鉱物粒子を漆液に混ぜた地の粉漆下地でも木胎の傷や薄い部分を補強もしくは肉付けし、その後より細かく磨り潰した砥の粉漆下地で地下塗りをしたのち、表面を平坦に磨き、透き漆を塗っている。そして内面、外面の側面には朱漆を2度塗り、外面底部にはもう1度漆を塗ったのち鉄で酸化させた黒漆を塗布したのちに透き漆を塗布している。最後に木賊などで表面を磨き光沢が出るように仕上げたと考えられる。下地に鉱物粒子を利用し、また塗りの回数も多いため、高価な漆器製品であったと考えられる。

(金原 裕美子 一般社団法人 文化財科学研究センター)

5 中館遺跡における樹種同定

(1) はじめに

本報告では、遺跡より出土した木製品に対して、木材組織の特徴から樹種同定を行う。木製品の材料となる木材は、セルロースを骨格とする木部細胞の集合体であり、木材構造から概ね属レベルの同定が可能である。木材は、花粉などの微化石と比較して

移動性が少ないことから、比較的近隣の森林植生の推定が可能であるが、木製品では樹種による利用状況や流通を巡る手がかりにもなる。

(2) 試料と方法

試料は、漆器皿 (381)、折敷部材 (385・386)、箸 (384)、棒状製品 (383)、荷札 (382)、角材 (714) などの木製品 7 点である。

方法は、試料からカミソリを用いて新鮮な横断面 (木口と同義)、放射断面 (柾目と同義)、接線断面 (板目と同義) の基本三断面の切片を作製し、切片をマウントクイックアクエオス (Mount-Quick "Aqueous": 大道産業) で封入し、プレパラートを作製する。観察は生物顕微鏡 (OPTIPHOTO-2: Nikon) によって 40 ~ 1000 倍で行った。同定は、木材構造の特徴および現生標本との対比によって行った。

(3) 結果

第 19 表に結果を示し、主要な分類群の顕微鏡写真を第 25 図に示す。以下に同定根拠となった特徴を記す。マツ属複雑管束亜属 *Pinus* subgen. *Diploxylon* マツ科

仮道管、放射柔細胞、放射仮道管及び垂直、水平樹脂道などから構成される針葉樹材である。早材から晩材への移行は急な箇所と緩やかな箇所があり、垂直樹脂道が見られる。放射柔細胞の分野壁孔は窓状で、放射仮道管の内壁には鋸歯状肥厚が存在する。接線断面では、放射組織は単列の同性放射組織型であるが、水平樹脂道を含むものは紡錘形を呈する。

以上の特徴からマツ属複雑管束亜属に同定される。マツ属複雑管束亜属にはクロマツとアカマツがあり、どちらも北海道南部、本州、四国、九州に分布する常緑高木である。

ヒノキ *Chamaecyparis obtusa* Endl. ヒノキ科

仮道管、樹脂細胞および放射柔細胞から構成される針葉樹材である。早材から晩材への移行は緩やかで、晩材部の幅はきわめて狭い。樹脂細胞が見られる。放射柔細胞の分野壁孔は、ヒノキ型で 1 分野に 2 個存在する。放射組織は単列の同性放射組織型で、1 ~ 15 細胞高である。

以上の特徴からヒノキに同定される。ヒノキは福島県以南の本州、四国、九州、屋久島に分布する。日本産の常緑高木で、通常高さ 40 m、径 1.5 m に達する。

ケヤキ *Zelkova serrata* Makino ニレ科

年輪のはじめに大型の道管が 1 ~ 2 列配列する環孔材である。孔圏部外の小道管は多数複合して円形および接線状ないし斜線状に配列する。道管の穿孔は単穿孔で小道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。放射組織は異性放射組織型で上下の縁辺部の細胞のなかには大きく膨らんでいるものがある。幅は 1 ~ 7 細胞幅である。

以上の特徴からケヤキに同定される。ケヤキは本州、四国、九州に分布する。落葉の高木で、通常高さ 20 ~ 25 m、径 60 ~ 70 cm ぐらいであるが、大きいものは高さ 50 m、径 3 m に達する。

(4) 所見

同定の結果、中館遺跡の木製品はマツ属複雑管束亜属 1 点、ヒノキ 5 点、ケヤキ 1 点であった。

最も多いヒノキは、折敷部材、箸、棒状製品、荷札に利用されている。ヒノキは木理通直で大きな材が取れ、耐久・耐湿性も高く、保存性が高い材である。加工工作が容易な上、建築部材はもとより板材や小さな器具類に至るまで幅広く用いられる。本遺跡同様に折敷、箸、荷札にはよく用いられ、板状製品だけでなく柄や紡織具の一部などの棒状製品にもよく

第 19 表 樹種同定結果

No.	名称	R	出土遺構	結果 (学名/和名)
1	漆器皿	w001-01	暗褐色粘砂 (漆・木片多く混)	<i>Zelkova serrata</i> Makino ケヤキ
2	折敷部材	w001-02	暗褐色粘砂 (漆・木片多く混)	<i>Chamaecyparis obtusa</i> Endl. ヒノキ
3	折敷部材	w001-03	暗褐色粘砂 (漆・木片多く混)	<i>Chamaecyparis obtusa</i> Endl. ヒノキ
4	箸	w001-04	暗褐色粘砂 (漆・木片多く混)	<i>Chamaecyparis obtusa</i> Endl. ヒノキ
5	棒状製品	w001-05	暗褐色粘砂 (漆・木片多く混)	<i>Chamaecyparis obtusa</i> Endl. ヒノキ
6	荷札	w001-06	暗褐色粘砂 (漆・木片多く混)	<i>Chamaecyparis obtusa</i> Endl. ヒノキ
7	角材	w001-07	暗褐色漆層	<i>Pinus</i> subgen. <i>Diploxylon</i> マツ属複雑管束亜属

用いられる。なお、ヒノキないしヒノキ科の木材は律令期以降瀬戸内海から東海地方では流通し、最もよく用いられる。マツ属複雑管束亜属は木理はやや通直で、重硬で水湿によく耐え腐りにくく、建築部材の中では水湿の影響のある柱、礎板などに用いられる。本遺跡のマツ属複雑管束亜属の角材の大きさは比較的小さいため、大きさや鋸痕などから部材などの端材の可能性も考えられる。ケヤキは強靱で従曲性に富み、耐久・保存性が高く水湿にもよく耐え、建築、家具器具、船、土木などに広く用いられる。また、ケヤキは縄文時代以降現在まで伝統的に木地に用いられ、刳物および挽物の容器によく利用され、漆器では挽物が多く、本遺跡でも漆器皿に利用されている。

同定された樹種はいずれも温帯に分布する樹木であった。ヒノキは適潤性であるが乾燥した環境にも耐え、尾根、急峻地または岩盤上にも生育し、ケヤキは谷沿いや河辺などの適潤な肥沃地に生育する。マツ属複雑管束亜属は、土壌条件の悪い岩山に生育し二次林を形成するアカマツと、砂地の海岸林を形成するクロマツとがある。本遺跡で同定された樹木は当時遺跡周辺にも生育する樹木であるが、伊勢神宮外宮の門前町であることもあり、流通によってもたらされたと推定される。

(金原 美奈子 金原 裕美子

一般社団法人 文化財科学研究センター)

【引用文献・参考文献】

IV-2 引用文献

米倉浩司・梶田 忠 (2003-) BG Plants 和名-学名インデックス (YList), <http://ylist.info>

IV-3 参考文献

奥谷尚司編 (2000) 日本近海産貝類図鑑, 1173p, 東海大学出版会。

IV-4 参考文献

岡田文男 (1995) 古代出土漆器の研究—顕微鏡で探る材質と技法—, 京都書院, 191p。

四柳嘉章 (2002) 漆の技術と文化—出土漆の世界—, あらたな世界へ いくつもの日本Ⅱ, 岩波書店, p. 249-267,

四柳嘉章 (2006) 漆Ⅰ, ものとなりの文化史Ⅱ-Ⅰ, 法政大学, 252p。

四柳嘉章 (2006) 漆Ⅱ, ものとなりの文化史Ⅱ-Ⅱ, 法政大学, 435p。

四柳嘉章 (2018) 中世の技術転換と社会の動向, 国立歴史民俗博物館研究報告第210集, 国立歴史民俗博物館, p. 249-267。

IV-5 参考文献IV-3 参考文献

奥谷尚司編 (2000) 日本近海産貝類図鑑, 1173p, 東海大学出版会。

伊東隆夫 (1995) 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ, 木材研究・資料 第31号, 京都大学木材研究所・京都大学木質科学研究所, p. 81-181,

伊東隆夫・山田昌久 (2012) 木の考古学, 雄山閣, 449p。

佐伯浩・原田浩 (1985) 針葉樹材の細胞, 木材の構造, 永文堂出版, p. 20-48,

佐伯浩・原田浩 (1985) 広葉樹材の細胞, 木材の構造, 永文堂出版, p. 49-100,

島地謙・伊東隆夫 (1982) 図説木材組織, 地球社, 176p。

島地謙・伊東隆夫 (1988) 日本の遺跡出土木製品総覧, 雄山閣, 296p。



横断面

0.1mm



放射断面

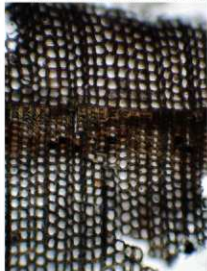
0.1mm



接線断面

0.1mm

1. No. 7 角材 w001-07 マツ属複雑管束亜属



横断面

0.1mm



放射断面

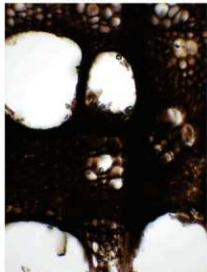
0.1mm



接線断面

0.1mm

2. No. 5 棒状製品 w001-05 ヒノキ



横断面

0.1mm



放射断面

0.1mm



接線断面

0.1mm

3. No. 1 漆器皿 w001-01 ケヤキ

第 25 図 中館遺跡の木材顕微鏡写真

VII 調査のまとめ

調査地となる外宮周辺（山田低地部）は市街化が進み、発掘調査は小規模で点的になされている程度である¹⁾。

今回は、山田低地部でも参宮街道と月夜見宮・外宮を結んだ交差点付近となる付近一帯での調査であった。点的かつ施工深までの調査であるため、限定的な情報しか得られなかったが、各調査坑の層序、出土遺物等を整理し、まとめたい。

1 遺跡の消長

点的な調査であるため、確認できた遺構は限られ、調査坑により出土遺物の多寡がある。時代毎に特徴をみていきたい。

古代以前は、現時点で遺構・遺物は確認できていない。今回の施工深度が当該時期の生活面まで達していない可能性がある。中世前期も遺構は認められず、遺跡西側に位置するR5-8で山茶碗を1点のみ確認した。当該期の遺物が希薄な状況は、高河原遺跡と類似している。

中世後期は、遺跡西寄りに位置するR5-6で土坑SK2を確認したものの、多くは、粘砂層や礫混層からなる河川堆積土である。当該期は河川の流量が少なくなり16世紀代で湿地状となったと考えられる。これらの堆積土には貝殻片の出土もみられた。出土貝殻片のうち遺跡南側西部R3-3の黒褐色粘質土から出土した貝殻は、同定結果からアカニシ・バカガイ・アワビ属等であることがわかった。これらの貝類は海岸部に生息するもので、食用などの後に投棄されたものと思われる。

遺物は遺跡南側にあたるR3-2・3、R4-1～4で、粘砂層から多量に出土した。時期は16世紀代のものが多い。これらの遺物も不要となったところで投棄されたのではないかと推定される。

近世は、基本的にはシルト層ないしは粘質土層からなる整地層で、場所により炭層、焼土層を確認している。17世紀以降、造成を繰り返していたようである。ただ、遺跡西寄りに位置するR5-3は礫混じりの粘砂層となっており、多量の土師器皿類が

出土した。地点により多量の出土遺物を包含する状況は中世後期と類似している。

2 出土遺物の特徴

調査面積の割に中世後期及び近世の遺物が多く出土した。また、地点により出土遺物の多寡があった。特に出土量の多かった層序について抽出し、出土遺物の特徴をみていきたい（第20表・第26図）²⁾。

【中世後期】 R3-2 黒褐色粘質土、R4-2 黒褐～褐色粘砂、R4-4 褐灰色粘砂を抽出した。

土師器 ほぼ南伊勢系土師器である。器種は皿が圧倒的に多く、鍋・羽釜等の煮炊具も一定量みられる。

陶器 ほぼ瀬戸美濃産で、常滑産が少量みられる。皿類が多く、折縁深皿や直縁大皿等の鉢類が一定量みられる。碗類は少ないが天目茶碗、丸碗小片などがみられる。また、志野釉のかかる皿類や向付の出土量が一定量認められる。

磁器 白磁・青花等の中国産磁器が一定量を占める。中でも白磁D群・E群、青花皿B群・C群の出土が目立つ。青磁は碗小片が出土する程度で少ない。

【近世】 R5-3 青灰色粘砂を抽出した。

土師器 中世後期と同じ傾向でほぼ南伊勢系土師器である。器種は圧倒的に皿が多い。羽釜はほぼなくなり、台付皿や焙烙などの器種がみられるようになる。焙烙は径20cm以下の小形のものが比較的多い。

陶器 瀬戸美濃産・常滑産がみられるが、中世後期よりは出土量が少ない。皿、鉢類が一定量みられる。

磁器 中国産磁器は少なくなり、肥前産碗・皿が多くを占める。

中世後期・近世共に南伊勢系土師器が出土遺物の多くを占め、中でも皿が圧倒的な量を占める。陶器は古瀬戸・瀬戸美濃産を主体とし、碗・皿・鉢・壺類が一定量認められる。特に鉢類の出土量が多い傾向にある。磁器は中世後期において中国産が多く、近世においては肥前産に変わる傾向がみられた。

3 まとめ

今回の調査で、中世後期及び近世を中心とした遺物が出土した。明確な遺構は僅かであるが、中世後期から近世にかけて、流路から徐々に陸地化した様子が確認できた。本遺跡の状況は、同じ山田低地部となる高河原遺跡の調査成果を補填する形となった²⁾。高河原遺跡と比較して異なるのは、中世後期の遺物量が多い点である。これは、中館遺跡周辺の陸地化した段階が高河原遺跡より早い時期であったことを示している。調査地点が、山田低地部でもより中心に近いことに起因すると思われる。

(原田)

【註】

1) 当該地域の調査としては、伊勢市宮後・歌上の高河原遺跡のほか伊勢市史編纂に伴う試掘調査がなされている程度である。《三重県埋蔵文化財センター2015『高河原遺跡発掘調査報告』、伊勢市2011『第5章試掘調査遺跡』『伊勢市史』第6巻考古編》

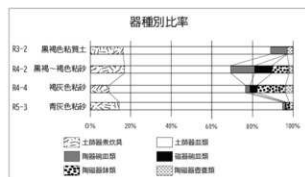
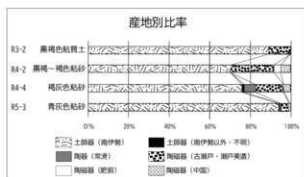
2) 掲載遺物のうち、多数出土した層序にあたるものを産地・器種別に集計したものが、第20表・第26図である。接合後の破片数で計上している。なお、未掲載遺物も含めた場合、南伊勢系土師器皿類が圧倒的に多く、その比率が更に上がることが想定される。

3) 三重県埋蔵文化財センター2015『VI高河原遺跡と近世都市山田～調査のまとめと検討～』『高河原遺跡発掘調査報告』

第20表 中館遺跡主な出土土器組成

調査区	層序	土師器														陶器（古瀬戸・瀬戸系遺物）									
		高河原（伊勢）		高河原（伊勢）		高河原（伊勢）		高河原（伊勢）		高河原（伊勢）		高河原（伊勢）		高河原（伊勢）		高河原（伊勢）		高河原（伊勢）		高河原（伊勢）		高河原（伊勢）		高河原（伊勢）	
		土師器	土師器	土師器	土師器	土師器	土師器	土師器	土師器	土師器	土師器	土師器	土師器	土師器	土師器	土師器	土師器	土師器	土師器	土師器	土師器	土師器	土師器	土師器	土師器
R3-2	黒褐色粘質土	2	1	4	5	11	0	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1
R4-2	黒褐色～褐色粘砂	7	7	17	3	8	0	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2
R4-4	褐色～褐色粘砂	1	0	23	0	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R5-3	青灰色粘砂	5	10	25	33	24	0	10	16	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2

調査区	層序	瀬戸（伊勢）				瀬戸（伊勢外）				瀬戸（尾道）				瀬戸（尾道外）			
		高河原（伊勢）		高河原（伊勢外）		高河原（伊勢外）		高河原（伊勢外）		高河原（伊勢外）		高河原（伊勢外）		高河原（伊勢外）			
		土師器	土師器	土師器	土師器	土師器	土師器	土師器	土師器	土師器	土師器	土師器	土師器	土師器	土師器	土師器	
R3-2	黒褐色粘質土	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
R4-2	黒褐色～褐色粘砂	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
R4-4	褐色～褐色粘砂	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
R5-3	青灰色粘砂	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	



第26図 中館遺跡出土遺物の各比率

写真図版



主要地方道伊勢南島線 外宮北交差点付近（西から）



令和3年度 調査坑No.1 伊勢市観光協会付近（北から）



調査坑 R 3 - No.1 (南から)



調査坑 R 3 - No.2 (東から)



調査坑 R 3 - No.3 (西から)



調査坑 R 3 - No.4 (東から)



調査坑 R 4 - No.4 東壁面土層 (西から)



調査坑 R 4 - No.4 土器出土状況



調査坑 R 5 - No.2 東壁面土層 (西から)



調査坑 R 5 - No.2 土器出土状況



出土遺物 1



出土遺物 2





221



222



225



230



240



245



280



297



299



301



308



309



313



322



325



326



331



341

出土遺物 4





出土遺物 6





出土遺物 8



出土遺物 9・出土貝類

報告書抄録

[illegible]

三重県埋蔵文化財調査報告書424

中館遺跡発掘調査報告

2025（令和7）年3月

編集 三重県埋蔵文化財センター
発行
印刷 株式会社 アイブレーン
